

令和2年度 東邦音楽大学 パフォーマンス総合芸術文化専攻 シラバス

— 目 次 —

基礎教育科目(外国の言語と文化を含む)

東邦スタンダードA	3
東邦スタンダードB	5
芸術文化とユネスコA	7
芸術文化とユネスコB	9
文化芸術論A	11
文化芸術論B	13
日本国憲法と生活A	15
日本国憲法と生活B	17
ひとを読み解く科学A	19
ひとを読み解く科学B	21
情報スキルA	23
情報スキルB	25
Basic English 1	27
Basic English 2	29
Advanced English 1	31
Advanced English 2	33
Communication Skills I A	35
Communication Skills I B	37
Advanced Communication Skills I A	39
Advanced Communication Skills I B	41
Communication Skills II A	43
Communication Skills II B	45
Advanced Communication Skills II A	47
Advanced Communication Skills II B	49
Career English A	51
Career English B	53
English Presentation A	55
English Presentation B	57
ドイツ語圏異文化コミュニケーション A	59
ドイツ語圏異文化コミュニケーション B	61

音楽専門教育科目・共通専門教育科目

作曲家の肖像と作品の魅力ⅠA	63
作曲家の肖像と作品の魅力ⅠB	65
作曲家の肖像と作品の魅力ⅡA	67
作曲家の肖像と作品の魅力ⅡB	69
日本音楽史	71
西洋音楽史	73
エンタメビジネスA	75
エンタメビジネスB	77
ライブパフォーマンス&スタッフワークA	79
ライブパフォーマンス&スタッフワークB	81
日本の伝統音楽概説A	83
日本の伝統音楽概説B	85
音楽の基礎理論A	87
音楽の基礎理論B(基礎和声を含む)	89
キャリア・クリエイティブ・メソッドA	91
キャリア・クリエイティブ・メソッドB	93
P. A. C. S 1	95
P. A. C. S 2	97
P. A. C. S 3	99
P. A. C. S 4	101
P. A. C. S 5	103
P. A. C. S 6	105
ポップス・ボーカルアプローチA	107
ポップス・ボーカルアプローチB	109
エンタメプロデュースA	111
エンタメプロデュースB	113
ステージングとパフォーマンス	115
演技とパフォーマンス	117
THE 業界人(仕事の流儀)ⅠA	119
THE 業界人(仕事の流儀)ⅠB	121
THE 業界人(仕事の流儀)ⅡA	123
THE 業界人(仕事の流儀)ⅡB	125
セルフプロデュースパフォーマンスA	127
セルフプロデュースパフォーマンスB	129
人間教育科目	
ヒューマンコミュニケーション1・2・3・4	131
インターンシップⅠ	133
インターンシップⅡ	135
オンエアプロデュースA	137
オンエアプロデュースB	139

科目名(クラス)	東邦スタンダードA			開講学期	前期	単位数	2	配当年次	1
担当教員	武藤直美 粕谷麻里乃	実務家教員		履修対象・条件	全専攻必修				
【授業の概要】		(360文字以内)							
学生生活の過ごし方やスタディスキルを中心に展開する。学生生活、大学での学びの楽しさを知り、知的探求の面白さに気付くこと、自分の立ち位置を認識し、教員や友人を始めとする、周囲の人々と円滑なコミュニケーションがとれるようになることを目指す。									
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	○	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	○	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能			課題の発見、分析、解決力			国際感覚	社会的責任・リーダーシップ
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク	○
【授業の到達目標】		(360文字以内)							
学生生活の基礎的知識を把握することができる。 スタディスキルを身につける。 コミュニケーション・スキルを身につけ、日常生活で活用することができる。									
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)							
講義、個人及びグループでのワーク、グループ討議と発表									
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)							
学生が主体的、能動的に取り組むことにより、共に作り上げていく授業である。一人一人が積極的に授業に貢献しようと心がけること。									
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)							
下記の基準に従い、総合的に評価をする。 ・前期授業初回および最終回に記入するポートフォリオ (30%) ・セメスター終了時に課すレポート (40%) ・授業への取り組み (30%)									
教科書	授業時に大学作成のテキストを配布。				著者等		出版社		
教科書					著者等		出版社		
参考文献					著者等		出版社		
参考文献					著者等		出版社		
【オフィスアワー】									
①曜日(月・火・水・木・金・土) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する									
②時間帯(時 分 ~ 時 分) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する									

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	オリエンテーション ・東邦スタンダードとは ・前期目標設定(ポートフォリオ、目標設定シート記入) ・学生生活について	予習:本授業のシラバス、学生サポートハンドブックの関連項目に目を通す。 復習:前期の目標をもとに学生生活の計画をたてる。
第2回	キャリア支援センターの活用法	予習:学生サポートハンドブックの関連項目に目を通す。 復習:キャリア支援センターを実際に訪れる。インターンシップ等検討する。
第3回	防犯講話 ・学生生活における防犯上の諸注意 ・大麻(薬物)の危険性と犯罪について	予習:最近の事件について知る。 復習:防犯意識を持つ。配布資料に詳しく目を通し、理解・定着に努める。
第4回	企業訪問 ・『実業に学ぶ』	予習:訪問先への質問を考える。 復習:訪問先での経験に基づき、印象に残ったこと、気づいたことをまとめる。
第5回	高校生から大学生へ ・大学生の学び方 ・聴く態度 ・グループ討議入門	予習:大学入学後の学び方を振り返る。 復習:配布資料に詳しく目を通し、理解・定着に努める。日々の学生生活での実践に努める。
第6回	大学生としてのマナー ・学生生活の基本 ・コミュニケーション力	予習:自身の普段の振る舞いを振り返る。 復習:配布資料に詳しく目を通し、理解・定着に努める。日々の学生生活での実践に努める。
第7回	授業の受け方 ・受講態度について ・ノートテイクの基本 ・新聞の読み方 ・情報収集の仕方	予習:自身の授業への取り組みや情報収集の仕方について振り返る。 復習:配布資料に詳しく目を通し、理解・定着に努める。日々の学生生活での実践に努める。新聞に目を通す習慣を身に付ける。
第8回	消費生活講座 ・ネットトラブル、架空請求等の悪徳商法の被害を防ぐために	予習:ネットに関わる身近な事件について知る。自身の経験などを振り返る。 復習:配布資料に詳しく目を通し、理解・定着に努める。日常生活でトラブルにならないように講話を生かす。
第9回	労働法セミナー ・アルバイト等「労働」する場合のルール、働く人の持つ権利等について	予習:労働問題について知識を得る。 復習:配布資料に詳しく目を通し、理解・定着に努める。実際のアルバイトや仕事において学んだ知識を生かす。
第10回	情報検索 ・図書館の活用方法 ・資料検索の方法 ・ネット検索の仕方	予習:図書館を探索する。 復習:検索方法を習得し、日々の勉強に役立てるように努める。
第11回	レポートの書き方 ・レポート提出の流れ ・レポートを書く上での注意	予習:文書を書く時の様式や構成について考える。 復習:配布資料に詳しく目を通し、理解・定着に努める。日々の学生生活での実践に努める。
第12回	講話 「音楽に関わる仕事」1	予習:質問事項をまとめておく。 復習:勉強させていただいたことを整理する。
第13回	講話 「音楽に関わる仕事」2	予習:質問事項をまとめておく。 復習:勉強させていただいたことを整理する。
第14回	コミュニケーションの基本 ・コミュニケーションの重要性 ・アサーション ・質問力	予習:自身のコミュニケーションの取り方について振り返る。 復習:配布資料に詳しく目を通し、理解・定着に努める。日々の学生生活での実践に努める。
第15回	まとめ ・ポートフォリオ作成 ・夏休みの計画	予習:初回授業のポートフォリオを思い返し、前期の学生生活を具体的に振り返る。 復習:学んだ内容を自身の生活に生かす。

科目名(クラス)	東邦スタンダードB			開講学期	後期	単位数	2	配当年次	1	
担当教員	武藤直美 粕谷麻里乃	実務家教員		履修対象・条件	全専攻必修					
【授業の概要】		(360文字以内)								
学生生活の過ごし方やスタディスキルを中心に展開する。学生生活、大学での学びの楽しさを知り、知的探求の面白さに気付くこと、自分の立ち位置を認識し、教員や友人を始めとする、周囲の人々と円滑なコミュニケーションがとれるようになることを目指す。										
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	○	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	○	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力	
		専攻分野中心の知識と技能			課題の発見、分析、解決力			国際感覚	社会的責任・リーダーシップ	
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク	○	
【授業の到達目標】		(360文字以内)								
学生生活の基礎的知識を把握することができる。 スタディスキルを身につける。 コミュニケーション・スキルを身につけ、日常生活で活用することができる。										
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)								
講義、個人及びグループでのワーク、グループ討議と発表										
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)								
学生が主体的、能動的に取り組むことにより、共に作り上げていく授業である。一人一人が積極的に授業に貢献しようと心がけること。 ※下記シラバス記載の内容は予定であり、事情によりやむを得ず順番が前後することがあります。 変更は適宜授業時にお伝えします。										
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)								
下記の基準に従い、総合的に評価をする。 ・後期授業初回および最終回に記入するポートフォリオ(30%) ・セメスター終了時に課すレポート(40%) ・授業への取り組み(30%)										
教科書	授業時に大学作成のテキストを配布。				著者等		出版社			
教科書					著者等		出版社			
参考文献					著者等		出版社			
参考文献					著者等		出版社			
【オフィスアワー】										
①曜日(月・火・水・木・金・土) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する										
②時間帯(時 分 ~ 時 分) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する										

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	学生生活における危機管理 ・夏休みの振り返り ・後期目標	予習: 学生サポートハンドブックの関連項目に目を通す。 復習: 避難経路を確認する。日頃から防災意識を高める。
第2回	振り返りと目標設定 ・夏休みの振り返り ・後期目標設定(ポートフォリオ記入)	予習: 夏休みを振り返り、活動の記録や気づいたことをまとめる。 復習: 後期の目標を踏まえて学修計画を立てる。
第3回	タイムマネジメント ・計画・進捗管理 ・PDCAサイクル	予習: 日頃の自身の時間管理を振り返る。 復習: 配布資料に詳しく目を通し、理解・定着に努める。日々の学生生活での実践に努める。
第4回	年金講座 ・国民年金について	予習: 様々なメディアを用いて、年金について関心を深める。 復習: 配布資料に詳しく目を通し、理解・定着に努める。
第5回	大学生のためのマネー講座 税金の仕組み	予習: 様々なメディアを用いて、税金の仕組みについて知る。 復習: 配布資料に詳しく目を通し、理解・定着に努める。
第6回	伝える力1 ・話し方チェック PREP法 YES・BUT法 円滑なコミュニケーションを図る話し方、相手に伝わりやすい話し方	予習: 日頃の自身のコミュニケーションについて振り返る。 復習: 授業で学んだ内容を日常生活の中で実際に応用して実践する。
第7回	情報リテラシー ・情報収集における留意点 ・SNS等の利用マナー、文献引用のルールについて	予習: 自身インターネット、特にSNSの使い方について振り返る。 復習: 学習の内容を日常生活に生かし実践する。
第8回	伝える力2 ・雑談力を高める コミュニケーションをより円滑にするための「雑談」実践ワーク	予習: 日頃の自身のコミュニケーションについて振り返る。 復習: 授業で学んだ内容を日常生活の中で実際に応用して実践する。
第9回	グループディスカッション1 ・グループディスカッションの進め方	予習: これまで経験してきた自身の話し合いへの取り組み方について振り返る。 復習: 授業で学んだ内容を日常生活の中で実際に応用して実践する。
第10回	伝わる書き方 ・文章表現の基本	予習: 自身の文章表現について振り返る。 復習: 配布資料に詳しく目を通し、理解・定着に努める。日々の学生生活での実践に努める。
第11回	海外経験者の体験談を聴く	予習: 講師への質問を考えておく。 復習: 印象に残ったこと、気づいたことをまとめる。
第12回	質問力を身に付けよう ・良い質問とは(インタビューワーク)	予習: 自身の質問の仕方を振り返る。 復習: 配布資料に詳しく目を通し、理解・定着に努める。日々の学生生活での実践に努める。
第13回	プレゼンテーション基礎 ・プレゼンテーションの基礎知識 プレゼンテーションワーク ・グループワーク	予習: 自身の質問の仕方を振り返る。 復習: 配布資料に詳しく目を通し、理解・定着に努める。日々の学生生活での実践に努める。
第14回	グループディスカッション2 ・ディスカッションワーク ・個人ワーク ・プレゼンテーション	予習: これまで経験してきた自身の話し合いへの取り組み方について振り返る。 復習: 授業で学んだ内容を日常生活の中で実際に応用して実践する。
第15回	まとめ ・ポートフォリオ作成	予習: 初回授業のポートフォリオを思い返し、後期の学生生活を具体的に振り返る。 復習: 学んだ内容を自身の生活に生かす。

科目名(クラス)	芸術文化とユネスコA			開講学期	前期	単位数	2	配当年次	2		
担当教員	城之内 ミサ	実務家教員	○	履修対象・条件	パフォーマンス総合芸術文化専攻						
【授業の概要】		(360文字以内)									
ユネスコとは、United Nations Educational, Scientific and Cultural Organization といい、その頭文字をとってU.N.E.S.C.O.＝略してユネスコと言われている国際連合の教育科学文化機関です。世界遺産でも有名なユネスコは、国連の中では唯一「文化」を担っており、文化の中には「芸術」としてのカテゴリーで音楽も含まれることから、音楽家にとっても非常に馴染み深い機関です。 ユネスコの取り組みや世界遺産の在り方、無形文化遺産等含む「文化とはなにか」について学び、心を豊かにする「旅」や「ホスピタリティとしての観光とはなにか」を考査していきながら、世界の平和についてを考える授業。											
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力		思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力		意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢		生涯学習力	
		専攻分野中心の知識と技能			課題の発見、分析、解決力	○		国際感覚	○	社会的責任・リーダーシップ	
		広範な文化の理解	○		プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク			
【授業の到達目標】		(360文字以内)									
ユネスコ事務局長を務めた講師や世界遺産検定のプロ、ユネスコ平和芸術家等からユネスコの取り組みを学ぶことで、異文化を理解し国際社会に目を向け、文化というカテゴリーでの新しい芸術(エンタメ含む)を通して世界に通用するパフォーマー、プロデューサー等になることができる。 また、講師からの一方的な講義だけでなく講師の世界観について対話しながら、受講生たちが授業に主体的に参加し、自ら、あるいはグループワークを通して深く考えながら課題を解決する力を養うことができる。											
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)									
講義形式が主ですがグループワークやDVD,CD等の鑑賞も取り入れます											
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)									
異文化の歴史や文明、発展を学ぶ中、馴染みのない国や地域の話があると思いますが、国際人として活躍する各講師の経験に心を開いてご自身の「国際人」としての視野を広げることを目標とする。遅刻早退は原則的に認めません。											
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)									
課題、授業への積極性、受講態度を総合的に評価する。											
教科書					著者等			出版社			
教科書					著者等			出版社			
参考文献					著者等			出版社			
参考文献					著者等			出版社			
【オフィスアワー】											
①曜日(月 ・ 火 ・ 水 ・ 木 ・ 金 ・ 土) ※赤字が実施曜日											
②時間帯 14:20～14:50 14:55～15:25 15:30～16:00 17:00～18:00 * PACS業界の先生方は全て城之内管轄でまとめる											

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	講師:松浦晃一郎 ユネスコの取り組み～世界の情勢	前期、後期を通し、世界遺産の場所や佇まい、民族や文化等を予習し、都度の講師の授業内容を反すう。また世界の平和や人類の役割について自身の考えを持てるよう復習。
第2回	講師:松浦晃一郎 ユネスコ世界遺産定義、外交1	前期、後期を通し、世界遺産の場所や佇まい、民族や文化等を予習し、都度の講師の授業内容を反すう。また世界の平和や人類の役割について自身の考えを持てるよう復習。
第3回	講師:松浦晃一郎 ユネスコ世界遺産定義、外交2	前期、後期を通し、世界遺産の場所や佇まい、民族や文化等を予習し、都度の講師の授業内容を反すう。また世界の平和や人類の役割について自身の考えを持てるよう復習。
第4回	講師:松浦晃一郎 ユネスコ世界遺産定義、外交3	前期、後期を通し、世界遺産の場所や佇まい、民族や文化等を予習し、都度の講師の授業内容を反すう。また世界の平和や人類の役割について自身の考えを持てるよう復習。
第5回	講師:城之内ミサ ユネスコのイメージを絵画や音楽で伝える～世界的画伯・濱野年宏氏の世界観	前期、後期を通し、世界遺産の場所や佇まい、民族や文化等を予習し、都度の講師の授業内容を反すう。また世界の平和や人類の役割について自身の考えを持てるよう復習。
第6回	講師:松浦晃一郎 ユネスコ無形文化遺産～未来へと繋ぐ文化芸術	前期、後期を通し、世界遺産の場所や佇まい、民族や文化等を予習し、都度の講師の授業内容を反すう。また世界の平和や人類の役割について自身の考えを持てるよう復習。
第7回	講師:宮澤光 世界遺産を「学ぶ」とは	前期、後期を通し、世界遺産の場所や佇まい、民族や文化等を予習し、都度の講師の授業内容を反すう。また世界の平和や人類の役割について自身の考えを持てるよう復習。
第8回	講師:宮澤光 世界遺産条約とユネスコの平和理念	前期、後期を通し、世界遺産の場所や佇まい、民族や文化等を予習し、都度の講師の授業内容を反すう。また世界の平和や人類の役割について自身の考えを持てるよう復習。
第9回	講師:宮澤光 京都と奈良は何が違う? 世界遺産登録基準について	前期、後期を通し、世界遺産の場所や佇まい、民族や文化等を予習し、都度の講師の授業内容を反すう。また世界の平和や人類の役割について自身の考えを持てるよう復習。
第10回	講師:宮澤光 京都とパリ、奈良とローマ 世界遺産としての共通点と相違点	前期、後期を通し、世界遺産の場所や佇まい、民族や文化等を予習し、都度の講師の授業内容を反すう。また世界の平和や人類の役割について自身の考えを持てるよう復習。
第11回	講師:城之内ミサ シタール奏者 サワン・ジョシさんを迎えて	前期、後期を通し、世界遺産の場所や佇まい、民族や文化等を予習し、都度の講師の授業内容を反すう。また世界の平和や人類の役割について自身の考えを持てるよう復習。
第12回	講師:宮澤光 イタリアの世界遺産(1) 「ローマの歴史地区」ほか	前期、後期を通し、世界遺産の場所や佇まい、民族や文化等を予習し、都度の講師の授業内容を反すう。また世界の平和や人類の役割について自身の考えを持てるよう復習。
第13回	講師:宮澤光 イタリアの世界遺産(2) 「フィレンツェの歴史地区」ほか	前期、後期を通し、世界遺産の場所や佇まい、民族や文化等を予習し、都度の講師の授業内容を反すう。また世界の平和や人類の役割について自身の考えを持てるよう復習。
第14回	講師:片山邦夫 旅の文化―「サービスとホスピタリティ」 旅行の歴史 異文化体験(風土と食文化) 世界で通じる外国語とは	前期、後期を通し、世界遺産の場所や佇まい、民族や文化等を予習し、都度の講師の授業内容を反すう。また世界の平和や人類の役割について自身の考えを持てるよう復習。
第15回	講師:宮澤光 フランスの世界遺産(1) 「パリのセーヌ河岸」ほか	前期、後期を通し、世界遺産の場所や佇まい、民族や文化等を予習し、都度の講師の授業内容を反すう。また世界の平和や人類の役割について自身の考えを持てるよう復習。

科目名(クラス)	芸術文化とユネスコB			開講学期	後期	単位数	2	配当年次	2		
担当教員	城之内 ミサ	実務家教員	○	履修対象・条件	パフォーマンス総合芸術文化専攻						
【授業の概要】		(360文字以内)									
ユネスコとは、United Nations Educational, Scientific and Cultural Organization といい、その頭文字をとってU.N.E.S.C.O.＝略してユネスコと言われている国際連合の教育科学文化機関です。世界遺産でも有名なユネスコは、国連の中では唯一「文化」を担っており、文化の中には「芸術」としてのカテゴリーで音楽も含まれることから、音楽家にとっても非常に馴染み深い機関です。 そのユネスコの取り組みや世界遺産の在り方、無形文化遺産等含む「文化とはなにか」について学び、心を豊かにする「旅」や「ホスピタリティとしての観光とはなにか」を考查していきながら、世界の平和についてを考える授業。											
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力		思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力		意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢		生涯学習力	
		専攻分野中心の知識と技能			課題の発見、分析、解決力	○		国際感覚	○	社会的責任・リーダーシップ	
		広範な文化の理解	○		プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク			
【授業の到達目標】		(360文字以内)									
ユネスコ事務局長を務めた講師や世界遺産検定のプロ、ユネスコ平和芸術家等からユネスコの取り組みを学ぶことで、異文化を理解し国際社会に目を向け、文化というカテゴリーでの新しい芸術(エンタメ含む)を通して世界に通用するパフォーマー、プロデューサー等になることができる。 また、講師からの一方向的な講義だけでなく講師の世界観について対話しながら、受講生たちが授業に主体的に参加し、自ら、あるいはグループワークを通して深く考えながら課題を解決する力を養うことができる。											
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)									
講義形式が主ですがグループワークやDVD,CD等の鑑賞も取り入れます											
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)									
異文化の歴史や文明、発展を学ぶ中、馴染みのない国や地域の話があると思いますが、国際人として活躍する各講師の経験に心を開いてご自身の「国際人」としての視野を広げることを目標とする。遅刻早退は原則的に認めません。											
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)									
課題、授業への積極性、受講態度を総合的に評価する。											
教科書					著者等			出版社			
教科書					著者等			出版社			
参考文献					著者等			出版社			
参考文献					著者等			出版社			
【オフィスアワー】											
①曜日(月 ・ 火 ・ 水 ・ 木 ・ 金 ・ 土) ※赤字が実施曜日											
②時間帯 14:20～14:50 14:55～15:25 15:30～16:00 17:00～18:00 * PACS業界の先生方は全て城之内管轄でまとめる											

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	講師:宮澤光 フランスの世界遺産(2)「ロワール渓谷」ほか	前期、後期を通し、世界遺産の場所や佇まい、民族や文化等を予習し、都度の講師の授業内容を反すう。また世界の平和や人類の役割について自身の考えを持てるよう復習。
第2回	講師:片山邦夫 旅の魅力ー「格安ツアーをVIPツアーに変える」 パッケージツアーと個人手配旅行 パッケージツアー比較 ツアーパンフレットを読み解く	前期、後期を通し、世界遺産の場所や佇まい、民族や文化等を予習し、都度の講師の授業内容を反すう。また世界の平和や人類の役割について自身の考えを持てるよう復習。
第3回	講師:宮澤光 中国の世界遺産 「北京の故宮」ほか	前期、後期を通し、世界遺産の場所や佇まい、民族や文化等を予習し、都度の講師の授業内容を反すう。また世界の平和や人類の役割について自身の考えを持てるよう復習。
第4回	講師:紀藤正樹 世界の文化と宗教	前期、後期を通し、世界遺産の場所や佇まい、民族や文化等を予習し、都度の講師の授業内容を反すう。また世界の平和や人類の役割について自身の考えを持てるよう復習。
第5回	講師:宮澤光 オーストラリアの世界遺産 「シドニーのオペラハウス」ほか	前期、後期を通し、世界遺産の場所や佇まい、民族や文化等を予習し、都度の講師の授業内容を反すう。また世界の平和や人類の役割について自身の考えを持てるよう復習。
第6回	講師:紀藤正樹 相互理解	前期、後期を通し、世界遺産の場所や佇まい、民族や文化等を予習し、都度の講師の授業内容を反すう。また世界の平和や人類の役割について自身の考えを持てるよう復習。
第7回	講師:宮澤光 アメリカの世界遺産 「イエロストーン国立公園」ほか	前期、後期を通し、世界遺産の場所や佇まい、民族や文化等を予習し、都度の講師の授業内容を反すう。また世界の平和や人類の役割について自身の考えを持てるよう復習。
第8回	講師:宮澤光 メキシコの世界遺産 「テオティワ坎の古代都市」ほか	前期、後期を通し、世界遺産の場所や佇まい、民族や文化等を予習し、都度の講師の授業内容を反すう。また世界の平和や人類の役割について自身の考えを持てるよう復習。
第9回	講師:紀藤正樹 世界と法律～民族多様性～人権	前期、後期を通し、世界遺産の場所や佇まい、民族や文化等を予習し、都度の講師の授業内容を反すう。また世界の平和や人類の役割について自身の考えを持てるよう復習。
第10回	講師:宮澤光 映画と世界遺産	前期、後期を通し、世界遺産の場所や佇まい、民族や文化等を予習し、都度の講師の授業内容を反すう。また世界の平和や人類の役割について自身の考えを持てるよう復習。
第11回	講師:宮澤光 クリスマスと世界遺産	前期、後期を通し、世界遺産の場所や佇まい、民族や文化等を予習し、都度の講師の授業内容を反すう。また世界の平和や人類の役割について自身の考えを持てるよう復習。
第12回	講師:城之内ミサ 中国琵琶 シャオロンさんを迎えて	前期、後期を通し、世界遺産の場所や佇まい、民族や文化等を予習し、都度の講師の授業内容を反すう。また世界の平和や人類の役割について自身の考えを持てるよう復習。
第13回	講師:宮澤光 ユネスコと世界遺産～まとめと発表	前期、後期を通し、世界遺産の場所や佇まい、民族や文化等を予習し、都度の講師の授業内容を反すう。また世界の平和や人類の役割について自身の考えを持てるよう復習。
第14回	講師:片山邦夫 旅の感動ー「これからの旅行のトレンド」 サステナブルツーリズム 海外クルーズ 訪日外国人旅行	前期、後期を通し、世界遺産の場所や佇まい、民族や文化等を予習し、都度の講師の授業内容を反すう。また世界の平和や人類の役割について自身の考えを持てるよう復習。
第15回	講師:城之内ミサ ユネスコ平和芸術家とは	前期、後期を通し、世界遺産の場所や佇まい、民族や文化等を予習し、都度の講師の授業内容を反すう。また世界の平和や人類の役割について自身の考えを持てるよう復習。

科目名(クラス)	文化芸術論A			開講学期	前期	単位数	2	配当年次	全
担当教員	相良 憲昭	実務家教員	○	履修対象・条件	パフォーマンス総合芸術文化専攻				
【授業の概要】		(360文字以内)							
「文化とは何か」？この問いに答えることがこの授業の主な目標である。いうまでもなく、芸術は文化の重要な一部分であるが、芸術イコール文化ではない。宗教も言語もまた文化の重要な要素である。端的に言えば、文化とは人の営みのすべてである。だから、文化とは崇高なもの、美しいものばかりではない。文化は人を殺すこともありうる。人類の長い歴史の中では、文化が戦争の引き金になった例がいくらかで見られる。「文化とは何か」を問うことはまた、「人とは何か」を問うことでもある。									
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力		思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力		意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能			課題の発見、分析、解決力	○		国際感覚	社会的責任・リーダーシップ
		広範な文化の理解	○		プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク	
【授業の到達目標】		(360文字以内)							
人の営みとして極めて重要である「文化」がもつ様々な側面を考察し、理解を深めることによって、学生一人一人が芸術文化の理想的な姿をイメージできるようになってほしい。									
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)							
講義中心の授業であるが、学生同士の討議・討論も試してみたい。									
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)							
自分の考えを他者に伝えることに積極的であってほしい。									
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)							
授業に臨む態度や試験、レポートなどを総合的に評価する。									
教科書	使用しない。				著者等		出版社		
教科書					著者等		出版社		
参考文献	『文化学講義』 他				著者等	相良憲昭	出版社	世界思想社	
参考文献					著者等		出版社		
【オフィスアワー】									
①曜日(月 ・ 火 ・ 水 ・ 木 ・ 金 ・ 土) ※赤字が実施曜日									
②時間帯(10 時 00 分 ～ 10 時 40 分)									

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	文化を定義する(1)	予習:文化の定義について予習する。 復習:授業のまとめ。
第2回	文化を定義する(2)	予習:文化の定義について予習する。 復習:授業のまとめ。
第3回	文化と文明は同じものか違うものか。	予習:文化と文明の違いについて考える。 復習:授業のまとめ。
第4回	人(ヒト)以外の動物は文化をもつか？	予習:犬や猫などの動物は文化を持つかどうかを考える。 復習:授業のまとめ。
第5回	さまざまな文化事象	予習:文化とは何かについて、あらためて考える。 復習:授業のまとめ。
第6回	文化としての芸術	予習:芸術とはどのような営みか。芸術的価値とは？ 復習:授業のまとめ。
第7回	文化としての宗教	予習:宗教とはいかなる活動か？ 復習:授業のまとめ。
第8回	文化としての言語	予習:言語活動とはいかなる営みか？ 復習:授業のまとめ。
第9回	文化の価値的側面(価値観としての文化)	予習:なぜ文化には価値観がともなうのか。 復習:授業のまとめ。
第10回	価値の継承としての教育	予習:文化と教育の相関関係について考える。 復習:授業のまとめ。
第11回	文化とアイデンティティ	予習:アイデンティティとは何かについて考える。 復習:授業のまとめ。
第12回	文化は進歩・発展するか	予習:文明の進歩・発展と文化の相関関係。 復習:授業のまとめ。
第13回	文化と公権力	予習:国家権力は文化に介入できるかを考える。 復習:授業のまとめ。
第14回	自然権としての『文化権』	予習:憲法第25条にいう「健康で文化的な最低限度の生活」とはどのようなものか。 復習:授業のまとめ。
第15回	まとめと後期への展望	予習:後期への展望 復習:授業のまとめ。

科目名(クラス)	文化芸術論B			開講学期	後期	単位数	2	配当年次	全
担当教員	相良 憲昭	実務家教員	○	履修対象・条件	パフォーマンス総合芸術文化専攻				
【授業の概要】		(360文字以内)							
この授業(文化芸術論B)は今年度前期に履修した「文化芸術論A」の続編であり、「文化とは何か?」を問い続けるものである。特に文化を国際的視野に立って考察することの重要性を指摘したい。前期の第13回(文化と公権力)及び第14回(自然権としての文化権)の延長線上で、国家と文化との関係を明らかにするつもりである。									
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力		
		専攻分野中心の知識と技能		課題の発見、分析、解決力		国際感覚	社会的責任・リーダーシップ		
		広範な文化の理解		プレゼンテーション能力		自己管理能力・チームワーク			
【授業の到達目標】		(360文字以内)							
前期と同様である。									
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)							
前期と同様である。									
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)							
前期と同様である。									
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)							
前期と同様である。									
教科書				著者等			出版社		
教科書				著者等			出版社		
参考文献	前期と同様である。			著者等			出版社		
参考文献				著者等			出版社		
【オフィスアワー】									
①曜日(月 ・ 火 ・ 水 ・ 木 ・ 金 ・ 土) ※赤字が実施曜日									
②時間帯(10 時 00 分 ~ 10 時 40 分)									

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	日本人の文化的特性	予習:日本人に固有の文化について考察する。 復習:授業のまとめ。
第2回	同質性の高い日本文化	予習:日本人として生まれたことの意義を考える。 復習:授業のまとめ。
第3回	異文化受容に積極的な日本人	予習:特に好きな日本の芸術や文化をかんがえる。 復習:授業のまとめ。
第4回	国際社会と文化	予習:世界史において文化が果たした役割を考える。 復習:授業のまとめ。
第5回	国家とは何か	予習:国家や国民、領土、主権などについて考える。 復習:授業のまとめ。
第6回	国際社会におけるさまざまな行為主体	予習:文化交流について考察する。 復習:今回の授業をまとめる。
第7回	文化交流、文化摩擦、文化侵略、外国人嫌い(ゼノフォビア)	予習:国家間のさまざまな文化関係について考える。 復習:授業のまとめ。
第8回	文化政策(日本の文化政策)	予習:国家と文化との相関関係 復習:授業のまとめ。
第9回	文化政策(フランスの文化政策)	予習:文化政策とは何か。 復習:授業のまとめ。
第10回	日仏文化の違いと文化政策の違い	予習:文化庁の役割 復習:授業のまとめ。
第11回	文化外交の果たす役割	予習:文化外交とはなにか。 復習:授業のまとめ。
第12回	地方自治体の文化政策	予習:京都市の文化政策 復習:授業のまとめ。
第13回	まとめと振り返り(1)	予習:文化について新たに学んだこと。 復習:全体のまとめ
第14回	まとめと振り返り(2)	予習:文化について新たに学んだこと。 復習:全体のまとめ
第15回	まとめと振り返り(3)	予習:文化について新たに学んだこと。 復習:全体のまとめ

科目名(クラス)	日本国憲法と生活A			開講学期	前期	単位数	2	配当年次	全
担当教員	川端 敏朗	実務家教員		履修対象・条件	パフォーマンス総合芸術文化専攻				
【授業の概要】		(360文字以内)							
私たちの日常生活では、法的な判断をしなければならない数多くの場面に出会います。この講義では、日本国憲法(国家の統治および組織に関する基本法)をはじめ、法、たとえば民法、会社法、消費者法、特に国際関係法の仕組みなどが実際の社会生活でどのような働きをしているかについて、裁判例や具体的な事例などを通じて理解することができるようにします。また、ダイバーシティ(多様性)に配慮した法的な取組み対応についても考察できるようにします。									
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力		思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力		意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能			課題の発見、分析、解決力	○		国際感覚	社会的責任・リーダーシップ
		広範な文化の理解	○		プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク	
【授業の到達目標】		(360文字以内)							
法の果たす機能や法の必要性について考察し、法的なものの見方・考え方＝リーガルマインドを身につけることができるようにし、近年の国際化に鑑み広い視野に立った判断をし、法的な事象について具体的な考察ができるようにします。									
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)							
・講義形式ですが、身近な例をあげ、学生自ら考察、発言できるようにします。また資料などを用いて具体例も明示します。									
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)							
・履修にあたり、テキストの該当項目をよく確認し、考えてみてください。受講中にはノートをしっかりとるようにこころがけてください。また、各項目(テーマ)について、問題点をよく整理してください。									
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)							
・定期試験およびレポート(60%)、講義のなかであげた各項目の問題点に対する考察等の取り組み方・熱意や積極性(40%)を踏まえ、総合的に判断します。									
教科書	スタンダード法学			著者等	川端・松嶋編著	出版社	芦書房		
教科書				著者等		出版社			
参考文献	プライマリー法学			著者等	茂野隆晴著	出版社	芦書房		
参考文献	ポケット六法 令和2年版			著者等		出版社	有斐閣		
【オフィスアワー】									
①曜日(月・火・水・木・金・土) ※赤字が実施曜日									
②時間帯(11時00分～11時50分)									

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	現代社会での法の果たす役割	予習: シラバスを読み、各回の項目、テーマについて確認し、考えてみる。 復習: 法が現実果たしている役割を整理しておく。
第2回	法と道徳、法の目的	予習: 教科書の法と道徳に関する項目をよく読んでおく。 復習: 講義で扱った法と道徳について整理しておく。
第3回	法の存在形式、法の分類	予習: 教科書の法の存在形式、法の分類に関する項目をよく読んでおく。 復習: 講義で扱った法の存在形式、法の分類について整理しておく。
第4回	法の適用と解釈、法の効力ー実質的効力と形式的効力	予習: 教科書の法の適用と解釈、法の効力に関する項目をよく読んでおく。 復習: 講義で扱った法の適用と解釈、法の効力について整理しておく。
第5回	日本国憲法の基本原理ー日本国憲法の柱になることが何であり、どのような機能を果たしているか	予習: 教科書の日本国憲法の基本原理に関する項目をよく読んでおく。 復習: 日本国憲法の基本原理の内容について整理しておく。
第6回	基本的人権とはー人権保障のカatalog、基本的人権の一般原則、公共の福祉	予習: 教科書で基本的人権の一般原則に関する項目をよく読んでおく。 復習: 基本的人権の一般原則、公共の福祉の内容について整理しておく。
第7回	基本的人権の種別ー平等権、自由権、社会権、参政権、請求権、義務、ダイバーシティ(多様性)に配慮した法的な取組み	予習: 教科書で基本的人権の種別についてよく確認しておく。 復習: 基本的人権の内容について整理しておく。
第8回	国会、内閣、裁判所の働き	予習: 教科書の国会、内閣、裁判所についてよく確認しておく。 復習: 国会、内閣、裁判所の働きについて整理しておく。
第9回	民法(財産法)ー物権や債権	予習: 物の所有や売買について考えてみる。 復習: 物権や債権について整理しておく。
第10回	民法(家族法)ー親族や相続、遺言、遺留分	予習: 教科書で家族法の項目をみてる。 復習: 親族、相続、遺言、遺留分について整理しておく。
第11回	商法ー会社法、有価証券法	予習: 会社や手形、小切手の利用について考えてみる。 復習: 会社、手形、小切手について整理しておく。
第12回	消費者保護のための法律ー消費者契約法、特定商取引法	予習: 消費者保護のための法律について考えてみる。 復習: 消費者契約法、特定商取引法の内容について整理しておく。
第13回	国際公法についてー条約、国際慣習法	予習: 教科書で条約、国際慣習法について確認しておく。 復習: 条約、国際慣習法について整理しておく。
第14回	国際私法についてー国際間取引、国際結婚	予習: 国際間取引や国際結婚について教科書で確認しておく。 復習: 国際間取引や国際結婚について整理しておく。
第15回	この講義で扱った事項のまとめ(振り返り)	予習: この講義で扱った事項について教科書、ノートで確認しておく。 復習: 講義で扱った事項を整理し、様々な法的問題に対処できるようにしておく。

科目名(クラス)	日本国憲法と生活B			開講学期	後期	単位数	2	配当年次	全
担当教員	川端 敏朗	実務家教員		履修対象・条件	パフォーマンス総合芸術文化専攻				
【授業の概要】		(360文字以内)							
私たちの日常生活では、法的な判断をしなければならない数多くの場面に出会います。この講義では、日本国憲法(国家の統治および組織に関する基本法)をはじめ、法、たとえば民法、会社法、消費者法、特に国際関係法の仕組みなどが実際の社会生活でどのような働きをしているかについて、裁判例や具体的な事例などを通じて理解することができるようになります。また、ダイバーシティー(多様性)に配慮した法的な取り組みについても考察できるようにします。									
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力		思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力		意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能			課題の発見、分析、解決力	○		国際感覚	社会的責任・リーダーシップ
		広範な文化の理解	○		プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク	
【授業の到達目標】		(360文字以内)							
法の果たす機能や法の必要性について考察し、法的なものの見方・考え方＝リーガルマインドを身につけることができるようにし、近年の国際化に鑑み広い視野に立った判断をし、法的な事象について具体的な考察ができるようにします。									
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)							
・講義形式ですが、身近な例をあげ、学生自ら考察、発言できるようにします。また資料などを用いて具体例も明示します。									
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)							
・履修にあたり、テキストの該当項目をよく確認し、考えてみてください。受講中にはノートをしっかりとるようにこころがけてください。また、各項目(テーマ)について、問題点をよく整理してください。									
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)							
・定期試験およびレポート(60%)、講義のなかであげた各項目の問題点に対する考察等の取り組み方・熱意や積極性(40%)を踏まえ、総合的に判断します。									
教科書	スタンダード法学				著者等	川端・松嶋編著	出版社	芦書房	
教科書					著者等		出版社		
参考文献	プライマリー法学				著者等	茂野隆晴著	出版社	芦書房	
参考文献	ポケット六法 令和2年版				著者等		出版社	有斐閣	
【オフィスアワー】									
①曜日(月・火・水・木・金・土) ※赤字が実施曜日									
②時間帯(11時00分～11時50分)									

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	法の基本的な機能	予習: シラバスを読み、各回の項目、テーマについて確認し、考えてみる。 復習: 法が現実果たしている役割を整理しておく。
第2回	国家と法	予習: 教科書の国家と法に関する項目をよく読んでおく。 復習: 講義で扱った国家と法について整理しておく。
第3回	日本国憲法の構成	予習: 教科書の日本国憲法の最初の項目をよく読んでおく。 復習: 講義で扱った日本国憲法の構成について整理しておく。
第4回	基本的人権(特に社会権や財産権など)、ダイバーシティ(多様性)に配慮した法的な取組み	予習: 教科書の基本的人権の項目をよく読んでおく。 復習: 講義で扱った基本的人権の内容について整理しておく。
第5回	国会、内閣、裁判所の地位、権能	予習: 教科書の国会、内閣、裁判所の地位、権能の項目をよく読んでおく。 復習: 講義で扱った国会、内閣、裁判所の地位、権能について整理しておく。
第6回	地方自治の仕組み、憲法改正	予習: 地方自治の仕組みや憲法改正について考えてみる。 復習: 講義で扱った地方自治の仕組みや憲法改正について整理しておく。
第7回	裁判所の種類と審級、違憲法令審査権	予習: 裁判所の働きについて考えてみる。 復習: 講義で扱った裁判所の働きについて整理しておく。
第8回	犯罪と刑罰(刑事法)	予習: 教科書で刑法や刑事訴訟法の内容についてみておく。 復習: 講義で扱った犯罪と刑罰に関する事項について整理しておく。
第9回	裁判の手続き(民事裁判)	予習: 教科書の民事裁判に関する事項をよく確認しておく。 復習: 講義で扱った民事裁判の手続きについて整理しておく。
第10回	裁判の手続き(刑事裁判)、裁判員制度	予習: 教科書の刑事裁判や裁判員制度に関する事項をよく確認しておく。 復習: 講義で扱った刑事裁判や裁判員制度について整理しておく。
第11回	意思表示と契約	予習: 意思表示や契約について考えてみる。 復習: 意思表示の課程や契約について整理しておく。
第12回	不法行為	予習: 教科書で不法行為について確認し、考えてみる。 復習: 不法行為の内容について整理しておく。
第13回	国際公法について一条約、国際慣習法	予習: 教科書で条約、国際慣習法について確認しておく。 復習: 条約、国際慣習法について整理しておく。
第14回	国際私法について一国際間取引、国際結婚	予習: 国際間取引や国際結婚について教科書で確認しておく。 復習: 国際間取引や国際結婚について整理しておく。
第15回	この講義で扱った事項のまとめ(振り返り)	予習: この講義で扱った事項について教科書、ノートで確認しておく。 復習: 講義で扱った事項を整理し、様々な法的問題に対処できるようにしておく。

科目名(クラス)	ひとを読み解く科学A		開講学期	前期	単位数	2	配当年次	全
担当教員	三室戸 元光	実務家教員	履修対象・条件		パフォーマンス総合芸術文化専攻			
【授業の概要】		(360文字以内)						
『ひと』とは何か、『ひとの性格(＝キャラクター又はパーソナリティ)』とは何か、を理解することは、人間の心理の中核を理解しようとするものであり、「ひとを理解しようとする思いや行動」は、心理学を学ぶ人間にとって非常に身近な行動です。ただ、単なる「占い」とは異なるので、科学的な根拠(＝心理学的な知識や考え方)が必要となります。 この授業では、心理学的な知識や考え方をもとに「自分自身」を多面的に理解し、「自分自身」や「ひと」を多面的に理解する方法として心理学を、皆さんと一緒に学び合っていきたいと考えています。前期Aの授業は、『自分自身を深く理解すること』を取り上げます。								
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力	
		専攻分野中心の知識と技能		課題の発見、分析、解決力		国際感覚	社会的責任・リーダーシップ	
		広範な文化の理解		プレゼンテーション能力		自己管理能力・チームワーク		
【授業の到達目標】		(360文字以内)						
心理学というひとの内面を読み解く知識や道具を使って、自分自身の心理学的な理解を深め、「自分自身の内面に関わる問題を、自分でサポートできるようになる」ことが、この科目の目標です。自分の内面(＝キャラクターやパーソナリティ)に対して、自身に起きた事実やそれに対する心理的な反応(感情、願望を含むあらゆる行動)への理解を深めることによって、『ひとがどんなパーソナリティをもち、どんな心理的な課題をどのように解消していくか』を自分で考察できるようにしていきます。								
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)						
授業は、教員による解説形式で行います。テーマによっては、行動実習やグループワークを行います。授業時の態度目標は、「相手に考えたことを伝えたり聴いたりする・相手に具体的に質問する・相手に分かるように説明する」および「自分から動く・チームで協同して考える・チームにとって役に立つ」です。								
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)						
テキストの購入は不要ですが、配布物が多くなります。配布物はこの科目専用の「黄ファイル」に入れて、各自のロッカーで保管して下さい。また、教員が当日指定した配布物は、授業終了時に提出して下さい。								
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)						
授業時間内で、「配布物への回答と提出が求められる」場合があります。教員から指示があったら、当日中に提出してください。これは総合評価の一部とします(50%分)。期末試験では、最終講義日までに解説した「毎回の授業内容」の中から、現在の「自分自身がかかえる心理的課題は何か」、それを「どのように解決していくか」について考え、今から始められる行動は何か、を掘り下げて考えてもらいます(50%分)。 どちらも何か1つの正解を求めているのではなく、「学習し獲得した知識や学び得た方法を使って、(感想文ではなく)自分の言葉で、自分の心理的な課題の理解をすすめる、その根拠や理由について【科学的に】説明できているか」を基準に、評価をします。								
教科書				著者等			出版社	
教科書				著者等			出版社	
参考文献	本当の「私」がわかる 自分の心理学			著者等	齊藤勇(2014)	出版社	ナツメ社	
参考文献	やさしく分かる認知行動療法			著者等	福井至・貝谷久宜(2012)	出版社	ナツメ社	
【オフィスアワー】								
①曜日(月 ・ 火 ・ 水 ・ 木 ・ 金 ・ 土) ※実施曜日を○で囲って下さい。								
②時間帯(10 時 00 分 ~ 18 時 30 分)								

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	授業インフォメーション 第1章:本当の自分がはじめてわかる心理学 その1	復習:授業で指示された課題を、必ず提出する
第2回	第1章:本当の自分がはじめてわかる心理学 その2	予習:前回の授業内容をもう一度見なおしてから参加する 復習:授業で指示された課題に取り組み、必ず提出する
第3回	第1章:本当の自分がはじめてわかる心理学 その3	予習:前回の授業内容をもう一度見なおしてから参加する 復習:授業で指示された課題に取り組み、必ず提出する
第4回	第2章:自分の力を最大限に出せる心理学 その1	予習:前回の授業内容をもう一度見なおしてから参加する 復習:授業で指示された課題に取り組み、必ず提出する
第5回	第2章:自分の力を最大限に出せる心理学 その2	予習:前回の授業内容をもう一度見なおしてから参加する 復習:授業で指示された課題に取り組み、必ず提出する
第6回	第2章:自分の力を最大限に出せる心理学 その3	予習:前回の授業内容をもう一度見なおしてから参加する 復習:授業で指示された課題に取り組み、必ず提出する
第7回	第2章:自分の力を最大限に出せる心理学 その4 ①ストレスマネジメント、②アサーション授業プログラム、③リラクゼーション法	予習:前回の授業内容をもう一度見なおしてから参加する 復習:授業で指示された課題に取り組み、必ず提出する
第8回	認知療法「はじめてのレジリエンス」その1 「ABC分析」で自分を知る	予習:前回の授業内容をもう一度見なおしてから参加する 復習:授業で指示された課題に取り組み、必ず提出する
第9回	認知療法「はじめてのレジリエンス」その2 「思考のワナ」を抜け出す	予習:前回の授業内容をもう一度見なおしてから参加する 復習:授業で指示された課題に取り組み、必ず提出する
第10回	認知療法「はじめてのレジリエンス」その1 代表的な認知のゆがみ、ホットな自動思考に気づく	予習:前回の授業内容をもう一度見なおしてから参加する 復習:授業で指示された課題に取り組み、必ず提出する
第11回	認知療法「はじめてのレジリエンス」その2 自動思考を変える習慣をつける、行動の結果をふりかえる	予習:前回の授業内容をもう一度見なおしてから参加する 復習:授業で指示された課題に取り組み、必ず提出する
第12回	認知療法「怒りを上手におさえるワーク」その1 信念(思い込み)、思考(考え)を学ぶ	予習:前回の授業内容をもう一度見なおしてから参加する 復習:授業で指示された課題に取り組み、必ず提出する
第13回	認知療法「怒りを上手におさえるワーク」その2 思考(考え)を学ぶ、よくある思考(考え)の失敗、生活スタイルの見直し	予習:前回の授業内容をもう一度見なおしてから参加する 復習:授業で指示された課題に取り組み、必ず提出する
第14回	認知療法「はじめてのレジリエンス」その3 「未来の『シナリオ』を書き直す」	予習:前回の授業内容をもう一度見なおしてから参加する 復習:授業で指示された課題に取り組み、必ず提出する
第15回	★★★前期まとめ(心理学の授業で理解した「自分の心理的な課題」と「その解決方法」について、今までに学んだ内容を使って、自分の言葉で説明する)	予習:前期の授業内容を再度確認しておく 復習:なし

科目名(クラス)	ひとを読み解く科学B		開講学期	後期	単位数	2	配当年次	全
担当教員	三室戸 元光	実務家教員	履修対象・条件		パフォーマンス総合芸術文化専攻			
【授業の概要】		(360文字以内)						
『ひと』とは何か、『ひとの性格(＝キャラクター又はパーソナリティ)』とは何か、を理解することは、人間の心理の中核を理解しようとするものであり、「ひとを理解しようとする思いや行動」は、心理学を学ぶ人間にとって非常に身近な行動です。ただ、単なる「占い」とは異なるので、科学的な根拠(＝心理学的な知識や考え方)が必要となります。 この授業では、心理学的な知識や考え方をもとに「自分自身」を多面的に理解し、「自分自身」や「ひと」を多面的に理解する方法として心理学を、皆さんと一緒に学び合っていきたいと考えています。後期Bの授業は、『人間関係を作る作法を理解し実践すること』を取り上げます。								
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力	
		専攻分野中心の知識と技能		課題の発見、分析、解決力		国際感覚	社会的責任・リーダーシップ	
		広範な文化の理解		プレゼンテーション能力		自己管理能力・チームワーク		
【授業の到達目標】		(360文字以内)						
心理学という内面を読み解くツールや材料を使って、自分自身の内面的な理解を深め、「自分自身を自分でサポートできるようになる」のが、この科目の目標です。そのためには、自分の内面を正面から受け止めて、起きた事実やそれに対する心理的な反応(感情、願望)への理解を深めることによって、『自分やひとがどんなパーソナリティなのか、どんな心理的な課題があるのか』を認識し、解決できるようなスキルを身につけられるようにしていきます。								
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)						
授業は、全体講義および教員による解説形式、で行います。テーマによっては、実習やグループワークを行います。授業時の態度目標は、「相手に考えたことを伝えり聴いたりする・相手に具体的に質問する・相手に分かるように説明する」および「自分から動く・チームで協同して考える・チームにとって役に立つ」です。								
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)						
テキストの購入は不要ですが、配布物が多くなります。配布物はこの科目専用の「緑ファイル」に入れて、各自のロッカーで保管して下さい。また、教員が当日指定した配布物は、授業終了時に提出して下さい。								
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)						
授業時間内で、「配布物への回答と提出が求められる」場合があります。教員から指示があったら、当日中に提出してください。これは総合評価の一部とします(50%分)。期末試験では、最終講義日までに解説した「毎回の授業内容」の中から、現在の「自分自身がかかえる心理的課題は何か」、それを「どのように解決していくか」について考え、今から始められる行動は何か、を掘り下げて考えてもらいます(50%分)。 どちらも何か1つの正解を求めているのではなく、「学習し獲得した知識や学び得た方法を使って、(感想文ではなく)自分の言葉で、自分の心理的な課題の理解をすすめる、その根拠や理由について【科学的に】説明できているか」を基準に、評価をします。								
教科書				著者等			出版社	
教科書				著者等			出版社	
参考文献	図解 史上最強よくわかる人間関係の心理学			著者等	碓井真史 監修 (2011)		出版社	ナツメ社
参考文献	本当の「私」がわかる 自分の心理学			著者等	齊藤勇 (2014)		出版社	ナツメ社
【オフィスアワー】								
①曜日(月 ・ 火 ・ 水 ・ 木 ・ 金 ・ 土) ※実施曜日を○で囲って下さい。								
②時間帯(10 時 00 分 ~ 18 時 30 分)								

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	授業インフォメーション 第1章:人間関係がうまくいく心理学 その1	復習:授業で指示された課題に取り組み、必ず提出する
第2回	第1章 人間関係がうまくいく心理学 その2	予習:前回の授業内容をもう一度見なおしてから参加する 復習:授業で指示された課題に取り組み、必ず提出する
第3回	第1章 人間関係がうまくいく心理学 その3	予習:前回の授業内容をもう一度見なおしてから参加する 復習:授業で指示された課題に取り組み、必ず提出する
第4回	第1章 人間関係がうまくいく心理学 その4	予習:前回の授業内容をもう一度見なおしてから参加する 復習:授業で指示された課題に取り組み、必ず提出する
第5回	第2章 人間関係の心理には「基本法則」がある その1	予習:前回の授業内容をもう一度見なおしてから参加する 復習:授業で指示された課題に取り組み、必ず提出する
第6回	第2章 人間関係の心理には「基本法則」がある その2	予習:前回の授業内容をもう一度見なおしてから参加する 復習:授業で指示された課題に取り組み、必ず提出する
第7回	第2章 人間関係の心理には「基本法則」がある その3	予習:前回の授業内容をもう一度見なおしてから参加する 復習:授業で指示された課題に取り組み、必ず提出する
第8回	第3章 好きな相手の気持ちが分かる・動かせる その1	予習:前回の授業内容をもう一度見なおしてから参加する 復習:授業で指示された課題に取り組み、必ず提出する
第9回	第3章 好きな相手の気持ちが分かる・動かせる その2	予習:前回の授業内容をもう一度見なおしてから参加する 復習:授業で指示された課題に取り組み、必ず提出する
第10回	第3章 好きな相手の気持ちが分かる・動かせる その3	予習:前回の授業内容をもう一度見なおしてから参加する 復習:授業で指示された課題に取り組み、必ず提出する
第11回	人間関係づくり実践トレーニング その1	予習:今までの授業の内容を理解しておく 復習:トレーニングでできたこと・できなかったことをふりかえる
第12回	人間関係づくり実践トレーニング その2	予習:今までの授業の内容を理解しておく 復習:トレーニングでできたこと・できなかったことをふりかえる
第13回	人間関係づくり実践トレーニング その3	予習:今までの授業の内容を理解しておく 復習:トレーニングでできたこと・できなかったことをふりかえる
第14回	人間関係づくり実践トレーニング その4	予習:今までの授業の内容を理解しておく 復習:トレーニングでできたこと・できなかったことをふりかえる
第15回	★★★後期まとめ(心理学の授業で理解した「自分の心理的な課題」と「その解決方法」について、今までに学んだ内容を使って、自分の言葉で説明する)	予習:後期の授業内容を再度確認しておく 復習:なし

科目名(クラス)	情報スキルA			開講学期	前期	単位数	2	配当年次	1
担当教員	佐久間 誠	実務家教員	○	履修対象・条件	パフォーマンス総合芸術専攻生				
【授業の概要】		(360文字以内)							
・初心者、未経験者のためのパソコン操作から音楽制作ソフト映像制作ソフトを駆使し課題の完成を目指します。 ・音楽制作を始める前提での授業となりますのでパソコンの設置、周辺機器など必要となる機材の知識も同時に学びスキルを得ます。 ・基本作業はDTM(打ち込み)になりますがDAW的な簡易オーディオ録音も授業進行次第で行います。									
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	○	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力	
		専攻分野中心の知識と技能	課題の発見、分析、解決力		国際感覚		社会的責任・リーダーシップ		
		広範な文化の理解	プレゼンテーション能力		自己管理能力・チームワーク				
【授業の到達目標】		(360文字以内)							
・社会一般的なパソコンの基礎操作の習得をすることができる。 ・取得したスキルからの課題制作をすることができる。 ・課題のメディア発信を行うことができる。									
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)							
・パソコン作業が中心に音楽制作ソフトと映像制作ソフトを使う個人作業です。場合によりインターネットも活用します。									
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)							
・パソコン操作の大半は地道な反復作業が続くので、孤独な状況の中での課題をクリアする集中力が求められます。									
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)							
・課題提出 ・授業への積極性(自己修繕、課題への取り組み、作品の向き合い方など)で総合判断。									
教科書					著者等			出版社	
教科書					著者等			出版社	
参考文献					著者等			出版社	
参考文献					著者等			出版社	
【オフィスアワー】									
①曜日(月 ・ 火 ・ 水 ・ 木 ・ 金 ・ 土) ※赤字が実施曜日									
②時間帯 14:20~14:50 14:55~15:25 15:30~16:00 17:00~18:00 * PACS業界の先生方は全て城之内管轄でまとめる									

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	はじめに：DTMとDAW	予習： 復習：興味を持った話(用語や機材)について調べる。
第2回	パソコンⅠ～ 作業レイアウト、作業環境構築	予習： 復習：制作に必要な機材の準備
第3回	パソコンⅡ～ パソコン基礎操作、用語等の説明	予習：パソコンを調べる。 復習：授業で行なった操作。
第4回	パソコンⅢ～ パソコン応用操作	予習： 復習：授業で行なった操作。
第5回	DAW DTM 音楽制作ソフトの説明 GarageBandの基本操作	予習：GarageBandを調べる。 復習：
第6回	ステップ入力Ⅰ～ 課題曲のMIDI入力	予習：ステップ入力を調べる。 復習：授業で行なった操作。
第7回	ステップ入力Ⅱ～ 課題曲のMIDI入力 修正や補正	予習：前回の授業での操作。 復習：授業で行なった操作。
第8回	リアルタイム入力Ⅰ～ 課題曲のMIDI入力	予習：リアルタイム入力を調べる。 復習：授業で行なった操作。
第9回	リアルタイム入力Ⅱ～ 課題曲のMIDI入力 修正や補正	予習：前回の授業での操作。 復習：授業で行なった操作。
第10回	ミックス/トラックダウン～ 最終調整と楽曲のファイル化	予習：ミックス/トラックダウンを調べる。 復習：
第11回	映像制作Ⅰ～ 映像制作ソフトの説明 iMovieの基本操作	予習：iMovieを調べる。 復習：
第12回	映像制作Ⅱ～ 制作音源の取り込み 撮影素材の取り込み 編集	予習： 復習：授業で行なった操作。
第13回	映像制作Ⅲ～ 編集 最終調整 Youtubeへのアップロード	予習：Youtube、アップロードを調べる。 復習：
第14回	映像制作Ⅳ～ 編集 最終調整 Youtubeへのアップロード	予習： 復習：
第15回	課題の総評～ 反省、評価、ディスカッション	予習： 復習：

科目名(クラス)	情報スキルB			開講学期	後期	単位数	2	配当年次	1
担当教員	佐久間 誠	実務家教員	○	履修対象・条件	パフォーマンス総合芸術専攻生				
【授業の概要】		(360文字以内)							
・初心者、未経験者のためのパソコン操作から音楽制作ソフト映像制作ソフトを駆使し課題の完成を目指します。 ・音楽制作を始める前提での授業となりますのでパソコンの設置、周辺機器など必要となる機材の知識も同時に学びスキルを得ます。 ・基本作業はDTM(打ち込み)になりますがDAW的な簡易オーディオ録音も授業進行次第で行います。									
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	○	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力	
		専攻分野中心の知識と技能	課題の発見、分析、解決力		国際感覚		社会的責任・リーダーシップ		
		広範な文化の理解	プレゼンテーション能力		自己管理能力・チームワーク				
【授業の到達目標】		(360文字以内)							
・社会一般的なパソコンの基礎操作の習得をすることができる。 ・取得したスキルからの課題制作をすることができる。 ・課題のメディア発信を行うことができる。									
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)							
・パソコン作業が中心に音楽制作ソフトと映像制作ソフトを使う個人作業です。場合によりインターネットも活用します。									
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)							
・パソコン操作の大半は地道な反復作業が続くので、孤独な状況の中での課題をクリアする集中力が求められます。									
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)							
・課題提出 ・授業への積極性(自己修繕、課題への取り組み、作品の向き合い方など)により総合的に判断									
教科書					著者等			出版社	
教科書					著者等			出版社	
参考文献					著者等			出版社	
参考文献					著者等			出版社	
【オフィスアワー】									
①曜日(月 ・ 火 ・ 水 ・ 木 ・ 金 ・ 土) ※赤字が実施曜日									
②時間帯 14:20～14:50 14:55～15:25 15:30～16:00 17:00～18:00 * PACS業界の先生方は全て城之内管轄でまとめる									

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	後期課題案会議	予習: 復習:決定課題の情報収拾。
第2回	パソコンⅠ～ 作業レイアウト、作業環境構築	予習:レイアウトの見直し 復習:制作に必要な機材の準備
第3回	課題曲のMIDI入力	予習:ソフトのショートカットキーを調べる 復習:授業で行なった操作。
第4回	課題曲のMIDI入力	予習:ソフトの編集機能を調べる 復習:授業で行なった操作。
第5回	課題曲のMIDI入力	予習: 復習:授業で行なった操作。
第6回	課題曲のMIDI入力	予習: 復習:授業で行なった操作。
第7回	課題曲のMIDI入力 修正や補正	予習: 復習:授業で行なった操作。
第8回	オーディオ録音Ⅰ 歌やギターなどの録音	予習:オーディオIOを調べる。 復習:授業で行なった操作。
第9回	オーディオ録音Ⅱ 歌やギターなどの録音	予習:ソフトの編集機能を調べる。 復習:
第10回	ミックス/トラックダウン～ 最終調整と楽曲のファイル化(マスタリング)	予習:マスタリングを調べる。 復習:
第11回	映像制作Ⅰ～ 制作音源の取り込み 撮影素材の取り込み 編集	予習:ソフトのショートカットキーを調べる 復習:授業で行なった操作。
第12回	映像制作Ⅱ～ 制作音源の取り込み 撮影素材の取り込み 編集	予習:ソフトの編集機能を調べる 復習:授業で行なった操作。
第13回	映像制作Ⅲ～ 編集 最終調整 Youtubeへのアップロード	予習:Youtube内の設定を調べる。 復習:授業で行なった操作。
第14回	映像制作Ⅳ～ 編集 最終調整 Youtubeへのアップロード	予習:Youtube内の設定を調べる。 復習:
第15回	課題の総評～ 反省、評価、ディスカッション	予習: 復習:

科目名(クラス)	Basic English 1		開講学期	前期	単位数	1	配当年次	1
担当教員	粕谷 麻里乃	実務家教員	履修対象・条件		パフォーマンス総合芸術専攻生			
【授業の概要】		(360文字以内)						
Basic English は1/2で構成される。Basic English 1では、「聞く、読む、話す、書く」の各領域を体系的にレベルアップさせることを目的とする。第1回目の授業では、習熟度確認テストを実施し、自身の英語力を確認することから始める。第2回目以降の授業では、指定したテキストを用いた講義をはじめ、反復練習、ロールプレイ・ペアワーク・プレゼンテーションなどの口頭発表を通して、英語を総合的に運用するための基礎を作る。 ※新入生は、履修科目の選定にあたり、習熟度確認テストが実施される。現在の英語力により、Basic English 1/2か Advanced English 1/2のいずれかのクラスを受講することになる。								
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	○	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能	○		課題の発見、分析、解決力		国際感覚	社会的責任・リーダーシップ
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力		自己管理能力・チームワーク	
【授業の到達目標】		(360文字以内)						
Basic English 1は、英語を運用するために必要な「聞く、読む、話す、書く」力を体系的にレベルアップさせることが目的であり、受講者における到達目標は下記の通りである。 ・ゆっくり話された英語を理解し、簡単な質問をしたり、答えることができる。 ・やさしい英文を読んだり、簡単な文を書くことができる。								
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)						
講義、演習(ロールプレイ・ペアワーク・プレゼンテーションなど)の混合形式								
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)						
Basic English1では、発表の機会も多く、意欲的な授業参画が求められる。また、授業で学んだ語彙や表現は復習し、自身で活用できるように定着させていくことが求められる。								
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)						
授業参加(30%) 授業への貢献(30%) 中間テスト(20%) 期末テスト(20%)								
教科書	初回授業時にお知らせします				著者等		出版社	
教科書					著者等		出版社	
参考文献					著者等		出版社	
参考文献					著者等		出版社	
【オフィスアワー】								
①曜日(月・火・水・木・金・土) ※別途掲示にて発表								
②時間帯(時 分 ~ 時 分)								

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	オリエンテーション 習熟度確認テスト ※このスケジュールは暫定的なものであり、授業の進行状況等の事由によっては変更する可能性があります	予習◇シラバスを読んでください。英語で簡単な(各1～2分程度)自己紹介をしてもらいます。準備してきてください。
第2回	English training (1)	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第3回	English training (2)	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第4回	English training (3)	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第5回	English training (4)	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第6回	English training (5)	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第7回	English training (6)	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第8回	中間テスト	
第9回	English training (7)	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第10回	English training (8)	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第11回	English training (9)	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第12回	English training (10)	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第13回	English training (11)	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第14回	期末テスト	復習◆確認内容をまとめる。
第15回	総括	復習◆今期の学習項目をまとめる。

科目名(クラス)	Basic English 2		開講学期	後期	単位数	1	配当年次	1
担当教員	粕谷 麻里乃	実務家教員	履修対象・条件		パフォーマンス総合芸術専攻生			
【授業の概要】		(360文字以内)						
Basic English 2は、Basic1に引き続き、「聞く、読む、話す、書く」の各領域を体系的にレベルアップさせることを目的とする。第1回目の授業ではBasic1で習得した単語や表現を活用して、予め提示したテーマについて口頭発表を行う。第2回目以降の授業では、講義をはじめ、反復練習、ロールプレイ・ペアワーク・口頭発表などを通して、英語を総合的に運用するための基礎を完成させる。								
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	○	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能	○		課題の発見、分析、解決力		国際感覚	社会的責任・リーダーシップ
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力		自己管理能力・チームワーク	
【授業の到達目標】		(360文字以内)						
Basic English 2は、英語を運用するために必要な「聞く、読む、話す、書く」力を体系的にレベルアップさせることが目的であり、受講者における到達目標は下記の通りである。 ・ゆっくり話された英語を理解し、簡単な質問をしたり、答えたりすることができるようにする。 ・やさしい英文を読んだり、簡単な文を書くことができる。								
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)						
講義、演習(ロールプレイ・ペアワーク・プレゼンテーションなど)の混合形式								
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)						
Basic English2では、発表の機会も多く、意欲的な授業参画が求められる。また、授業で学んだ語彙や表現は復習し、自身で活用できるように定着させていくことが求められる。								
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)						
授業参加(30%) 授業への貢献(30%) 中間テスト(20%) 期末テスト(20%)								
教科書	Basic English 1に同じ				著者等		出版社	
教科書					著者等		出版社	
参考文献					著者等		出版社	
参考文献					著者等		出版社	
【オフィスアワー】								
①曜日(月・火・水・木・金・土) ※別途掲示にて発表								
②時間帯(時 分 ~ 時 分)								

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	オリエンテーション ※このスケジュールは暫定的なものであり、授業の進行状況等の事由によっては変更する可能性もあります	予習◇シラバスを読んでください。
第2回	English training (1)	予習◇新出単語などは調べてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第3回	English training (2)	予習◇新出単語などは調べてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第4回	English training (3)	予習◇新出単語などは調べてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第5回	English training (4)	予習◇新出単語などは調べてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第6回	English training (5)	予習◇新出単語などは調べてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第7回	English training (6)	予習◇新出単語などは調べてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第8回	中間テスト	
第9回	English training (7)	予習◇新出単語などは調べてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第10回	English training (8)	予習◇新出単語などは調べてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第11回	English training (9)	予習◇新出単語などは調べてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第12回	English training (10)	予習◇新出単語などは調べてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第13回	English training (11)	予習◇新出単語などは調べてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第14回	期末テスト	復習◆確認内容をまとめる。
第15回	総括	復習◆今期の学習項目をまとめる。

科目名(クラス)	Advanced English 1		開講学期	前期	単位数	1	配当年次	1
担当教員	粕谷 麻里乃	実務家教員	履修対象・条件		パフォーマンス総合芸術専攻生			
【授業の概要】		(360文字以内)						
Advance English は1/2で構成される。Advance English 1は、「聞く、読む、話す、書く」の各領域をさらに体系的にレベルアップさせることを目的とする。授業では、指定したテキストを用いた講義をはじめ、反復練習、ロールプレイ・ペアワーク・口頭発表などを通して、英語の運用能力を高める。 ※新入生は、履修科目の選定にあたり、習熟度確認テストが実施される。現在の英語力により、Basic English 1/2か Advanced English 1/2のいずれかのクラスを受講することになる。								
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	○	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能	○		課題の発見、分析、解決力		国際感覚	社会的責任・リーダーシップ
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力		自己管理能力・チームワーク	
【授業の到達目標】		(360文字以内)						
Advance English 1は、英語を運用するために必要な「聞く、読む、話す、書く」力を体系的にブラッシュアップさせることが目的であり、受講者における到達目標は下記の通りである。 ・英語で話された内容や読み物の内容を的確に理解し、要点を掴むことができる。 ・簡単な言葉で発話したり、文を書くことができる。								
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)						
講義、演習(ロールプレイ・ペアワーク・プレゼンテーションなど)の混合形式								
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)						
Advance English1では、発言の機会が多くあるため、意欲的な授業参画が求められる。また、授業で学んだ語彙や表現は復習し、自身で活用できるように定着させていくことが求められる。								
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)						
授業参加(30%) 授業への貢献(30%) 中間テスト(20%) 期末テスト(20%)								
教科書	授業時にお知らせします				著者等		出版社	
教科書					著者等		出版社	
参考文献					著者等		出版社	
参考文献					著者等		出版社	
【オフィスアワー】								
①曜日(月・火・水・木・金・土) ※別途掲示にて発表								
②時間帯(時 分 ~ 時 分)								

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	オリエンテーション 習熟度確認テスト ※このスケジュールは暫定的なものであり、授業の進行状況等の事由によっては変更する可能性があります	予習◇英語で簡単な(各1～2分程度)自己紹介をしてもらいます。準備してきてください。
第2回	English training (1)	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第3回	English training (2)	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第4回	English training (3)	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第5回	English training (4)	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第6回	English training (5)	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第7回	English training (6)	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第8回	中間テスト	
第9回	English training (7)	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第10回	English training (8)	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第11回	English training (9)	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第12回	English training (10)	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第13回	English training (11)	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第14回	学期末確認テスト	復習◆確認内容をまとめる。
第15回	総括	復習◆今期の学習項目をまとめる。

科目名(クラス)	Advanced English 2		開講学期	後期	単位数	1	配当年次	1
担当教員	粕谷 麻里乃	実務家教員	履修対象・条件		パフォーマンス総合芸術専攻生			
【授業の概要】		(360文字以内)						
Advance English 2は、Advance English 1に続き、「聞く、読む、話す、書く」の各領域を体系的にレベルアップさせることを目的とする。第1回目の授業ではAdvance English 1で習得した単語や表現などを活用して、予め提示したテーマについて口頭発表を行う。第2回目以降の授業では、講義をはじめ、反復練習、ロールプレイ・ペアワーク・口頭発表などを通して、英語の運用能力を高める。								
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	○	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能	○		課題の発見、分析、解決力		国際感覚	社会的責任・リーダーシップ
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力		自己管理能力・チームワーク	
【授業の到達目標】		(360文字以内)						
Advance English 2は、英語を運用するために必要な「聞く、読む、話す、書く」力を体系的にブラッシュアップさせることが目的であり、受講者における到達目標は下記の通りである。 ・英語で話された内容や読み物の内容を的確に理解し、要点を掴むことができる。 ・簡単な言葉で発話したり、文を書くことができる。								
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)						
講義、演習(ロールプレイ・ペアワーク・プレゼンテーションなど)の混合形式								
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)						
Basic English2では、口頭発表をはじめ、発話の機会が多くあるため、意欲的な授業参画が求められる。また、授業で学んだ語彙や表現は復習し、自身で活用できるように定着させていくことが求められる。								
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)						
授業参加(30%) 授業への貢献(30%) 中間テスト(20%) 期末テスト(20%)								
教科書	授業時にお知らせします				著者等		出版社	
教科書					著者等		出版社	
参考文献					著者等		出版社	
参考文献					著者等		出版社	
【オフィスアワー】								
①曜日(月・火・水・木・金・土) ※別途掲示にて発表								
②時間帯(時 分 ~ 時 分)								

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	オリエンテーション ※このスケジュールは暫定的なものであり、授業の進行状況等の事由によっては変更する可能性もあります	予習◇シラバスを読んでください。
第2回	English training (1)	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第3回	English training (2)	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第4回	English training (3)	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第5回	English training (4)	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第6回	English training (5)	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第7回	English training (6)	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第8回	中間テスト	
第9回	English training (7)	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第10回	English training (8)	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第11回	English training (9)	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第12回	English training (10)	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第13回	English training (11)	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第14回	期末テスト	復習◆確認内容をまとめる。
第15回	総括	復習◆今期の学習項目をまとめる。

科目名(クラス)	Communication Skills I A		開講学期	前期	単位数	1	配当年次	1		
担当教員	粕谷 麻里乃	実務家教員	履修対象・条件		パフォーマンス総合芸術専攻生					
【授業の概要】		(360文字以内)								
Communication Skillsは、I A/I Bで構成される。Communication Skills I A では、日常における様々な状況(会話、手紙、メール、SNSなど)を想定し課題に取り組むなかで、英語を用いたコミュニケーションに必要な基礎づくりを目的とする。I AとI Bを通して、ロールプレイやペアワーク活動を繰り返すことで、円滑なコミュニケーションのための学修をする(例えば、文法や表現、発音やイントネーションなど確認しながら)。授業は全て日本語で実施する。										
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	○	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	○	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	○	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能			課題の発見、分析、解決力			国際感覚		社会的責任・リーダーシップ
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク		
【授業の到達目標】		(360文字以内)								
Communication Skills I A における到達目標は下記の通りである。 ・コミュニケーションにおいて、簡単かつ適切な英語表現(文法、語彙、発音など)を運用できる。 ・簡単な英語表現で「話す、書く」スキルを向上させ、自信を持てるように持つことができる。										
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)								
講義、演習(ロールプレイ・ペアワーク・プレゼンテーションなど)の混合形式										
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)								
Communication Skills I A では、口頭発表をはじめ、発話の機会が多くあるため、意欲的な授業参画が求められる。また、授業で学んだ語彙や表現は復習し、自身で活用できるように定着させていくことが求められる。基本的に前回までの内容・知識を前提として進める。疑問点等に気が付いた時には、講義の際に質問できるよう内容をきちんと把握しておく。										
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)								
授業参加(15%) 授業への貢献(30%) 小テスト及び課題(20%) 期末テスト(35%)										
教科書	授業時にお知らせします				著者等		出版社			
教科書					著者等		出版社			
参考文献					著者等		出版社			
参考文献					著者等		出版社			
【オフィスアワー】										
①曜日(月・火・水・木・金・土) ※別途掲示にて発表										
②時間帯(時 分 ~ 時 分)										

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	オリエンテーション ※このスケジュールは暫定的なものであり、授業の進行状況等の事由によっては変更する可能性もあります	予習◇シラバスを読んでください。英語で簡単な(各1～2分程度)自己紹介をしてもらいます。準備してください。
第2回	English training for communication(1) 小テスト及び課題	予習◇新出単語などは調べてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第3回	English training for communication (2) 小テスト及び課題	予習◇新出単語などは調べてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第4回	English training for communication (3) 小テスト及び課題	予習◇新出単語などは調べてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第5回	English training for communication (4) 小テスト及び課題	予習◇新出単語などは調べてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第6回	English training for communication (5) 小テスト及び課題	予習◇新出単語などは調べてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第7回	English training for communication (6) 小テスト及び課題	予習◇新出単語などは調べてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第8回	English training for communication (7) 小テスト及び課題	予習◇新出単語などは調べてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第9回	English training for communication (8) 小テスト及び課題	予習◇新出単語などは調べてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第10回	English training for communication (9) 小テスト及び課題	予習◇新出単語などは調べてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第11回	English training for communication (10) 小テスト及び課題	予習◇新出単語などは調べてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第12回	English training for communication (11) 小テスト及び課題	予習◇新出単語などは調べてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第13回	English training for communication (12) 小テスト及び課題	予習◇新出単語などは調べてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第14回	学期末確認テスト	復習◆確認内容をまとめる。
第15回	総括	復習◆今期の学習項目をまとめる。

科目名(クラス)	Communication Skills I B		開講学期	後期	単位数	1	配当年次	1			
担当教員	粕谷 麻里乃	実務家教員	履修対象・条件		パフォーマンス総合芸術専攻生						
【授業の概要】		(360文字以内)									
Communication Skills I B は、Communication Skills I A に引き続き、日常における様々な状況(会話、手紙、メール、SNSなど)を想定し課題に取り組むなかで、英語を用いたコミュニケーションに必要な基礎づくりを目的とする。I AとI Bを通して、ロールプレイやペアワーク活動を繰り返すことで、円滑なコミュニケーションのための学修をする(例えば、文法や表現、発音やイントネーションなど確認しながら)。授業は全て日本語で実施する。											
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力		思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	○	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢		生涯学習力	
		専攻分野中心の知識と技能	○		課題の発見、分析、解決力			国際感覚	○	社会的責任・リーダーシップ	
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク			
【授業の到達目標】		(360文字以内)									
Communication Skills I B における到達目標は下記の通りである。 ・コミュニケーションにおいて、簡単かつ適切な英語表現(文法、語彙、発音など)を運用できる。 ・簡単な英語表現で「話す、書く」スキルを向上させ、自信を持つことができる。											
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)									
講義、演習(ロールプレイ・ペアワーク・プレゼンテーションなど)の混合形式											
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)									
Communication Skills I A では、口頭発表をはじめ、発話の機会が多くあるため、意欲的な授業参画が求められる。また、授業で学んだ語彙や表現は復習し、自身で活用できるように定着させていくことが求められる。基本的に前回までの内容・知識を前提として進める。疑問点等に気が付いた時には、講義の際に質問できるよう内容をきちんと把握しておく。											
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)									
授業参加(15%) 授業への貢献(30%) 小テスト及び課題(20%) 期末テスト(35%)											
教科書	Communication Skills I Aに同じ				著者等		出版社				
教科書					著者等		出版社				
参考文献					著者等		出版社				
参考文献					著者等		出版社				
【オフィスアワー】											
①曜日(月・火・水・木・金・土) ※別途掲示にて発表											
②時間帯(時 分 ~ 時 分)											

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	オリエンテーション ※このスケジュールは暫定的なものであり、授業の進行状況等の事由によっては変更する可能性があります	予習◇シラバスを読んでください。
第2回	English training for communication(1) 小テスト及び課題	予習◇新出単語などは調べてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第3回	English training for communication (2) 小テスト及び課題	予習◇新出単語などは調べてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第4回	English training for communication (3) 小テスト及び課題	予習◇新出単語などは調べてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第5回	English training for communication (4) 小テスト及び課題	予習◇新出単語などは調べてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第6回	English training for communication (5) 小テスト及び課題	予習◇新出単語などは調べてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第7回	English training for communication (6) 小テスト及び課題	予習◇新出単語などは調べてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第8回	English training for communication (7) 小テスト及び課題	予習◇新出単語などは調べてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第9回	English training for communication (8) 小テスト及び課題	予習◇新出単語などは調べてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第10回	English training for communication (9) 小テスト及び課題	予習◇新出単語などは調べてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第11回	English training for communication (10) 小テスト及び課題	予習◇新出単語などは調べてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第12回	English training for communication (11) 小テスト及び課題	予習◇新出単語などは調べてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第13回	English training for communication (12) 小テスト及び課題	予習◇新出単語などは調べてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第14回	期末テスト	復習◆確認内容をまとめる。
第15回	総括	復習◆今期の学習項目をまとめる。

科目名(クラス)	Advanced Communication Skills I A		開講学期	前期	単位数	1	配当年次	1			
担当教員	I. K. レンツ	実務家教員	○	履修対象・条件	パフォーマンス総合芸術専攻生						
【授業の概要】		(360文字以内)									
This course introduces English communication skills to students taking this course. この授業では英語のコミュニケーションスキルについて学びます。 The aim of this course is to help students acquire an understanding of the fundamental principles of English communication. この授業の目的は英語のコミュニケーションの基礎原理を理解することです。 This course deals with basic grammar and communication skills. It also enhances the development of students skill in reading. この授業では基本の文法とコミュニケーションスキルを学びます。また音読の獲得も目指します											
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力		思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	○	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢		生涯学習力	
		専攻分野中心の知識と技能	○		課題の発見、分析、解決力			国際感覚	○	社会的責任・リーダーシップ	
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク			
【授業の到達目標】		(360文字以内)									
By the end of the course, students should be able to do the following: Understand short conversations hold short conversations have a brief concept about English communication この授業では、終了時に学生が以下の能力を身につけていることを目標とします。 ミニ会話の理解をすることができる。 ミニ会話をするすることができる。 基本的な英語コミュニケーションスキルを身に付けることができる。											
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)									
Each time we will start with a free conversation about daily things. Then we learn new words or pattern with the textbook which is followed up by a free conversation and partner work. 毎回、日常会話をやります。それから、教科書で新しい単語と文法を勉強して、パートナーワークで練習します。											
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)									
Please be on time and prepare for this class. 時間を守りましょう。復習をしましょう。											
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)									
Grading will be decided based on active participation (50%) and term-end examination (50%). アクティブな参加 (50%)と試験(50%)によって評価する											
教科書	Four corners3			著者等		出版社	Cambridge				
教科書				著者等		出版社					
参考文献				著者等		出版社					
参考文献				著者等		出版社					
【オフィスアワー】											
①曜日(月・火・水・木・金・土) ※別途掲示にて発表											
②時間帯(時 分 ~ 時 分)											

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	Ask and talk about routines 習慣について聞く	Check new vocabulary 新しい単語を調べてください。
第2回	Discuss advantages and disadvantages 良い点と悪い点を話し合う	Check new vocabulary 新しい単語を調べてください。
第3回	Tell personal stories 自分の話を伝える	
第4回	Announce news ニュースを知らせる	
第5回	Express opinions about style and fashion ファッションについて意見	
第6回	Ask where something is in a store 店内のどこにあるか	
第7回	Interesting lives 面白い生活	
第8回	Describe of their experience 体験したことを説明する	
第9回	Express disbelief 信じられないということを言う	
第10回	Compare structures 比べる	
第11回	discuss ways to manage time effectively 有効的な時間整理の方法を話し合う	
第12回	Make request, promises and offers リクエスト、約束、オファーをする	
第13回	review 復習	
第14回	test 試験	
第15回	movie 映画	

科目名(クラス)	Advanced Communication Skills I B		開講学期	後期	単位数	1	配当年次	1			
担当教員	I. K. レンツ	実務家教員	○	履修対象・条件	パフォーマンス総合芸術専攻生						
【授業の概要】		(360文字以内)									
This course introduces English communication skills to students taking this course. この授業では英語のコミュニケーションスキルについて学びます。 The aim of this course is to help students acquire an understanding of the fundamental principles of English communication. この授業の目的は英語のコミュニケーションの基礎原理を理解することです。 This course deals with basic grammar and communication skills. It also enhances the development of students skill in reading. この授業では基本の文法とコミュニケーションスキルを学びます。また音読の獲得も目指します。											
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	○	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	○	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力		
		専攻分野中心の知識と技能			課題の発見、分析、解決力			国際感覚		○	社会的責任・リーダーシップ
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク			
【授業の到達目標】		(360文字以内)									
By the end of the course, students should be able to do the following: Understand short conversations hold short conversations have a brief concept about English communication この授業では、終了時に学生が以下の能力を身につけていることを目標とします。 ミニ会話の理解をすることができる。 ミニ会話をするすることができる。 基本的な英語コミュニケーションスキルを身に付けることができる。											
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)									
Each time we will start with a free conversation about daily things. Then we learn new words or pattern with the textbook which is followed up by a free conversation and partner work. 毎回、日常会話をやります。それから、教科書で新しい単語と文法を勉強して、パートナーワークで練習します。											
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)									
Please be on time and prepare for this class. 時間を守りましょう。復習をしましょう。											
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)									
Grading will be decided based on active participation (50%) and term-end examination (50%). アクティブな参加 (50%)と試験(50%)によって評価する。											
教科書	Four corners3				著者等		出版社	Cambridge			
教科書					著者等		出版社				
参考文献					著者等		出版社				
参考文献					著者等		出版社				
【オフィスアワー】											
①曜日(月・火・水・木・金・土) ※別途掲示にて発表											
②時間帯(時 分 ~ 時 分)											

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	Talk about your personality 自分の性格について話す	
第2回	Give an opinion 意見を述べる	
第3回	The environment 環境	
第4回	Talk about future possibilities 未来に起こる可能性のあることに話し合う	
第5回	give advice about relationships 人間関係へのアドバイスをする	
第6回	Speculate about people 相手のことを考える	
第7回	Living your life自分らしく生きる	
第8回	Talk about imaginary situations 想像上のことについて話す	
第9回	Talk about music 音楽について話す	
第10回	talk about memorable songs 思い出の曲について話す	
第11回	discuss travel preferences 旅行でしたいことを話し合う	
第12回	talk about rules and recommendations ルールとおすすめについて話す	
第13回	review 復習	
第14回	test 試験	
第15回	party	

科目名(クラス)	Communication Skills II A		開講学期	前期	単位数	1	配当年次	2～4			
担当教員	粕谷 麻里乃	実務家教員	履修対象・条件		パフォーマンス総合芸術専攻生						
【授業の概要】		(360文字以内)									
Communication Skills II A/ II Bは、Communication Skills I A/ I Bの発展として位置付ける。Communication Skills II A では、日常における様々な状況を想定し、コミュニケーションスキルをブラッシュアップすることを目的とする。ロールプレイやペアワーク活動を繰り返すことで、円滑なコミュニケーションのための学修をする(例えば、文法や表現、発音やイントネーションなど確認しながら)。											
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力		思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	○	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢		生涯学習力	
		専攻分野中心の知識と技能	○		課題の発見、分析、解決力			国際感覚	○	社会的責任・リーダーシップ	
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク			
【授業の到達目標】		(360文字以内)									
Communication Skills II A における到達目標は下記の通りである。 ・コミュニケーションにおいて、簡単かつ適切な英語表現(文法、語彙、発音など)を運用できる。 ・簡単な英語表現で「話す、書く」スキルを向上させ、自信を持つことができる。											
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)									
講義、演習(ロールプレイ・ペアワーク・プレゼンテーションなど)の混合形式											
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)									
Communication Skills II A では、口頭発表など発話の機会が多くあるため意欲的な授業参画が求められる。授業で学んだ語彙や表現は復習し、自身で活用できるように定着させること。基本的に前回までの内容・知識を前提として進める。疑問点等に気が付いた時には、講義の際に質問できるよう内容をきちんと把握しておく。											
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)									
授業参加(15%) 授業への貢献(30%) 小テスト及び課題(20%) 期末テスト(35%)											
教科書	初回授業時にお知らせします				著者等		出版社				
教科書					著者等		出版社				
参考文献					著者等		出版社				
参考文献					著者等		出版社				
【オフィスアワー】											
①曜日(月・火・水・木・金・土) ※別途掲示にて発表											
②時間帯(時 分 ～ 時 分)											

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	オリエンテーション ※このスケジュールは暫定的なものであり、授業の進行状況等の事由によっては変更する可能性もあります	予習◇シラバスを読んでください。英語で簡単な(各1～2分程度)自己紹介をしてもらいます。準備してきてください。
第2回	English training for communication(1) 小テスト及び課題	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第3回	English training for communication (2) 小テスト及び課題	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第4回	English training for communication (3) 小テスト及び課題	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第5回	English training for communication (4) 小テスト及び課題	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第6回	English training for communication (5) 小テスト及び課題	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第7回	English training for communication (6) 小テスト及び課題	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第8回	English training for communication (7) 小テスト及び課題	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第9回	English training for communication (8) 小テスト及び課題	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第10回	English training for communication (9) 小テスト及び課題	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第11回	English training for communication (10) 小テスト及び課題	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第12回	English training for communication (11) 小テスト及び課題	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第13回	English training for communication (12) 小テスト及び課題	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第14回	期末テスト	復習◆確認内容をまとめる。
第15回	総括	復習◆今期の学習項目をまとめる。

科目名(クラス)	Communication Skills II B		開講学期	後期	単位数	1	配当年次	2～4	
担当教員	粕谷 麻里乃	実務家教員	履修対象・条件		パフォーマンス総合芸術専攻生				
【授業の概要】		(360文字以内)							
Communication Skills II B は、Communication Skills II A に引き続き、日常における様々な状況を想定し、コミュニケーションスキルをブラッシュアップすることを目的とする。ロールプレイやペアワーク活動を繰り返すことで、円滑なコミュニケーションのための学修をする(例えば、文法や表現、発音やイントネーションなど確認しながら)。授業は全て日本語で実施する。									
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	○	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力	
		専攻分野中心の知識と技能		○	課題の発見、分析、解決力		国際感覚	○	社会的責任・リーダーシップ
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク	
【授業の到達目標】		(360文字以内)							
Communication Skills II B における到達目標は下記の通りである。 ・コミュニケーションにおいて、簡単かつ適切な英語表現(文法、語彙、発音など)を運用できる。 ・簡単な英語表現で「話す、書く」スキルを向上させ、自信を持つことができる。									
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)							
講義、演習(ロールプレイ・ペアワーク・プレゼンテーションなど)の混合形式									
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)							
Communication Skills II B では、口頭発表など発話の機会が多くあるため意欲的な授業参画が求められる。授業で学んだ語彙や表現は復習し、自身で活用できるように定着させること。基本的に前回までの内容・知識を前提として進める。疑問点等に気が付いた時には、講義の際に質問できるよう内容をきちんと把握しておく。									
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)							
授業参加(15%) 授業への貢献(30%) 小テスト及び課題(20%) 期末テスト(35%)									
教科書	Communication Skills II Aに同じ			著者等		出版社			
教科書				著者等		出版社			
参考文献				著者等		出版社			
参考文献				著者等		出版社			
【オフィスアワー】									
①曜日(月・火・水・木・金・土) ※別途掲示にて発表									
②時間帯(時 分 ～ 時 分)									

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	オリエンテーション ※このスケジュールは暫定的なものであり、授業の進行状況等の事由によっては変更する可能性もあります	予習◇シラバスを読んでください。
第2回	English training for communication(1) 小テスト及び課題	予習◇新出単語などは調べてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第3回	English training for communication (2) 小テスト及び課題	予習◇新出単語などは調べてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第4回	English training for communication (3) 小テスト及び課題	予習◇新出単語などは調べてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第5回	English training for communication (4) 小テスト及び課題	予習◇新出単語などは調べてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第6回	English training for communication (5) 小テスト及び課題	予習◇新出単語などは調べてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第7回	English training for communication (6) 小テスト及び課題	予習◇新出単語などは調べてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第8回	English training for communication (7) 小テスト及び課題	予習◇新出単語などは調べてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第9回	English training for communication (8) 小テスト及び課題	予習◇新出単語などは調べてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第10回	English training for communication (9) 小テスト及び課題	予習◇新出単語などは調べてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第11回	English training for communication (10) 小テスト及び課題	予習◇新出単語などは調べてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第12回	English training for communication (11) 小テスト及び課題	予習◇新出単語などは調べてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第13回	English training for communication (12) 小テスト及び課題	予習◇新出単語などは調べてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第14回	期末テスト	復習◆確認内容をまとめる。
第15回	総括	復習◆今期の学習項目をまとめる。

科目名(クラス)	Advanced Communication Skills II A		開講学期	前期	単位数	1	配当年次	1			
担当教員	I. K. レンツ	実務家教員	○	履修対象・条件	パフォーマンス総合芸術専攻生						
【授業の概要】		(360文字以内)									
This course introduces English communication skills to students taking this course. この授業では英語のコミュニケーションスキルについて学びます。 The aim of this course is to help students acquire an understanding of the fundamental principles of English communication. この授業の目的は英語のコミュニケーションの基礎原理を理解することです。 This course deals with basic grammar and communication skills. It also enhances the development of students skill in reading. この授業では基本の文法とコミュニケーションスキルを学びます。また音読の獲得も目指します											
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	○	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	○	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力		
		専攻分野中心の知識と技能			課題の発見、分析、解決力			国際感覚		○	社会的責任・リーダーシップ
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク			
【授業の到達目標】		(360文字以内)									
By the end of the course, students should be able to do the following: Understand short conversations hold short conversations have a brief concept about English communication この授業では、終了時に学生が以下の能力を身につけていることを目標とします。 ミニ会話の理解をすることができる。 ミニ会話をするすることができる。 基本的な英語コミュニケーションスキルを身に付けることができる。											
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)									
Each time we will start with a free conversation about daily things. Then we learn new words or pattern with the textbook which is followed up by a free conversation and partner work. 毎回、日常会話をやります。それから、教科書で新しい単語と文法を勉強して、パートナーワークで練習します。											
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)									
Please be on time and prepare for this class. 時間を守りましょう。復習をしましょう。											
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)									
Grading will be decided based on active participation (50%) and term-end examination (50%). アクティブな参加 (50%)と試験(50%)によって評価する											
教科書	Four corners3				著者等		出版社	Cambridge			
教科書					著者等		出版社				
参考文献					著者等		出版社				
参考文献					著者等		出版社				
【オフィスアワー】											
①曜日(月・火・水・木・金・土) ※別途掲示にて発表											
②時間帯(時 分 ~ 時 分)											

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	Ask and talk about routines 習慣について聞く	Check new vocabulary 新しい単語を調べてください。
第2回	Discuss advantages and disadvantages 良い点と悪い点を話し合う	Check new vocabulary 新しい単語を調べてください。
第3回	Tell personal stories 自分の話を伝える	
第4回	Announce news ニュースを知らせる	
第5回	Express opinions about style and fashion ファッションについて意見	
第6回	Ask where something is in a store 店内のどこにあるか	
第7回	Interesting lives 面白い生活	
第8回	Describe of their experience 体験したことを説明する	
第9回	Express disbelief 信じられないということを言う	
第10回	Compare structures 比べる	
第11回	discuss ways to manage time effectively 有効的な時間整理の方法を話し合う	
第12回	Make request, promises and offers リクエスト、約束、オファーをする	
第13回	review 復習	
第14回	test 試験	
第15回	movie 映画	

科目名(クラス)	Advanced Communication Skills II B		開講学期	後期	単位数	1	配当年次	1			
担当教員	I. K. レンツ	実務家教員	○	履修対象・条件	パフォーマンス総合芸術専攻生						
【授業の概要】		(360文字以内)									
This course introduces English communication skills to students taking this course. この授業では英語のコミュニケーションスキルについて学びます。 The aim of this course is to help students acquire an understanding of the fundamental principles of English communication. この授業の目的は英語のコミュニケーションの基礎原理を理解することです。 This course deals with basic grammar and communication skills. It also enhances the development of students skill in reading. この授業では基本の文法とコミュニケーションスキルを学びます。また音読の獲得も目指します。											
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力		思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	○	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢		生涯学習力	
		専攻分野中心の知識と技能	○		課題の発見、分析、解決力			国際感覚	○	社会的責任・リーダーシップ	
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク			
【授業の到達目標】		(360文字以内)									
By the end of the course, students should be able to do the following: Understand short conversations hold short conversations have a brief concept about English communication この授業では、終了時に学生が以下の能力を身につけていることを目標とします。 ミニ会話の理解をすることができる。 ミニ会話をするすることができる。 基本的な英語コミュニケーションスキルを身に付けることができる。											
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)									
Each time we will start with a free conversation about daily things. Then we learn new words or pattern with the textbook which is followed up by a free conversation and partner work. 毎回、日常会話をやります。それから、教科書で新しい単語と文法を勉強して、パートナーワークで練習します。											
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)									
Please be on time and prepare for this class. 時間を守りましょう。復習をしましょう。											
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)									
Grading will be decided based on active participation (50%) and term-end examination (50%). アクティブな参加 (50%)と試験(50%)によって評価する。											
教科書	Four corners3				著者等		出版社	Cambridge			
教科書					著者等		出版社				
参考文献					著者等		出版社				
参考文献					著者等		出版社				
【オフィスアワー】											
①曜日(月・火・水・木・金・土) ※別途掲示にて発表											
②時間帯(時 分 ~ 時 分)											

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	Talk about your personality 自分の性格について話す	
第2回	Give an opinion 意見を述べる	
第3回	The environment 環境	
第4回	Talk about future possibilities 未来に起こる可能性のあることに話し合う	
第5回	give advice about relationships 人間関係へのアドバイスをする	
第6回	Speculate about people 相手のことを考える	
第7回	Living your life自分らしく生きる	
第8回	Talk about imaginary situations 想像上のことについて話す	
第9回	Talk about music 音楽について話す	
第10回	talk about memorable songs 思い出の曲について話す	
第11回	discuss travel preferences 旅行でしたいことを話し合う	
第12回	talk about rules and recommendations ルールとおすすめについて話す	
第13回	review 復習	
第14回	test 試験	
第15回	party	

科目名(クラス)	Career English A		開講学期	前期	単位数	1	配当年次	2～4		
担当教員	粕谷 麻里乃	実務家教員	履修対象・条件		パフォーマンス総合芸術専攻生					
【授業の概要】		(360文字以内)								
Career English 1 では、ビジネスコミュニケーションに必要な素養を学び、ビジネス英語特有の表現を活用できる能力の育成を目指す。授業はすべて日本語で実施する。										
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	○	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢		生涯学習力	
		専攻分野中心の知識と技能		○	課題の発見、分析、解決力			国際感覚	○	社会的責任・リーダーシップ
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク		
【授業の到達目標】		(360文字以内)								
英語を使って仕事をするには、高度な英語運用力が求められる。本授業における到達目標は下記の通りである。 ・英語の基礎となる「聞く」「話す」「読む」「書く」の4機能を体系的に磨くことができる。 ・必要な情報を取捨選択し、相手の意図を正しく汲みとることができる。 ・ビジネスマナーを踏まえ、英語でのフォーマルなコミュニケーションに対応できる。										
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)								
講義、演習(ロールプレイ・ペアワーク・プレゼンテーションなど)の混合形式										
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)								
Career English1 では、口頭発表をはじめ、発話の機会が多くあるため、意欲的な授業参画が求められる。また、授業で学んだ語彙や表現は復習し、自身で活用できるように定着させていくことが求められる。										
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)								
授業参加(15%) 授業への貢献(30%) 小課題(授業内での課題含む)(15%) 期末テスト(40%)										
教科書	初回授業でお知らせします			著者等		出版社				
教科書				著者等		出版社				
参考文献				著者等		出版社				
参考文献				著者等		出版社				
【オフィスアワー】										
①曜日(月・火・水・木・金・土) ※別途掲示にて発表										
②時間帯(時 分 ～ 時 分)										

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	オリエンテーション 習熟度確認テスト ※このスケジュールは暫定的なものであり、授業の進行状況等の事由によっては変更する可能性があります	予習◇シラバスを読んでください。また、英語で簡単な(各1～2分程度)自己紹介をしてもらいます。準備してきてください。
第2回	English training for Business(1)	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第3回	English training for Business(2)	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第4回	English training for Business(3)	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第5回	English training for Business(4)	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第6回	English training for Business(5)	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第7回	English training for Business(6)	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第8回	English training for Business(7)	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第9回	English training for Business(8)	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第10回	English training for Business(9)	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第11回	English training for Business(10)	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第12回	English training for Business(11)	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第13回	English training for Business(12)	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第14回	学期末確認テスト	復習◆確認内容をまとめる。
第15回	総括	復習◆今期の学習項目をまとめる。

科目名(クラス)	Career English B		開講学期	後期	単位数	1	配当年次	2～4		
担当教員	粕谷 麻里乃	実務家教員	履修対象・条件		パフォーマンス総合芸術専攻生					
【授業の概要】		(360文字以内)								
Career English Bは、情報リテラシー演習である。主に、文書作成・表計算・プレゼンテーションなどの基本アプリケーションの操作、Web情報や文献情報の検索と取得などの分野を学ぶ。成果物は英語で作成するが、授業は日本語で実施する。										
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	○	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	○	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力	
		専攻分野中心の知識と技能			課題の発見、分析、解決力			国際感覚	○	社会的責任・リーダーシップ
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク		
【授業の到達目標】		(360文字以内)								
・専門科目や卒業研究で学ぶ際に、PCやネットワークを活用できる技術や知識を獲得することができる。 ・就職後、PCを有効に使えるための基本的な情報処理の技術や知見を身に付けることができる。										
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)								
PCルームでの講義、PC演習の混合形式										
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)								
Career EnglishB では、日常やビジネスの場面で必要な基本アプリケーションの操作を学ぶ。PC操作による演習授業であり、この科目で習得したスキルを、将来の勉学・仕事などで生かせるよう、積極的な演習への参加を期待する。基本的に前回までの内容・知識を前提として進める。疑問点に気付いた時には、講義の際に質問できるよう内容をきちんと把握しておく。										
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)								
授業参加(15%) 授業への貢献(10%) 小課題(授業内での課題含む)(60%) リアクションペーパー(15%)										
教科書	授業時にお知らせします				著者等		出版社			
教科書					著者等		出版社			
参考文献					著者等		出版社			
参考文献					著者等		出版社			
【オフィスアワー】										
①曜日(月 ・ 火 ・ 水 ・ 木 ・ 金 ・ 土) ※別途掲示にて発表										
②時間帯(時 分 ～ 時 分)										

科目名(クラス)	English Presentation A		開講学期	前期	単位数	1	配当年次	2～4			
担当教員	粕谷 麻里乃	実務家教員	履修対象・条件		パフォーマンス総合芸術専攻生						
【授業の概要】		(360文字以内)									
ビジネスで必要とされる技能の一つにプレゼンテーションがある。English Presentation Aでは、本来のプレゼンテーションのあり方、知識、技法についての理論を含め、演習を通して体系的に学習することを目的とする。また、プレゼンテーションには必ず評価がついてくることから、PDCAサイクルに基づき学習者相互評価を実施し、フィードバックの重要性も理解する。本科目は、すべて日本語で実施する。											
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力		思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力		意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢		生涯学習力	
		専攻分野中心の知識と技能	○		課題の発見、分析、解決力			国際感覚	○	社会的責任・リーダーシップ	
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力	○		自己管理能力・チームワーク			
【授業の到達目標】		(360文字以内)									
様々なテーマについて効果的なプレゼンテーションができるようになることを目標とする。それによって、以下3点に重きを置く。 ・自己主張ではなく、他者を尊重したコミュニケーションを行うことができる。 ・よりよい人間関係構築のためにアサーティブなコミュニケーションができる。 ・資料を用いてプレゼンテーションを行うことができる。											
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)									
講義、演習(ロールプレイ・ペアワーク・プレゼンテーションなど)の混合形式											
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)									
English Presentation Aでは、口頭発表をはじめ、発話の機会が多くあるため、意欲的な授業参画が求められる。また、授業で学んだ語彙や表現は復習し、自身で活用できるように定着させていくことが求められる。基本的に前回までの内容・知識を前提として進める。疑問点等に気が付いた時には、講義の際に質問できるよう内容をきちんと把握しておく。											
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)									
授業参加(15%) 授業への貢献(15%) レポート及び課題提出(30%) プレゼンテーション(40%)											
教科書	初回授業時にお知らせします				著者等		出版社				
教科書					著者等		出版社				
参考文献					著者等		出版社				
参考文献					著者等		出版社				
【オフィスアワー】											
①曜日(月・火・水・木・金・土) ※別途掲示にて発表											
②時間帯(時 分 ～ 時 分)											

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	ガイダンス training for presentation (1)	復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第2回	training for presentation (2)	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第3回	training for presentation (3)	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第4回	training for presentation (4)	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第5回	training for presentation (5)	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第6回	training for presentation (6)	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第7回	training for presentation (7)	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第8回	training for presentation (8)	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第9回	training for presentation (9)	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第10回	training for presentation (10)	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第11回	training for presentation (11)	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第12回	training for presentation (12)	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第13回	training for presentation (13)	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第14回	training for presentation (14)	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第15回	総括	予習◇今までの総復習をし、わからないところは質問できるよう準備してきてください。

科目名(クラス)	English Presentation B		開講学期	後期	単位数	1	配当年次	2～4
担当教員	粕谷 麻里乃	実務家教員	履修対象・条件		パフォーマンス総合芸術専攻生			
【授業の概要】		(360文字以内)						
プレゼンテーションは、自分の考えや主張を効率よく正確に相手に伝えるためのコミュニケーションの一環だといわれる。その目的達成のため、発表者とオーディエンスが構造を共有し、限られた時間内の発表でも誤解を生まない工夫が随所に施されている。その工夫は、プレゼンテーションの構造や表現である。Presentation English Bでは、課題を通じて成功するプレゼンテーションに関する知識を学び、英語のプレゼンテーションに必要な知識や論理構成を学びながら説得力のあるプレゼンテーションを行えるよう訓練する。本科目は、すべて日本語で実施する。								
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力	
		専攻分野中心の知識と技能		課題の発見、分析、解決力		国際感覚	社会的責任・リーダーシップ	
		広範な文化の理解		プレゼンテーション能力		自己管理能力・チームワーク		
【授業の到達目標】		(360文字以内)						
プレゼンテーションの基本を抑えて、重要な英語表現等を理解し、運用できる。 ・コミュニケーションツールとしてのプレゼンテーションの基本を正確に理解する。 ・目的に合わせたプレゼンテーションのタイプを的確に理解し、使うことができる。 ・原稿作成を通して、ライティングのスキルが向上させることができる。								
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)						
講義、演習(ロールプレイ・ペアワーク・プレゼンテーションなど)の混合形式								
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)						
English Presentation B では、口頭発表をはじめ、発話の機会が多くあるため、意欲的な授業参画が求められる。また、授業で学んだ語彙や表現は復習し、自身で活用できるように定着させていくことが求められる。基本的に前回までの内容・知識を前提として進める。疑問点等に気が付いた時には、講義の際に質問できるよう内容をきちんと把握しておく。								
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)						
授業参加(15%) 授業への貢献(15%) レポート及び課題提出(30%) プレゼンテーション(40%)								
教科書	初回授業時にお知らせします			著者等		出版社		
教科書				著者等		出版社		
参考文献				著者等		出版社		
参考文献				著者等		出版社		
【オフィスアワー】								
①曜日(月・火・水・木・金・土) ※別途掲示にて発表								
②時間帯(時 分 ～ 時 分)								

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	ガイダンス training for presentation (1)	復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第2回	training for presentation (2)	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第3回	training for presentation (3)	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第4回	training for presentation (4)	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第5回	training for presentation (5)	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第6回	training for presentation (6)	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第7回	training for presentation (7)	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第8回	training for presentation (8)	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第9回	training for presentation (9)	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第10回	training for presentation (10)	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第11回	training for presentation (11)	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第12回	training for presentation (12)	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第13回	training for presentation (13)	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第14回	training for presentation (14)	予習◇新出単語などは調べてきてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第15回	総括	予習◇今までの総復習をし、わからないところは質問できるよう準備してきてください。

科目名(クラス)	ドイツ語圏異文化コミュニケーションA		開講学期	前期	単位数	1	配当年次	全	
担当教員	粕谷 麻里乃	実務家教員	履修対象・条件		パフォーマンス総合芸術専攻生				
【授業の概要】		(360文字以内)							
ドイツ語圏異文化コミュニケーションA では、日常における様々な状況を想定し課題に取り組むなかで、ドイツ語を用いたコミュニケーションに必要な基礎づくりを目的とする。AとBを通して、ロールプレイやペアワーク活動を繰り返すことで、円滑なコミュニケーションのための学修をする。									
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	○	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力	
		専攻分野中心の知識と技能		○	課題の発見、分析、解決力		国際感覚	○	社会的責任・リーダーシップ
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク	
【授業の到達目標】		(360文字以内)							
ドイツ語圏異文化コミュニケーション A における到達目標は下記の通りである。 ・コミュニケーションにおいて、簡単かつ適切な英語表現(文法、語彙、発音など)を運用できる。 ・簡単なドイツ語表現で「話す、書く」スキルを向上させ、自信を持つことができる。									
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)							
講義、演習(ロールプレイ・ペアワーク・プレゼンテーションなど)の混合形式									
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)							
ドイツ語圏異文化コミュニケーションA では、口頭発表など発話の機会が多くあり、意欲的な授業参画が求められる。また、授業で学んだ語彙や表現は復習し、自身で活用できるように定着させること。基本的に前回までの内容・知識を前提として進める。疑問点等に気が付いた時には、講義の際に質問できるよう内容をきちんと把握しておく。									
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)							
授業参加(15%) 授業への貢献(30%) 小テスト及び課題(20%) 期末テスト(35%)									
教科書	初回授業時にお知らせします			著者等		出版社			
教科書				著者等		出版社			
参考文献				著者等		出版社			
参考文献				著者等		出版社			
【オフィスアワー】									
①曜日(月・火・水・木・金・土) ※別途掲示にて発表									
②時間帯(時 分 ~ 時 分)									

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	オリエンテーション ※このスケジュールは暫定的なものであり、授業の進行状況等の事由によっては変更する可能性もあります	予習◇シラバスを読んでください。
第2回	German training for communication(1) 小テスト及び課題	予習◇新出単語などは調べてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第3回	German training for communication (2) 小テスト及び課題	予習◇新出単語などは調べてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第4回	German training for communication (3) 小テスト及び課題	予習◇新出単語などは調べてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第5回	German training for communication (4) 小テスト及び課題	予習◇新出単語などは調べてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第6回	German training for communication (5) 小テスト及び課題	予習◇新出単語などは調べてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第7回	German training for communication (6) 小テスト及び課題	予習◇新出単語などは調べてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第8回	German training for communication (7) 小テスト及び課題	予習◇新出単語などは調べてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第9回	German training for communication (8) 小テスト及び課題	予習◇新出単語などは調べてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第10回	German training for communication (9) 小テスト及び課題	予習◇新出単語などは調べてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第11回	German training for communication (10) 小テスト及び課題	予習◇新出単語などは調べてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第12回	German training for communication (11) 小テスト及び課題	予習◇新出単語などは調べてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第13回	German training for communication (12) 小テスト及び課題	予習◇新出単語などは調べてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第14回	期末テスト	復習◆確認内容をまとめる。
第15回	総括	復習◆今期の学習項目をまと+C41:AD55める。

科目名(クラス)	ドイツ語圏異文化コミュニケーションB		開講学期	後期	単位数	1	配当年次	全			
担当教員	粕谷 麻里乃	実務家教員	履修対象・条件		パフォーマンス総合芸術専攻生						
【授業の概要】		(360文字以内)									
ドイツ語圏異文化コミュニケーションB では、日常における様々な状況を想定し課題に取り組むなかで、ドイツ語を用いたコミュニケーションに必要な基礎づくりを目的とする。AとBを通して、ロールプレイやペアワーク活動を繰り返すことで、円滑なコミュニケーションのための学修をする。											
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力		思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	○	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢		生涯学習力	
		専攻分野中心の知識と技能	○		課題の発見、分析、解決力			国際感覚	○	社会的責任・リーダーシップ	
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク			
【授業の到達目標】		(360文字以内)									
ドイツ語圏異文化コミュニケーション B における到達目標は下記の通りである。 ・コミュニケーションにおいて、簡単かつ適切な英語表現(文法、語彙、発音など)を運用できる。 ・簡単な英語表現で「話す、書く」スキルを向上させ、自信を持つことができる。											
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)									
講義、演習(ロールプレイ・ペアワーク・プレゼンテーションなど)の混合形式											
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)									
ドイツ語圏異文化コミュニケーションB では、口頭発表など発話の機会が多くあり、意欲的な授業参画が求められる。また、授業で学んだ語彙や表現は復習し、自身で活用できるように定着させること。基本的に前回までの内容・知識を前提として進める。疑問点等に気が付いた時には、講義の際に質問できるよう内容をきちんと把握しておく。											
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)									
授業参加(15%) 授業への貢献(30%) 小テスト及び課題(20%) 期末テスト(35%)											
教科書	初回授業時にお知らせします				著者等		出版社				
教科書					著者等		出版社				
参考文献					著者等		出版社				
参考文献					著者等		出版社				
【オフィスアワー】											
①曜日(月・火・水・木・金・土) ※別途掲示にて発表											
②時間帯(時 分 ~ 時 分)											

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	オリエンテーション ※このスケジュールは暫定的なものであり、授業の進行状況等の事由によっては変更する可能性もあります	予習◇シラバスを読んでください。
第2回	German training for communication(1) 小テスト及び課題	予習◇新出単語などは調べてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第3回	German training for communication (2) 小テスト及び課題	予習◇新出単語などは調べてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第4回	German training for communication (3) 小テスト及び課題	予習◇新出単語などは調べてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第5回	German training for communication (4) 小テスト及び課題	予習◇新出単語などは調べてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第6回	German training for communication (5) 小テスト及び課題	予習◇新出単語などは調べてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第7回	German training for communication (6) 小テスト及び課題	予習◇新出単語などは調べてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第8回	German training for communication (7) 小テスト及び課題	予習◇新出単語などは調べてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第9回	German training for communication (8) 小テスト及び課題	予習◇新出単語などは調べてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第10回	German training for communication (9) 小テスト及び課題	予習◇新出単語などは調べてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第11回	German training for communication (10) 小テスト及び課題	予習◇新出単語などは調べてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第12回	German training for communication (11) 小テスト及び課題	予習◇新出単語などは調べてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第13回	German training for communication (12) 小テスト及び課題	予習◇新出単語などは調べてください。 復習◆授業で扱った表現や新出単語は暗記してください。
第14回	期末テスト	復習◆確認内容をまとめる。
第15回	総括	復習◆今期の学習項目をまと+C41:AD55める。

科目名(クラス)	作曲家の肖像と作品の魅力 I A		開講学期	前期	単位数	2	配当年次	全	
担当教員	山崎 明美	実務家教員	○	履修対象・条件	パフォーマンス総合芸術文化専攻				
【授業の概要】		(360文字以内)							
作曲家の肖像と作品の魅力 I A・Bでは、声楽曲を扱う。 歌とは何か、歌の可能性とは何か。時を超え、国を越えて私たちの耳に届く調べは、先人達の問いかけである。私たちが日ごろ何気なく口ずさんだり、心強く引かれる調べは、クラシックの潮流の中にあり、古きを訪ねて新しきを知ることにより、新たな創造に繋がるといことができる。幅広く作曲家の肖像を学び、その作品の魅力を感じとり、新しい音の中にも脈々と流れている先人の足取りを辿る事で、自らの答えを導きだしていくことを授業の目的とする。I Aでは、約1600年から約1850年までを講義する。									
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力	○	
		専攻分野中心の知識と技能		課題の発見、分析、解決力		○	国際感覚	社会的責任・リーダーシップ	
		広範な文化の理解		○		プレゼンテーション能力	自己管理能力・チームワーク		
【授業の到達目標】		(360文字以内)							
クラシックの声楽曲の源流を理解できる。現代なお演奏される声楽曲の背景である時代、作曲家についての知識を持ち、必要に応じて調べることが出来る。 歴史を理解した上で、時代と共に変化する歌の捉え方を説明できる。歌の可能性とは何かという問いに対して、自ら考え、知識を裏付けとした意見を述べる事が出来る。以上のことを到達目標とする。									
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)							
作曲家及びその時代について教授し、視聴覚機器も用いる。準備学習の成果を発表し、積極的にディスカッションする場を設									
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)							
各自が積極的に課題に取り組むことが必要である。常に十分な準備学習を行い、発表の際は資料作成及び音源の選択もする事。									
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)							
成績評価は以下の三点により行う。 1. 授業への積極性(ディスカッション等における発言内容、課題への取り組みなど) 40% 2. 授業内でのプレゼンテーション 30% 3. 学期末の試験 30% 上記三項目のいずれもそろっていること。									
教科書	特定の教科書は用いない。授業の中で指示する。			著者等		出版社			
教科書				著者等		出版社			
参考文献	授業内で指示する。			著者等		出版社			
参考文献				著者等		出版社			
【オフィスアワー】									
①曜日(月・火・水・木・金・土) ※赤字が実施曜日									
②時間帯(時 分 ~ 時 分) 授業後、また後日掲示の時間帯									

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	はじめに 講義の進め方のオリエンテーション、及び導入	授業シラバスを読んで各回の内容を把握しておく
第2回	モンテヴェルディとパーセル その肖像と作品の魅力	予習: モンテヴェルディ、パーセルについて調べる。 またその声楽作品を聴く 復習: 興味を持った視点(テーマ)について調べる。
第3回	ヴィヴァルディとペルゴレージ その肖像と作品の魅力	予習: ヴィヴァルディ、ペルゴレージについて調べる。 またその声楽作品を聴く 復習: 興味を持った視点(テーマ)について調べる。
第4回	バッハとヘンデル その肖像と作品の魅力	予習: バッハ、ヘンデルについて調べる またその声楽作品を聴く。 復習: 時代を理解し、同時代の声楽曲を聴く。
第5回	グルックとハイドン その肖像と作品の魅力	予習: グルック、ハイドンについて調べる。 またその声楽作品を聴く 復習: 同時代の声楽作品を様々な演奏で聴く。
第6回	モーツァルト その肖像と作品の魅力	予習: モーツァルトについて調べる。多岐にわたる 声楽作品を聴く 復習: 興味を持った作品を楽譜を見ながら聴く。
第7回	ベートーヴェン その肖像と作品の魅力	予習: ベートーヴェンについて調べる。 またその声楽作品を聴く 復習: 興味を持った作品を楽譜を見ながら聴く。
第8回	シューベルト その肖像と作品の魅力	予習: シューベルトについて調べる。 またその声楽作品を聴く 復習: 興味を持った声楽作品を実際に歌ってみる。
第9回	ロッシニ その肖像と作品の魅力	予習: ロッシニについて調べる。 またその声楽作品を聴く 復習: 興味を持った作品を様々な演奏で聴く。
第10回	ドニゼッティとベッリーニ その肖像と作品の魅力	予習: ドニゼッティとベッリーニについて調べる。 またその声楽作品を聴く 復習: 興味を持った作品を様々な演奏で聴く。ベル カントとは何かをまとめる。
第11回	シューマンとメンデルスゾーン その肖像と作品の魅力	予習: シューマンとメンデルスゾーンについて調べる。 またその声楽作品を聴く 復習: 女性作曲家についての説明を復習。また 興味を持った声楽作品を様々な演奏で聴く。
第12回	ヴァーグナー その肖像と作品の魅力	予習: ヴァーグナーについて調べる またその声楽作品を聴く 復習: 音楽の特徴を理解する。様々な演奏で聴く。
第13回	ヴェルディ その肖像と作品の魅力	予習: ヴェルディについて調べる またその声楽作品を聴く 復習: 一生涯にわたる作品を理解する。 様々な作品を聴く。
第14回	オッフェンバッハとJ. シュトラウス その肖像と作品の魅力	予習: オッフェンバッハとJ. シュトラウスについて 調べる。またその声楽作品を聴く 復習: オペレッタについて理解する。興味を持った 作品を歌ってみる。
第15回	まとめ	予習: 各回のテーマを振り返り、この授業から学んだ 事をプレゼンテーションするための資料作成 をする。

科目名(クラス)	作曲家の肖像と作品の魅力 I B			開講学期	前期	単位数	1	配当年次	全	
担当教員	山崎 明美	実務家教員	○	履修対象・条件	パフォーマンス総合芸術文化専攻					
【授業の概要】		(360文字以内)								
作曲家の肖像と作品の魅力 I Aにおいては、約1600年から約1850年までの声楽曲について講義をした。 作曲家の肖像と作品の魅力 I Bは、それ以降の年代の声楽曲を扱う。 歌とは何か、歌の可能性とは何か。時を超え、国を越えて私たちの耳に届く調べと共に、先人達の問いかけは続く。ロマン派後期から近現代の大きなうねりの中にいた作曲家の肖像を学び、その作品の魅力を感じとりながら、自らの答えを導きだしていき、現在私たちが日常に楽しむ音楽のルーツを理解することを授業の目的とする。										
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力		思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力		意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力	○
		専攻分野中心の知識と技能			課題の発見、分析、解決力	○		国際感覚	社会的責任・リーダーシップ	
		広範な文化の理解	○		プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク		
【授業の到達目標】		(360文字以内)								
クラシックの声楽曲の近現代を理解することが出来る。現代声楽曲への大きな転換期でもあり、様々な試みが行われた近現代の声楽曲の背景である時代、作曲家についての知識を持ち、説明することが出来る。歴史を理解した上で、時代と共に変化する歌の捉え方を説明できる。歌の可能性とは何かという問いに対して、自ら考え、知識を裏付けとした意見を述べる事が出来る。前期授業後との変化はあったのか。それは何故なのかを述べる事が出来る。以上を到達目標とする。										
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)								
作曲家及びその時代について教授し、視聴覚機器も用いる。準備学習の成果を発表する機会も設ける。										
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)								
各自が積極的に課題に取り組むことが必要である。常に十分な準備学習を行い、発表の際は資料作成及び音源の選択もする事。										
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)								
成績評価は以下の三点により行う。 1. 授業への積極性(ディスカッション等における発言内容、課題への取り組みなど) 40% 2. 授業内でのプレゼンテーション 30% 3. 学期末の試験 30% 上記三項目のいずれもそろっていること。										
教科書	特定の教科書は用いない。授業の中で指示する。				著者等		出版社			
教科書					著者等		出版社			
参考文献	授業内で指示する。				著者等		出版社			
参考文献					著者等		出版社			
【オフィスアワー】										
①曜日(月・火・水・木・金・土) ※赤字が実施曜日										
②時間帯(時 分 ~ 時 分)授業後、また後日掲示の時間帯										

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	作曲家の肖像とその作品の魅力 I Aの振り返りを行う	予習: I Bに入る前に、I Aの復習を行う。I Aのシラバスを読み準備をすること。 復習: 講義の中で興味を持った事柄についてさらに深く学ぶ。
第2回	ブラームス その肖像と作品の魅力	予習: ブラームスについて調べる。その声楽曲を聴く。 復習: 興味を持った切り口について 調べ、様々な演奏を聴く。
第3回	サンサーンスとビゼー その肖像と作品の魅力	予習: サンサーンスとビゼーについて調べる。 その声楽曲を聴く。 復習: 他のフランスオペラを聴く。
第4回	ドヴォルザークとチャイコフスキー その肖像と作品の魅力	予習: ドヴォルザークとチャイコフスキーについて調べる。その声楽曲を聴く。 復習: 地域的広がりを見せる西洋音楽のあり方を理解する。
第5回	フォーレとサティ その肖像と作品の魅力	予習: フォーレとサティについて調べる。その声楽曲を聴く。 復習: 授業で扱った他のフランス作曲家の声楽曲を聴く。
第6回	レオンカヴァッロとマスカーニ その肖像と作品の魅力	予習: レオンカヴァッロとマスカーニについて調べる。 その声楽曲を聴く。 復習: ヴェリズモオペラを理解し、様々な演奏で聴く。
第7回	プッチーニ その肖像と作品の魅力	予習: プッチーニについて調べる。その声楽曲を聴く。 復習: プッチーニのオペラを一本鑑賞する。
第8回	R. シュトラウス その肖像と作品の魅力	予習: R. シュトラウスについて調べる。その声楽曲を聴く。 復習: オペラ、歌曲共に今なお愛されるシュトラウスの演奏に触れる。
第9回	ヴォルフとマーラー その肖像と作品の魅力	予習: ヴォルフとマーラーについて調べる。その声楽曲を聴く。 復習: 興味を持った曲を楽譜を見ながら聞く。
第10回	シェーンベルクとその時代 その肖像と作品の魅力	予習: シェーンベルクについて調べる。 どんな歌曲作品があるか調べる。 復習: 同時代の他の作曲家の作品を様々な演奏で聴く。
第11回	シュレーカーとコルンゴルド その肖像と作品の魅力	予習: シュレーカーとコルンゴルドについて調べる。 その声楽曲を聴く。 復習: 時代の流れに消えなかった作品、再び演奏されるようになった課程を理解する。
第12回	ガーシュイン その肖像と作品の魅力	予習: ガーシュインについて調べる。その声楽曲を聴く。 復習: 授業で取り上げたほかの作曲家の作品を聴く。
第13回	瀧廉太郎と山田耕筰 その肖像と作品の魅力	予習: 瀧廉太郎と山田耕筰について調べる。その声楽曲を聴く。 復習: 日本声楽作品の黎明期から発展期に移行する流れを整理しておく。
第14回	中田喜直と團伊玖磨 その肖像と作品の魅力	予習: 中田喜直と團伊玖磨について調べる。その声楽曲を聴く。 復習: 日本声楽作品が昭和期に移行する流れを整理しておく。
第15回	まとめ	予習: 作曲家の肖像とその作品の魅力 I Bで学んだ事を整理する。 復習: 興味を持ち、様々な演奏を聴き、楽譜を見て、演奏してみる。

科目名(クラス)	作曲家の肖像と作品の魅力ⅡA			開講学期	前期	単位数	2	配当年次	全	
担当教員	中島 裕紀	実務家教員	○	履修対象・条件	パフォーマンス総合芸術文化専攻					
【授業の概要】		(360文字以内)								
・本授業は、パフォーマンス総合芸術文化専攻を対象とし、ピアノを中心とした鍵盤楽器に関わるクラシック音楽の作曲家とその作品について扱う。 ・音楽に対して、作曲家の人生や時代背景など、様々な角度から眺め、実際に音を聴きながら学ぶことを通して、音楽の面白さを探っていく。 ・ⅡAにおいては、バロック期から古典期(移行期としてシューベルトを含む)の作曲家と音楽を中心に扱う。										
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力		思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力		意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力	○
		専攻分野中心の知識と技能			課題の発見、分析、解決力	○		国際感覚	社会的責任・リーダーシップ	
		広範な文化の理解	○		プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク		
【授業の到達目標】		(360文字以内)								
・鍵盤楽器の変遷について理解することができる。 ・作曲家について興味を持ち、その人生や作品について音楽史とリンクさせて理解することができる。 ・学んだ知識を自らの音楽生活の中で生かし、発展させることができる。 ・授業で扱われた作曲家が生きた時代周辺における他の芸術文化との関連性に興味を持つことができる。										
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)								
講義形式を中心にアクティブなワーク学習を取り入れて授業を展開する。										
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)								
・音楽に対して興味を持ち、積極的な姿勢で授業に臨むこと。 ・授業で扱われた作曲家の様々な作品に興味を持ち、授業で扱った楽曲は、図書館などで全曲を聴いて、予習復習をする。										
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)								
セメスター終了時に提出するレポートの評価70%、毎回の授業におけるワークの評価30%の割合によって評価する。										
教科書	授業計画に沿ったオリジナルテキストを用意する。				著者等		出版社			
教科書					著者等		出版社			
参考文献	すぐわかる！4コマピアノ音楽史 ピアノの誕生～古典派編				著者等		出版社			
参考文献					著者等		出版社			
【オフィスアワー】										
①曜日(月・火・水・木・金・土) ※赤字が実施曜日										
②時間帯 詳細は掲示にて告知										

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	授業ガイダンス ・各回の授業内容について ・評価について ・授業を受けるための準備について ・第2回目の予告	予習・復習: シラバスを精読し、セメスターの授業内容を確認する。
第2回	鍵盤楽器の変遷と鍵盤楽器に関わる作曲家	予習: 鍵盤楽器の歴史について調べる。 復習: 授業内容の確認と整理。
第3回	バロック期以前～バロック期の鍵盤音楽の特徴と様々な作曲家	予習: バロック期の音楽について調べる。 復習: 授業内容を確認し、扱った楽曲を聴く。
第4回	J.S.バッハの生涯と作品1	予習: J.S.バッハについて調べる。 復習: 授業で扱った楽曲を全曲聴く。
第5回	J.S.バッハの生涯と作品2	予習: J.S.バッハについて調べる。 復習: 授業で扱った楽曲を全曲聴く。
第6回	G.F.ヘンデルの生涯と作品	予習: G.F.ヘンデルについて調べる。 復習: 授業で扱った楽曲を全曲聴く。
第7回	D.スカルラッティの生涯と作品	予習: D.スカルラッティについて調べる。 復習: 授業で扱った楽曲を全曲聴く。
第8回	古典期の鍵盤音楽の特徴と様々な作曲家	予習: 古典期の音楽について調べる。 復習: 授業内容を確認し、扱った楽曲を聴く。
第9回	F.J.ハイドンの生涯と作品	予習: F.J.ハイドンについて調べる。 復習: 授業で扱った楽曲を全曲聴く。
第10回	W.A.モーツァルトの生涯と作品1	予習: W.A.モーツァルトについて調べる。 復習: 授業で扱った楽曲を全曲聴く。
第11回	W.A.モーツァルトの生涯と作品2	予習: W.A.モーツァルトについて調べる。 復習: 授業で扱った楽曲を全曲聴く。
第12回	L.v.ベートーヴェンの生涯と作品1	予習: L.v.ベートーヴェンについて調べる。 復習: 授業で扱った楽曲を全曲聴く。
第13回	L.v.ベートーヴェンの生涯と作品2	予習: L.v.ベートーヴェンについて調べる。 復習: 授業で扱った楽曲を全曲聴く。
第14回	F.シューベルトの生涯と作品	予習: F.シューベルトについて調べる。 復習: 授業で扱った楽曲を全曲聴く。
第15回	まとめ	予習・復習: 今期の内容を整理する。

科目名(クラス)	作曲家の肖像と作品の魅力ⅡB	開講学期	前期	単位数	1	配当年次	全	
担当教員	中島 裕紀	実務家教員	○	履修対象・条件	パフォーマンス総合芸術文化専攻			
【授業の概要】		(360文字以内)						
・本授業は、パフォーマンス総合芸術文化専攻を対象とし、ピアノを中心とした鍵盤楽器に関わるクラシック音楽の作曲家とその作品について扱う。 ・音楽に対して、作曲家の人生や時代背景など、様々な角度から眺め、実際に音を聴きながら学ぶことを通して、音楽の面白さを探っていく。 ・ⅡBにおいては、ロマン期から現代に至る作曲家と音楽を中心に扱う。								
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力		コミュニケーション能力		問題を探究する姿勢	生涯学習力	○
		専攻分野中心の知識と技能		課題の発見、分析、解決力	○	国際感覚	社会的責任・リーダーシップ	
		広範な文化の理解	○	プレゼンテーション能力		自己管理能力・チームワーク		
【授業の到達目標】		(360文字以内)						
・ロマン期以降のピアノ音楽の変遷について理解することができる。 ・作曲家について興味を持ち、その人生や作品について音楽史とリンクさせて理解することができる。 ・学んだ知識を自らの音楽生活の中で生かし、発展させることができる。 ・授業で扱われた作曲家が生きた時代周辺における他の芸術文化との関連性に興味を持つことができる。								
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)						
講義形式を中心にアクティブなワーク学習を取り入れて授業を展開する。								
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)						
・音楽に対して興味を持ち、積極的な姿勢で授業に臨むこと。 ・授業で扱われた作曲家の様々な作品に興味を持ち、授業で扱った楽曲は、図書館などで全曲を聴いて、予習復習をする。								
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)						
セメスター終了時に提出するレポートの評価70%、毎回の授業におけるワークの評価30%の割合によって評価する。								
教科書	授業計画に沿ったオリジナルテキストを用意する。			著者等		出版社		
教科書				著者等		出版社		
参考文献	すぐわかる！4コマピアノ音楽史 ピアノの誕生～古典派編			著者等		出版社		
参考文献				著者等		出版社		
【オフィスアワー】								
①曜日(月・火・水・木・金・土) ※赤字が実施曜日								
②時間帯 詳細は掲示にて告知								

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	“授業ガイダンス ・各回の授業内容について ・評価について ・授業を受けるための準備について ・第2回目の予告”	予習・復習: シラバスを精読し、セメスターの授業内容を確認する。
第2回	ロマン期のピアノ音楽の特徴と作曲家	予習: ロマン期の音楽について調べる。 復習: 授業内容を確認し、扱った楽曲を聴く。
第3回	F.メンデルスゾーンの生涯と作品	予習: F.メンデルスゾーンについて調べる。 復習: 授業で扱った楽曲を全曲聴く。
第4回	F.ショパンの生涯とピアノ曲1	予習: F.ショパンについて調べる。 復習: 授業で扱った楽曲を全曲聴く。
第5回	F.ショパンの生涯とピアノ曲2	予習: F.ショパンについて調べる。 復習: 授業で扱った楽曲を全曲聴く。
第6回	F.ショパンの生涯とピアノ曲3	予習: F.ショパンについて調べる。 復習: 授業で扱った楽曲を全曲聴く。
第7回	R.シューマンの生涯と作品1	予習: R.シューマンについて調べる。 復習: 授業で扱った楽曲を全曲聴く。
第8回	R.シューマンの生涯と作品2	予習: R.シューマンについて調べる。 復習: 授業で扱った楽曲を全曲聴く。
第9回	F.リストの生涯と作品	予習: F.リストについて調べる。 復習: 授業で扱った楽曲を全曲聴く。
第10回	J.ブラームスの生涯と作品	予習: J.ブラームスについて調べる。 復習: 授業で扱った楽曲を全曲聴く。
第11回	近代以降のピアノ音楽の特徴と作曲家	予習: 近代以降の音楽について調べる。 復習: 授業内容を確認し、扱った楽曲を聴く。
第12回	G.フォーレの生涯と作品	予習: G.フォーレについて調べる。 復習: 授業で扱った楽曲を全曲聴く。
第13回	C.ドビュッシーの生涯と作品	予習: C.ドビュッシーについて調べる。 復習: 授業で扱った楽曲を全曲聴く。
第14回	M.ラヴェルの生涯と作品	予習: M.ラヴェルについて調べる。 復習: 授業で扱った楽曲を全曲聴く。
第15回	まとめ	予習・復習: 今期の内容を整理する。

科目名(クラス)	日本音楽史			開講学期	前期	単位数	2	配当年次	全
担当教員	船本 英雄	実務家教員	○	履修対象・条件		パフォーマンス総合芸術文化専攻			
【授業の概要】		(360文字以内)							
『歌は世につれ世は歌につれ』といわれています。日本の音楽、主に商業音楽の変遷について、明治以降全てのジャンルを取り上げそれらの楽曲がどのような影響を受け生まれ、またどのような影響を与えたかを時代の背景と共に、リズム、メディア、音響など、様々な切り口で分析していきます。									
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力		思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力		意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能	○		課題の発見、分析、解決力	○		国際感覚	社会的責任・リーダーシップ
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク	
【授業の到達目標】		(360文字以内)							
音楽がいかに社会と関わって歩んで来たかを学び、これからのエンタメに必要なことは何かを考えることができる。									
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)							
講義形式が主です。DVD、CD等の鑑賞も取り入れます。実際にドラムを使ってリズムの変遷などを講義します。									
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)							
好きな曲、ジャンルにとらわれずに、その時代で話題になった楽曲、アーティスト、それらの背景にも興味を持って欲しい。									
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)							
レポート提出とともに授業態度、積極性等を総合的に判断する。									
教科書					著者等			出版社	
教科書					著者等			出版社	
参考文献					著者等			出版社	
参考文献					著者等			出版社	
【オフィスアワー】									
①曜日(月 ・ 火 ・ 水 ・ 木 ・ 金 ・ 土) ※赤字が実施曜日									
②時間帯 14:20～14:50 14:55～15:25 15:30～16:00 17:00～18:00 * PACS業界の先生方は全て城之内管轄でまとめる									

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	1900年代～40年代までの日本の音楽	シラバスの内容に添って自身でyoutube等でその時代の音楽、空気感等を予習。 授業内容を自身でまとめる。
第2回	1940年代～50年代 歌謡曲 Jazzの影響	シラバスの内容に添って自身でyoutube等でその時代の音楽、空気感等を予習。 授業内容を自身でまとめる。
第3回	1950年代 プロダクション	シラバスの内容に添って自身でyoutube等でその時代の音楽、空気感等を予習。 授業内容を自身でまとめる。
第4回	60年代 レコード大賞 紅白歌合戦	シラバスの内容に添って自身でyoutube等でその時代の音楽、空気感等を予習。 授業内容を自身でまとめる。
第5回	60年代 フォーク GS	シラバスの内容に添って自身でyoutube等でその時代の音楽、空気感等を予習。 授業内容を自身でまとめる。
第6回	70年代 アイドル・タレント ニューミュージック	シラバスの内容に添って自身でyoutube等でその時代の音楽、空気感等を予習。 授業内容を自身でまとめる。
第7回	70年代 ロックバンド	シラバスの内容に添って自身でyoutube等でその時代の音楽、空気感等を予習。 授業内容を自身でまとめる。
第8回	80年代 J-pop	シラバスの内容に添って自身でyoutube等でその時代の音楽、空気感等を予習。 授業内容を自身でまとめる。
第9回	80年代 バンドブーム Hip Hop	シラバスの内容に添って自身でyoutube等でその時代の音楽、空気感等を予習。 授業内容を自身でまとめる。
第10回	90年代 ダンス系 バブル	シラバスの内容に添って自身でyoutube等でその時代の音楽、空気感等を予習。 授業内容を自身でまとめる。
第11回	90年代 野外フェス	シラバスの内容に添って自身でyoutube等でその時代の音楽、空気感等を予習。 授業内容を自身でまとめる。
第12回	2000年代	シラバスの内容に添って自身でyoutube等でその時代の音楽、空気感等を予習。 授業内容を自身でまとめる。
第13回	2000年代	シラバスの内容に添って自身でyoutube等でその時代の音楽、空気感等を予習。 授業内容を自身でまとめる。
第14回	2010年代	シラバスの内容に添って自身でyoutube等でその時代の音楽、空気感等を予習。 授業内容を自身でまとめる。
第15回	まとめ	シラバスの内容に添って自身でyoutube等でその時代の音楽、空気感等を予習。 授業内容を自身でまとめる。

科目名(クラス)	西洋音楽史			開講学期	後期	単位数	2	配当年次	全
担当教員	信田 かずお	実務家教員	○	履修対象・条件	パフォーマンス総合芸術文化専攻				
【授業の概要】		(360文字以内)							
音楽のボーダーレス化が著しい今。特に、ポップス領域として、「洋楽の歴史」を主体とした解説により、音楽の多様性に対する柔軟な応用力を養うことは、音楽やイベントをプロデュースするための実践力に繋がります。 この授業では、1940年から2000年代までのアメリカ、EUのあらゆるジャンルのポップス音楽を紹介すると同時に、その時代背景と社会との接点を解説するとともに各国のトレンド音楽にも着目し、試聴していく。									
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力		思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力		意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能	○		課題の発見、分析、解決力	○		国際感覚	社会的責任・リーダーシップ
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク	
【授業の到達目標】		(360文字以内)							
幅広い欧州のポップス音楽の変遷を見聞き音楽知識を高めることで、プロデュース、およびディレクション能力を身につけることができる。									
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)							
講義形式とともに、実践で当時の楽曲の作編曲の方法等を講義。また、CDやyoutube等を使用し動画と音楽をリンクさせる。									
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)							
遅刻早退は原則的に認めません。毎回の授業で各音楽ジャンルの印象や感想などをノートさせる。									
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)							
課題による評価及び出席日数、授業への積極性と受講態度を総合的に評価する。									
教科書					著者等			出版社	
教科書					著者等			出版社	
参考文献					著者等			出版社	
参考文献					著者等			出版社	
【オフィスアワー】									
①曜日(月・火・水・木・金・土) ※赤字が実施曜日									
②時間帯14:20~14:50 14:55~15:25 15:30~16:00 17:00~18:00 * PACS業界の先生方は全て城之内管轄でまとめる									

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	1940年から50年代のアメリカンポップ、オールデイズ等とその時代背景など検証。	毎回、授業内容に添って自身で予め研究～復習をする。
第2回	オールデイズとエレキバンドの登場、ベンチャーズ他。	毎回、授業内容に添って自身で予め研究～復習をする。
第3回	オールデイズとジャズコンテンツの歴史。ビッグバンド、コンボバンド。 デイキシーランドジャズとブルース。	毎回、授業内容に添って自身で予め研究～復習をする。
第4回	スタンダードナンバーとCMに関して。ジャズボーカル、ジャズコーラスの歴史。	毎回、授業内容に添って自身で予め研究～復習をする。
第5回	1960年代ビートルズの登場 その1	毎回、授業内容に添って自身で予め研究～復習をする。
第6回	1960年代ビートルズの登場その2、 ローリングストーンズ他のロックバンド等を紹介。	毎回、授業内容に添って自身で予め研究～復習をする。
第7回	イタリア、フランスのヒットポップ。南米のタンゴ、ボサノヴァ、ラテン音楽。	毎回、授業内容に添って自身で予め研究～復習をする。
第8回	1970年代ヒットポップとフォーオクソング、カントリー音楽。	毎回、授業内容に添って自身で予め研究～復習をする。
第9回	その2と映画音楽ヒット曲と作曲家。	毎回、授業内容に添って自身で予め研究～復習をする。
第10回	AOR,ブラックコンテンポラリー、ファンク音楽、ブラスロック	毎回、授業内容に添って自身で予め研究～復習をする。
第11回	1980年代ヒットポップと、歴代グラミー賞受賞曲 その1	毎回、授業内容に添って自身で予め研究～復習をする。
第12回	1980年代ヒットポップと、歴代グラミー賞受賞曲 その2、クインシージョーンズとデビッドフォスターというプロデューサーのヒット曲。	毎回、授業内容に添って自身で予め研究～復習をする。
第13回	1990年代ヒット曲その1	毎回、授業内容に添って自身で予め研究～復習をする。
第14回	1990年代ヒット曲その2、ラップミュージック	毎回、授業内容に添って自身で予め研究～復習をする。
第15回	西洋音楽全体のまとめ。	毎回、授業内容に添って自身で予め研究～復習をする。

科目名(クラス)	エンタメビジネスA			開講学期	前期	単位数	2	配当年次	全
担当教員	弘瀬 増美	実務家教員	○	履修対象・条件	パフォーマンス総合芸術文化専攻				
【授業の概要】		(360文字以内)							
・現代のエンターテインメントビジネスの現場の実態や傾向を学生に伝えることで、各自の進路の決定の指針を提供すると共に、社会にでてからの注意点を含め、役立つ情報を提供する授業 ・エンターテインメントビジネスにおける会社の運営実態の他、そこに勤めるスタッフや、出演者個人の立場で必要とする知識や注意点を現場の立場から教えます。これにより、社会に出てから失敗しないノウハウを学んでもらいます。									
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力		
		専攻分野中心の知識と技能		課題の発見、分析、解決力		国際感覚	社会的責任・リーダーシップ		
		広範な文化の理解		プレゼンテーション能力		自己管理能力・チームワーク			
【授業の到達目標】		(360文字以内)							
・エンターテインメントビジネスの現状を理解し、進路決定の指標を持つことができる。 ・社会にでてからの、最低限の知識やノウハウを得て、失敗しない社会人を目標とすることができる。 ・音楽家として、音楽以外に必要なノウハウや、やるべき事を学ぶことができる。 ・前期の授業では、「エンターテインメントビジネス」を広く浅く知ってもらい、後期の授業では、それぞれを深く、実践することができる。									
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)							
・講義中心にエンターテインメントビジネスの実態を伝えると共に、現場の実例を紹介していきます。									
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)							
・エンターテインメントビジネスに関わる広い知識を得る意識を持ってもらい、個人としての仕事のまわりにあるエンタメビジネスの全体像を知った上での、各自の位置を認識しようとする意欲を求めます。									
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)							
・前期最後のテストの評価と、各授業の取り組み方、発言や質問などの内容や意欲を総合的に評価する。									
教科書				著者等			出版社		
教科書				著者等			出版社		
参考文献				著者等			出版社		
参考文献				著者等			出版社		
【オフィスアワー】									
曜日(月 ・ 火 ・ 水 ・ 木 ・ 金 ・ 土) ※赤字が実施曜日									
②時間帯 ②時間帯 時間帯 14:20～14:50 14:55～15:25 15:30～16:00 17:00～18:00 * PACS業界の先生方は全て城之内管轄でまとめる									

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	2020/4/7 ・講師経歴の紹介 ・音楽業界及びそれ以外のエンターテインメントビジネス(スポーツ～芸能～音楽～ライブハウス運営)に関わってきた経験や、現場の裏話などのエピソードの紹介をし、今後の授業への関心を高めてもらいます。	予習・復習は不要 パソコンを持込、パワーポイントでビジネスを紹介します。
第2回	2020/4/14 ・生徒の自己紹介 ・ライブハウスの立ち上げから運営の実態を紹介し、出演者になるためのヒントや注意点などを講義します。	予習: 自分の得意分野、売り込める点を事前にメモ
第3回	2020/4/21 ・タレントマネージャーの立場から、エンタメビジネスの実際の業務を紹介します。	予習・復習は不要 パソコンを持込、パワーポイントでビジネスを紹介します。
第4回	2020/4/28 ・エンターテインメントの世界で働く際の個人的な必要知識を講義します。 (所得に関する会計面や、事務処理など社会に出て最初に必要となる基礎知識の紹介)	予習・復習は不要 パソコンを持込、パワーポイントでビジネスを紹介します。
第5回	2020/5/5 ・エンタメの世界に必要な、パソコンの必要性について講義します。 ・鍵盤楽器とそれ以外の楽器のエンタメ業界での優位性について	予習・復習は不要 パソコンを持込、パワーポイントでビジネスを紹介します。
第6回	2020/5/12 ・コンサートやライブなどの「制作」の概要を講義します。 コンサートを実施する方法論について コンサートを成功させる最低限の準備とは？	予習・復習は不要 パソコンを持込、パワーポイントでビジネスを紹介します。
第7回	2020/5/19 ・エンターテインメントビジネスにおける働き方の形態の違いと特徴を紹介します。 (事務所や会社へ所属する場合の給料制と歩合制の違い／個人事業主)	予習・復習は不要 パソコンを持込、パワーポイントでビジネスを紹介します。
第8回	2020/5/26 ・演奏家の立場からのエンターテインメント (講師講師予定 小山説白) グループサウンズのバックバンドのバンドマスターとしてのベテラン歴 40余年 プロのミュージシャンを目指す際のノウハウを講義。	予習・復習は不要 パソコンを持込、パワーポイントでビジネスを紹介します。
第9回	2020/6/2 ・学生時代の学習をエンターテインメントビジネスへつなげる方法論 (講師代理 担当者選定中)	予習・復習は不要 パソコンを持込、パワーポイントでビジネスを紹介します。
第10回	2020/6/9 ・演奏家マネジメント (代理講師予定 清水敬介) 国民的歌手のマネージャー業を経て、芸能事務所の経営の他、音大生徒をプロのミュージシャンに育てた実績など、現場に即した講義を実施	予習・復習は不要 パソコンを持込、パワーポイントでビジネスを紹介します。
第11回	2020/6/16 ・音楽で生活していくために、仕事がもらえる人、もらいにくい人……	予習・復習は不要 パソコンを持込、パワーポイントでビジネスを紹介します。
第12回	2020/6/23 ・エンタメ現場で必要とされるミュージシャンになるために(代理講師予定: 小山将平) ギタリスト (荻野目洋子や中西圭三のバックミュージシャンを務める他、昭和歌謡アイドル歌手などのサポートギタリストとして20才代より活躍) 広いジャンルから仕事を 得るためのノウハウを実体験をもとに講義。	予習・復習は不要 パソコンを持込、パワーポイントでビジネスを紹介します。
第13回	2020/6/30 ※代理講師になる可能性あり ・4月～6月の間に、授業以外でコンサート現場に生徒を招待し、(弘瀬同行) 実際の現場を体験し、得たものをディスカッションしていただきます。	予習 第12回までに得た知識のまとめメモの作成
第14回	2020/7/7 ・第13回までの講義を簡単におさらいし、翌週のテストの傾向をお話しします。	
第15回	2020/7/14 ・筆記テストまたは感想文作成 ・後期授業に向けた、宿題(課題)の提供	

科目名(クラス)	エンタメビジネスB			開講学期	後期	単位数	2	配当年次	全
担当教員	弘瀬 増美	実務家教員	○	履修対象・条件	パフォーマンス総合芸術文化専攻				
【授業の概要】		(360文字以内)							
・前期授業で学んだことを、より掘り下げて講義することで、実践の現場に出てから困らない基礎知識の習得を目指します。									
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	○	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	○	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能			課題の発見、分析、解決力			国際感覚	社会的責任・リーダーシップ
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク	
【授業の到達目標】		(360文字以内)							
・各人が、できるだけ明確な将来目標を決められるよう、情報を得ることができる。 ・各人の進路の目標に即した知識を身に着け、卒業後の希望進路を決めることができる。									
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)							
・講義中心にエンターテインメントビジネスの実態を伝えと共に、各自の進路希望などを発表してもらうことで、他の生徒とのコミュニケーションも実施。									
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)							
・疑問点などを積極的に質問する姿勢で、各自の意欲を評価しますので、多くの発言の機会を与えます。									
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)							
・後期最後のテストの評価と、各授業の取り組み方、発言や質問などの内容や意欲を総合的に評価する。									
教科書					著者等			出版社	
教科書					著者等			出版社	
参考文献					著者等			出版社	
参考文献					著者等			出版社	
【オフィスアワー】									
曜日(月 ・ 火 ・ 水 ・ 木 ・ 金 ・ 土) ※赤字が実施曜日									
②時間帯 ②時間帯 時間帯 14:20～14:50 14:55～15:25 15:30～16:00 17:00～18:00 * PACS業界の先生方は全て城之内管轄でまとめる									

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	2020/9/15 ・休み中 2カ月間に得たエンタメの作文作成 と 後期授業で知りたい事・・・	予習・復習は不要 パソコンを持込、パワーポイントでビジネスを紹介します。
第2回	2020/9/22 ・エンターテインメントビジネスにおける演奏家としてのコード理論の必要性について	予習: 自分の得意分野、売り込める点を事前にメモ
第3回	2020/9/29 ・演奏家とマネージャーやスタッフの役目や仕事内容の違いについて ・エンターテインメント グッズの話	予習・復習は不要 パソコンを持込、パワーポイントでビジネスを紹介します。
第4回	2020/10/6 ・エンタメビジネスにおけるホームページやSNSの必要性	予習・復習は不要 パソコンを持込、パワーポイントでビジネスを紹介します。
第5回	2020/10/13 ・エンタメビジネスの落とし穴と弱点についての講義	予習・復習は不要 パソコンを持込、パワーポイントでビジネスを紹介します。
第6回	2020/10/20 ・「一人なのか、グループ(バンド)なのか・・・」 ・メンバーは仲間なのか敵(ライバル)なのか?	予習・復習は不要 パソコンを持込、パワーポイントでビジネスを紹介します。
第7回	2020/10/27 ・エンターテインメントビジネスの創成期の役割から現在のビジネスモデルについて ・つぶしがきく立ち位置や業務と、つぶしがきかない業務	予習・復習は不要 パソコンを持込、パワーポイントでビジネスを紹介します。
第8回	2020/11/10 ・表舞台と裏舞台の役割と各々の長所、短所について	予習・復習は不要 パソコンを持込、パワーポイントでビジネスを紹介します。
第9回	2020/11/17 ・音と映像 ・音楽の仕事における、映像の必要性や利用方法について	予習・復習は不要 パソコンを持込、パワーポイントでビジネスを紹介します。
第10回	2020/11/24 ・エンタメビジネスにおける、音楽家として必要な機材(楽器以外)の紹介と利点 譜面 プロンプター パソコンの利用 音響機器など・・・	予習・復習は不要 パソコンを持込、パワーポイントでビジネスを紹介します。
第11回	2020/12/1 ・コンサートやライブの告知方法や券売りの実態や受付方法について ・他人の楽曲を演奏する際の留意点と準備など	予習・復習は不要 パソコンを持込、パワーポイントでビジネスを紹介します。
第12回	2020/12/8 ・コンサートの実施に向けた準備の授業 ・コンサート現場での心得や注意点 (課外授業が可能なら、実際に1月にライブハウスでのライブを体験実施したい)	予習・復習は不要 パソコンを持込、パワーポイントでビジネスを紹介します。
第13回	2020/12/22 ・仕事を得るための各自のプロフィール制作の授業 ・リーフレット制作のポイントについて	予習 第12回までに得た知識のまとめメモの作成
第14回	2021/1/12 ・後期授業のおさらいとテストの傾向の話	
第15回	2020/1/19 ・筆記テスト	

科目名(クラス)	ライブパフォーマンス&スタッフワークA	開講学期	前期	単位数	2	配当年次	1				
担当教員	城之内 ミサ	実務家教員	○	履修対象・条件	パフォーマンス総合芸術文化専攻						
【授業の概要】		(360文字以内)									
クラウド、AI、IoTといった様々なデジタル技術の進化とともにデジタルトランスフォーメーション(デジタルを利用した改革／DX)の実現に向けて、世の中は大きく動き出しています。 デジタルネイティブ世代が業界の中枢を担って来つつある昨今ですが、実際のエンタメ業界では、人と人とのコミュニケーションで成り立っている側面が非常に大きいと感じています。 そのためにも「目標を掲げ、ひとつのものを協力しながら制作する」という、ある意味、非常にシンプルな動機を授業に取り入れ、エンタメ業界で通用する「人間力」とは何かを考えマネジメントする授業。											
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力		思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力		意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢		生涯学習力	
		専攻分野中心の知識と技能	○		課題の発見、分析、解決力	○		国際感覚		社会的責任・リーダーシップ	
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク	○		
【授業の到達目標】		(360文字以内)									
目標を達成するにはリーダーの資質を高めることと同時にチーム力を身につけることを常にあたまに置いてマネジメントすることが重要。『ワンチーム』の論理を理解する。 『チームマネジメント』として、プロデュース・マネジメント・制作サイド・演者がひとつのチームになって、東邦ミュージックフェスティバルでのパフォーマンスを実施することができる。											
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)									
講義形式ですが実践としての側面もあります。DVD、yotube等を使用する場合もあります。											
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)									
アクティブラーニングを取り入れ、学生の皆さんが何をやりたいかをディスカッションしながら授業が展開していきます。闊達な意見とともに、お互いの意見や感性を認め、尊重しながら、異論に対しても柔軟に対応する広い心と視野を持って授業にのぞんでいただきたいです。											
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)									
課題、授業への積極性、受講態度を総合的に評価する。											
教科書		著者等		出版社							
教科書		著者等		出版社							
参考文献		著者等		出版社							
参考文献		著者等		出版社							
【オフィスアワー】											
①曜日(月 ・ 火 ・ 水 ・ 木 ・ 金 ・ 土) ※赤字が実施曜日											
②時間帯 14:20～14:50 14:55～15:25 15:30～16:00 17:00～18:00 * PACS業界の先生方は全て城之内管轄でまとめる											

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	オリエンテーション～エンタメ業界に於ける「コミュニケーション」とは 締めきりが文化を作る！	予習: シラバスを読んでおく
第2回	東邦ミュージックフェスティバル～ライブの魅力～観客に何を伝えよう？	復習: 授業内容を再度、自分なりに分析してみる。
第3回	それぞれの企画発表(プレゼン)	復習: 授業内容を再度、自分なりに分析してみる。
第4回	企画を基にした役割分担 構成～台本の考査	復習: 授業内容を再度、自分なりに分析してみる。
第5回	(構成～台本の作成期間) 何かに付随した音楽(BGM)考査	復習: 授業内容を再度、自分なりに分析してみる。
第6回	構成、台本が出来上がる～芝居がある場合はキャスティング、 コンサート形式であれば誰がパフォーマンスをするのか等を決定	復習: 授業内容を再度、自分なりに分析してみる。
第7回	構成の確認～本読み、ステージング	復習: 授業内容を再度、自分なりに分析してみる。
第8回	稽古	復習: 授業内容を再度、自分なりに分析してみる。
第9回	稽古	復習: 授業内容を再度、自分なりに分析してみる。
第10回	稽古	復習: 授業内容を再度、自分なりに分析してみる。
第11回	稽古	復習: 授業内容を再度、自分なりに分析してみる。
第12回	稽古	復習: 授業内容を再度、自分なりに分析してみる。
第13回	稽古	復習: 授業内容を再度、自分なりに分析してみる。
第14回	リハーサル	復習: 授業内容を再度、自分なりに分析してみる。
第15回	リハーサル～まとめ	復習: 授業内容を再度、自分なりに分析してみる。

科目名(クラス)	ライブパフォーマンス&スタッフワークB	開講学期	後期	単位数	2	配当年次	全				
担当教員	城之内 ミサ	実務家教員	○	履修対象・条件	パフォーマンス総合芸術文化専攻						
【授業の概要】		(360文字以内)									
クラウド、AI、IoTといった様々なデジタル技術の進化とともにデジタルトランスフォーメーション(デジタルを利用した改革／DX)の実現に向けて、世の中は大きく動き出しています。 デジタルネイティブ世代が業界の中核を担って来つつある昨今ですが、実際のエンタメ業界では、人と人とのコミュニケーションで成り立っている側面が非常に大きいと感じています。 そのためにも「目標を掲げ、ひとつのものを協力しながら制作する」という、ある意味、非常にシンプルな動機を授業に取り入れ、エンタメ業界で通用する「人間力」とは何かを考えマネジメントする授業。											
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力		思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力		意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢		生涯学習力	
		専攻分野中心の知識と技能	○		課題の発見、分析、解決力	○		国際感覚		社会的責任・リーダーシップ	
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク	○		
【授業の到達目標】		(360文字以内)									
目標を達成するにはリーダーの資質を高めることと同時にチーム力を身につけることを常にあたまに置いてマネジメントすることが重要。『ワンチーム』の論理を理解する。 『チームマネジメント』として、プロデュース・マネジメント・制作サイド・演者がひとつのチームになって、東邦ミュージックフェスティバルでのパフォーマンスを実施することができる。											
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)									
講義形式ですが実践としての側面もあります。DVD、yotube等を使用する場合もあります。											
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)									
アクティブラーニングを取り入れ、学生の皆さんが何をやりたいかをディスカッションしながら授業が展開していきます。闊達な意見とともに、お互いの意見や感性を認め、尊重しながら、異論に対しても柔軟に対応する広い心と視野を持って授業にのぞんでいただきたいです。											
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)									
課題、授業への積極性、受講態度を総合的に評価する。											
教科書		著者等		出版社							
教科書		著者等		出版社							
参考文献		著者等		出版社							
参考文献		著者等		出版社							
【オフィスアワー】											
①曜日(月 ・ 火 ・ 水 ・ 木 ・ 金 ・ 土) ※赤字が実施曜日											
②時間帯 14:20～14:50 14:55～15:25 15:30～16:00 17:00～18:00 * PACS業界の先生方は全て城之内管轄でまとめる											

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	ゲネのゲネ フェスの本番は10/10または10/11(準備は10/8、10/9)	
第2回	フェスの感想～本番時の映像鑑賞	
第3回	AMSR、オノマトペ(擬音考査)	復習:授業内容を自分なりに分析し再考する。
第4回	シチュエーションと音楽～CM音楽の構築	復習:授業内容を自分なりに分析し再考する。
第5回	CM音楽～ シングル(5秒)を作る 広告疑似会議	復習:授業内容を自分なりに分析し再考する。
第6回	芝居と音楽1	復習:授業内容を自分なりに分析し再考する。
第7回	芝居と音楽2	復習:授業内容を自分なりに分析し再考する。
第8回	音楽のジャンルとらしさ	復習:授業内容を自分なりに分析し再考する。
第9回	楽曲アナリゼ	復習:授業内容を自分なりに分析し再考する。
第10回	パフォーマンスの『極意』を考える	復習:授業内容を自分なりに分析し再考する。
第11回	コードとメロディの関係1	復習:授業内容を自分なりに分析し再考する。
第12回	コードとメロディの関係2	復習:授業内容を自分なりに分析し再考する。
第13回	イベント制作 スタッフの仕事	復習:授業内容を自分なりに分析し再考する。
第14回	さまざまな音楽のジャンル	復習:授業内容を自分なりに分析し再考する。
第15回	まとめ	復習:授業内容を自分なりに分析し再考する。

科目名(クラス)	日本の伝統音楽概説A			開講学期	前期	単位数	2	配当年次	2
担当教員	林 信子	実務家教員	○	履修対象・条件	パフォーマンス総合芸術文化専攻				
【授業の概要】		(360文字以内)							
・日本の伝統音楽に関する様々な知識を、幅広く身につけられるようにします。 ・専門知識を必要とする和楽器ですが、身近で取り組みやすい楽器のひとつである「箏」を主に取り上げ、歴史や奏法を学びながら、古来から培われてきた日本の伝統について学びます。 ・日本の伝統音楽を身近に感じ、和楽器に対する理解を深めます。 ・日本の音階が、様々なところで現代に生きていること等を、箏の調弦法を通して学習します。 ・東アジアに存在する「箏」に類似した楽器についての知識を得ながら、日本の伝統文化との比較についても共に考察します。									
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力		思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力		意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能	○		課題の発見、分析、解決力	○		国際感覚	社会的責任・リーダーシップ
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク	
【授業の到達目標】		(360文字以内)							
・日本音楽の伝統的な種目のひとつである箏曲の実技について、楽器の構造と取り扱い方、楽譜の読み方、伝統的かつ基本的な演奏方法などを習得し、日本の伝統音楽を身近に感じることができる。 ・最も基本的な練習曲「さくら」や、記譜法の違う「三段の調べ」を教材として、広範な知識を得つつ、箏を演奏することが出来る。 ・箏曲の歴史を学び、知識を深めながら、幅広い箏曲の可能性について、共に考える時間を持ち、これからの日本音楽の未来を担う若い世代に邦楽の魅力と楽しさを伝えることが出来る。									
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)							
講義形式と、楽器を用いた実技形式が主です。(DVD等の鑑賞も取り入れます)									
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)							
・伝統楽器を学ぶことにより、古来より培われてきた様々な大切な伝統も自然に身に着けられるようにと考えます。									
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)							
課題による採点及び、授業への積極性、受講態度で総合的に判断									
教科書	六段の調				著者等	八橋 検校	出版社	邦楽社	
教科書	三段の調べ				著者等	久本 玄智	出版社	前川出版社	
参考文献	箏の物語(DVD)				著者等	小島美子	出版社	(株)邦楽ジャーナル	
参考文献	やさしく学べる箏教本、他				著者等	福永千恵子、他	出版社	汐文社、他	
【オフィスアワー】									
①曜日(月 ・ 火 ・ 水 ・ 木 ・ 金 ・ 土) ※赤字が実施曜日									
②時間帯 14:20～14:50 14:55～15:25 15:30～16:00 17:00～18:00 * PACS業界の先生方は全て城之内管轄でまとめる									

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	オリエンテーション	授業の内容を自分なりに復習する。
第2回	楽器の構造と名称、付属品を含む取り扱い方について	授業の内容を自分なりに復習する。
第3回	箏曲の調弦	授業の内容を自分なりに復習する。
第4回	箏曲の楽譜の読み方	授業の内容を自分なりに復習する。
第5回	構え方と爪を使った基本的な奏法	授業の内容を自分なりに復習する。
第6回	練習曲による基本的な演奏「さくら」	授業の内容を自分なりに復習する。
第7回	「三段の調べ」の演奏(出版社の違いによる楽譜の見方)	授業の内容を自分なりに復習する。
第8回	伝統的な型を用いた奏法	授業の内容を自分なりに復習する。
第9回	「さくら」「三段の調べ」の演奏	授業の内容を自分なりに復習する。
第10回	音階について	授業の内容を自分なりに復習する。
第11回	古典「六段の調」の演奏 ①	授業の内容を自分なりに復習する。
第12回	箏曲の歴史を概説	授業の内容を自分なりに復習する。
第13回	古典「六段の調」の演奏 ②	授業の内容を自分なりに復習する。
第14回	東アジア圏における箏の比較	授業の内容を自分なりに復習する。
第15回	邦楽全般の中における箏曲の特徴と比較について 古典「六段の調」の演奏 ③	授業の内容を自分なりに復習する。

科目名(クラス)	日本の伝統音楽概説B			開講学期	後期	単位数	2	配当年次	2	
担当教員	林 信子	実務家教員	○	履修対象・条件	パフォーマンス総合芸術文化専攻					
【授業の概要】		(360文字以内)								
・前期で学んだ「箏」についての学習を更に深め、地歌箏曲の発声法や、箏と合奏する尺八・三弦について知り、更に範囲を広げ、様々な日本の伝統音楽に興味を持ち、知識を得られるようにします。 ・地歌三弦(三味線)の体験をしながら、日本の伝統音楽には欠かせない、三味線音楽を主体とする江戸時代の芸術について学びます。 ・日本に古来から伝わる様々なジャンルの伝統音楽(雅楽、能、狂言、歌舞伎、その他民俗音楽等)について、DVDを通し幅広く身につけ、社会人としての必要な知識を学びます。 ・日本の伝統音楽を学ぶことを通しながら、世界の民族音楽や西洋音楽との比較考察をし、広い視野を持てるようにします。 ・箏の実技においては、DVD鑑賞の時間にも、可能な限り実施することとします。										
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力		思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力		意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢		生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能	○		課題の発見、分析、解決力	○		国際感覚		社会的責任・リーダーシップ
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク		
【授業の到達目標】		(360文字以内)								
・日本音楽の伝統的な器楽種目のひとつである箏曲の実技について、奏法等を更に習得し、前期で学んだ練習曲「さくら」や、「三段の調べ」の合奏を体験しながら、日本伝統音楽における調和についても学び、知識を得ることができる。 ・古典の名曲「六段の調」の初段部分を演奏出来るよう目指し、長い年月をかけて培われてきた日本の伝統について様々な観点から考察できる。 ・箏を独奏し、また楽器や備品の取り扱いも出来る。 ・地歌の発声について学び、邦楽独特の発声法についても習得することができる。 ・日本の伝統音楽には、様々なジャンルがあり、培われてきた時代と共に、それを伝えて来た人々の背景についても学ぶことを通し、現代に息づく日本の美しい伝統について共に考察し、未来に向けての方向性などについても考える時間とします。										
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)								
講義形式と、楽器を用いた実技形式が主です。(DVD等の鑑賞も取り入れます)										
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)								
・伝統楽器を学ぶことにより、古来より培われてきた様々な大切な伝統も自然に身に着けられるようにと考えます。										
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)								
課題による採点及び、授業への積極性、受講態度で総合的に判断										
教科書	日本の伝統芸能と和楽器(DVD)				著者等	小島美子、他	出版社	NHKソフトウェア		
教科書	教官が作成した資料に基づく				著者等		出版社			
参考文献	日本音楽との出会い				著者等	月溪恒子	出版社	東京堂出版		
参考文献	和楽器の世界、他				著者等	西川浩平	出版社	河出書房新社		
【オフィスアワー】										
①曜日(月 ・ 火 ・ 水 ・ 木 ・ 金 ・ 土) ※実施曜日を○で囲って下さい。										
②時間帯 14:20～14:50 14:55～15:25 15:30～16:00 17:00～18:00 * PACS業界の先生方は全て城之内管轄でまとめる										

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	古典「六段の調」他の演奏 ①、古典の調弦法について	授業の内容を自分なりに復習する。
第2回	地歌の発声について、古典「鶴の声」を題材に学ぶ。他に、小曲も試みる。	授業の内容を自分なりに復習する。
第3回	日本音楽史概説（現存する日本の伝統音楽の種類について学ぶ）	授業の内容を自分なりに復習する。
第4回	尺八・三曲合奏について学ぶ（DVD鑑賞、資料による学習）	授業の内容を自分なりに復習する。
第5回	雅楽について学ぶ（DVD鑑賞、資料による学習）	授業の内容を自分なりに復習する。
第6回	民俗芸能について学ぶ（DVD鑑賞、資料による学習）	授業の内容を自分なりに復習する。
第7回	古典「六段の調」他の演奏（合奏）①	授業の内容を自分なりに復習する。
第8回	能・狂言について学ぶ（DVD鑑賞、資料による学習）	授業の内容を自分なりに復習する。
第9回	古典「六段の調」他の演奏（合奏）②	授業の内容を自分なりに復習する。
第10回	歌舞伎について学ぶ（DVD鑑賞、資料による学習）①	授業の内容を自分なりに復習する。
第11回	歌舞伎について学ぶ（DVD鑑賞、資料による学習）②	授業の内容を自分なりに復習する。
第12回	三味線（地歌三弦を用いる）に実際に触れ、江戸時代の音楽について考察する	授業の内容を自分なりに復習する。
第13回	古典「六段の調」他の演奏 ②	授業の内容を自分なりに復習する。
第14回	古典「六段の調」他の演奏 ③	授業の内容を自分なりに復習する。
第15回	まとめ	授業の内容を自分なりに復習する。

科目名(クラス)	音楽の基礎理論A			開講学期	前期	単位数	2	配当年次	1
担当教員	阿部 雅士	実務家教員	○	履修対象・条件	パフォーマンス総合芸術文化専攻				
【授業の概要】		(360文字以内)							
私達は毎日多くの音楽に接しています。その音楽にも決まりごとがあります。 音楽を作るとき、演奏する時、それに音楽を発表したり、記録したりする時にも決まりがあります。 それから楽しんでもらう聴衆の方々に音楽が届くまでの仕組み、保存する方法、その上に発生する様々な事を取り上げます。									
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力		思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力		意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能	○		課題の発見、分析、解決力	○		国際感覚	社会的責任・リーダーシップ
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク	
【授業の到達目標】		(360文字以内)							
音楽の作成や、ビジネスモデルなどの周辺を理解してこれからの音楽のシーンで役に立つ分析力、応用力のスキルを付けることができる。それにより音楽に関する色々なアイデアとともに、音楽をエンタメとして絵を描くことができる。									
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)							
・講義が中心ですが、学生間のディスカッションも随時取り入れます。									
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)							
「音楽が楽しい」と言う基本姿勢を持って、いろいろ細かい点を捉え、感じてもらいたい。それが未来に繋がると思う事が大事です。									
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)							
課題での評価とともに授業への積極性、ディスカッション等における発言内容、課題への取り組みを総合的に評価する。									
教科書					著者等			出版社	
教科書					著者等			出版社	
参考文献					著者等			出版社	
参考文献					著者等			出版社	
【オフィスアワー】									
①曜日(月 ・ 火 ・ 水 ・ 木 ・ 金 ・ 土) ※赤字が実施曜日									
②時間帯 14:20～14:50 14:55～15:25 15:30～16:00 17:00～18:00 * PACS業界の先生方は全て城之内管轄でまとめる									

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	はじめに音楽に対する見方①	予習: 音楽はなにか? と考える 復習: いままでに接した音楽を見る
第2回	はじめに音楽に対する見方②	予習: 音楽とは? を改めて考査 復習: いままでに接した音楽を思い出す。
第3回	演奏する時のきまり①(楽譜について)	予習: いろいろな音楽、楽譜をしてみる。 復習: 使用したことがある楽譜があれば 見てみる。
第4回	演奏する時のきまり②(楽譜について)	予習: 幅広いジャンルの音楽の成り立ちを研究 復習: 授業内容を自分なりにまとめる
第5回	演奏する時のきまり②(セッションについて)	予習: 幅広いジャンルの音楽の成り立ちを研究 復習: 授業内容を自分なりにまとめる
第6回	音楽を作る事の仕組み①	予習: 幅広いジャンルの音楽の成り立ちを研究 復習: 授業内容を自分なりにまとめる
第7回	音楽を作る事の仕組み②	予習: 幅広いジャンルの音楽の成り立ちを研究 復習: 授業内容を自分なりにまとめる
第8回	音楽を作る事の仕組み③	予習: 幅広いジャンルの音楽の成り立ちを研究 復習: 授業内容を自分なりにまとめる
第9回	音楽の記録(録音)の仕組み①	予習: 幅広いジャンルの音楽の成り立ちを研究 復習: 授業内容を自分なりにまとめる
第10回	音楽の記録(録音)の仕組み②	予習: 幅広いジャンルの音楽の成り立ちを研究 復習: 授業内容を自分なりにまとめる
第11回	音楽の記録の変遷①	予習: 幅広いジャンルの音楽の成り立ちを研究 復習: 授業内容を自分なりにまとめる
第12回	音楽の記録の変遷②	予習: 幅広いジャンルの音楽の成り立ちを研究 復習: 授業内容を自分なりにまとめる
第13回	音楽固定物の変遷①	予習: 幅広いジャンルの音楽の成り立ちを研究 復習: 授業内容を自分なりにまとめる
第14回	音楽固定物の変遷①	予習: 幅広いジャンルの音楽の成り立ちを研究 復習: 授業内容を自分なりにまとめる
第15回	前期最終筆記試験	予習: 幅広いジャンルの音楽の成り立ちを研究 復習: 授業内容を自分なりにまとめる

科目名(クラス)	音楽の基礎理論B			開講学期	後期	単位数	2	配当年次	1
担当教員	阿部 雅士	実務家教員	○	履修対象・条件	パフォーマンス総合芸術文化専攻				
【授業の概要】		(360文字以内)							
基本的に前期のテーマを引き続き取り上げます。その上に楽曲と聴衆の関わり方、それと共に「演奏家・アーティストの知的財産権のなかの著作権、著作隣権」の仕組みを取り上げます。 そして これから予想される音楽の変化にも触れます。									
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力		思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力		意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能	○		課題の発見、分析、解決力	○		国際感覚	社会的責任・リーダーシップ
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク	
【授業の到達目標】		(360文字以内)							
音楽の作成や、ビジネスモデルなどの周辺を理解してこれからの音楽のシーンで役に立つ分析力、応用力のスキルを付けることができる。それにより音楽に関する色々なアイデアとともに、音楽をエンタメとして絵を描くことができる。									
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)							
・講義が中心ですが、学生間のディスカッションも随時取り入れます。									
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)							
「音楽が楽しい」と言う基本姿勢を持って、いろいろ細かい点を捉え、感じてもらいたい。それが未来に繋がると思う事が大事です。									
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)							
課題での評価とともに授業への積極性、ディスカッション等における発言内容、課題への取り組みを総合的に評価する。									
教科書					著者等			出版社	
教科書					著者等			出版社	
参考文献					著者等			出版社	
参考文献					著者等			出版社	
【オフィスアワー】									
①曜日(月 ・ 火 ・ 水 ・ 木 ・ 金 ・ 土) ※赤字が実施曜日									
②時間帯 14:20～14:50 14:55～15:25 15:30～16:00 17:00～18:00 * PACS業界の先生方は全て城之内管轄でまとめる									

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	音楽を聴くこと、接する方法の仕組みと変遷①	予習:幅広いジャンルの音楽の成り立ちを研究 復習:授業内容を自分なりにまとめる
第2回	音楽を聴くこと、接する方法の仕組みと変遷②	予習:幅広いジャンルの音楽の成り立ちを研究 復習:授業内容を自分なりにまとめる
第3回	音楽を聴くこと、接する方法の仕組みと変遷③	予習:幅広いジャンルの音楽の成り立ちを研究 復習:授業内容を自分なりにまとめる
第4回	音楽を聴くこと、接する方法の仕組みと変遷④	予習:幅広いジャンルの音楽の成り立ちを研究 復習:授業内容を自分なりにまとめる
第5回	音楽の種類①	予習:幅広いジャンルの音楽の成り立ちを研究 復習:授業内容を自分なりにまとめる
第6回	音楽の種類②	予習:幅広いジャンルの音楽の成り立ちを研究 復習:授業内容を自分なりにまとめる
第7回	音楽の種類③	予習:幅広いジャンルの音楽の成り立ちを研究 復習:授業内容を自分なりにまとめる
第8回	地底財産権とビジネスモデル①	予習:幅広いジャンルの音楽の成り立ちを研究 復習:授業内容を自分なりにまとめる
第9回	地底財産権とビジネスモデル②	予習:幅広いジャンルの音楽の成り立ちを研究 復習:授業内容を自分なりにまとめる
第10回	地底財産権とビジネスモデル③	予習:幅広いジャンルの音楽の成り立ちを研究 復習:授業内容を自分なりにまとめる
第11回	楽器と音楽とAI②	予習:幅広いジャンルの音楽の成り立ちを研究 復習:授業内容を自分なりにまとめる
第12回	楽器と音楽とAI②	予習:幅広いジャンルの音楽の成り立ちを研究 復習:授業内容を自分なりにまとめる
第13回	これからの音楽①	予習:幅広いジャンルの音楽の成り立ちを研究 復習:授業内容を自分なりにまとめる
第14回	これからの音楽②	予習:幅広いジャンルの音楽の成り立ちを研究 復習:授業内容を自分なりにまとめる
第15回	後期最終ディスカッション	予習:幅広いジャンルの音楽の成り立ちを研究 復習:授業内容を自分なりにまとめる

科目名(クラス)	キャリア・クリエイティブ・メソッドA	開講学期	前期	単位数	2	配当年次	全				
担当教員	大神 賀世子	実務家教員	○	履修対象・条件	パフォーマンス総合芸術文化専攻						
【授業の概要】		(360文字以内)									
キャリアの語源はラテン語の「carrus」だと言われており、意味は轍(わだち、車輪の跡)です。キャリアは自分の歩んできた足跡であり、ひとつの点や結果ではなく継続的なプロセス(課程)です。授業では自分の過去の轍(わだち)を振り返り、これからの「キャリア」をいかに自分らしく積んでいくのかを考えます。自分の理想の未来につながる戦略的なキャリアの積み方を前期・後期を通して学びます。キャリアクリエイティブメソッドとは、急激に変化していく社会において、変幻自在に対応し、キャリアを切り拓いていく為に、必要な知識と経験を習得することを目指します。知識に止まらずノウハウを活かしたワーク、実践を通して、積極的に発問し、自らアイデアを導き出し、自分らしいキャリア形成を行える環境を作ります。											
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力		思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力		意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢		生涯学習力	
		専攻分野中心の知識と技能	○		課題の発見、分析、解決力	○		国際感覚		社会的責任・リーダーシップ	○
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク			
【授業の到達目標】		(360文字以内)									
自ら思い描いたキャリアを実現できる力を習得することを目指す。その為に、社会を知り、自己理解を深め、ゴールを明確にするスキルを学ぶ。一年間の授業で、習得したキャリアクリエイティブメソッドを使って、各自が目指す場面で、自分らしく表現できることを目標とする。「やりたいこと(希望・理想)」と「やれること(能力・技能)」、「やるべきこと(使命・価値)」を明確にして、現在地からゴールまでに、どんなキャリアが必要か考え、計画することができる。											
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)									
・実践編と教学編の二つのカテゴリーで、講義形式・ディスカッション・プレゼンテーションの実践を交えて行います。											
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)									
・自らが「考える」ことに重点を置いた授業です。積極的に自分の考えを明確に述べ、自分の人生を自分で切り拓くという高い志しをもって受講していただきたい。											
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)									
・レポート及び授業への積極性(ディスカッション等における発言内容、課題への取り組みなど)・授業態度を総合的に判断する。											
教科書		著者等		出版社							
教科書		著者等		出版社							
参考文献	「8秒で心をつかむ接客術」	著者等	大神賀世子	出版社	ナツメ社						
参考文献	「成熟社会のビジネスシフト」	著者等	並木将央	出版社	総合法令出版						
【オフィスアワー】											
①曜日(月 ・ 火 ・ 水 ・ 木 ・ 金 ・ 土) ※赤字が実施曜日											
②時間帯 14:20~14:50 14:55~15:25 15:30~16:00 17:00~18:00 * PACS業界の先生方は全て城之内管轄でまとめる											

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	授業の全体像や進め方の他、キャリアとは何か？をキャリアクリエイティブメソッドの導入授業(イントロダクション)として学びます。ライフラインで過去を振り返り、ウォーミングアップセッションで自己の大学生活に期待することを確認します。	【予習】予習:シラバスを読んで各回のテーマを押さえる。□ 【復習】興味をもったテーマを調べる
第2回	プレゼンテーション①過去の自分/未来の自分:ライフラインを書く/自己理解・自己開示	【予習】自分のキャリアを棚卸する準備をする。 【復習】自己ライフラインを書く
第3回	プレゼンテーション②過去の自分/未来の自分:自己理解/他己理解	【予習】自己のライフラインと向き合い、プレゼンをする 【復習】気づいたこと、実践しようと思ったことを書く
第4回	スタートとゴール(目標設定):現在の自己を分析して、未来の自分を予想する。 自己の未来に必要な能力・技能を把握する。	【予習】未来の目標をイメージする 【復習】気づいたこと、実践しようと思ったことを書く
第5回	メソッド①-1 現実の社会を生き抜く力	【予習】自分なりに生き抜く為にスキルを考える 【復習】気づいたこと、実践しようと思ったことを書く
第6回	メソッド①-2 現実の社会を生き抜くために	【予習】メディアを調査し、自分なりの身につけたいスキルをリサーチする 【復習】気づいたこと、実践しようと思ったことを書く
第7回	キャリア形成①キャリアの基礎理解-自己を深堀する。	【予習】感情表現の言葉を列挙してみる 【復習】感情表現の言葉の使い方を復習する
第8回	キャリア形成②キャリアの基礎理解-自己を分析する。	【予習】自己はどんなパーソナリティなのかを考える 【復習】環境タイプと職業の結びつきを考える
第9回	メソッド②-1 8秒メソッド(イメージコンサル)	【予習】第一印象のいい身だしなみをしてくる 【復習】カラー診断やイメージコンサル知識を取り入れる
第10回	メソッド②-2 8秒メソッド(信頼関係を築く)	【予習】信頼関係を築く為に日頃から努力していることを考えてくる 【復習】気づいたこと、実践しようと思ったことを書く
第11回	メソッド②-2 8秒メソッド(8秒コピーの作り方)	【予習】8秒コピーシートに記入する 【復習】8秒コピーを完成させる
第12回	メソッド②-2 8秒メソッド(8秒コピーでアピールする)	【予習】どの場面で8秒コピーが必要か考える 【復習】気づいたこと、実践しようと思ったことを書く
第13回	問題解決① 基礎能力/意識を高める	【予習】日ごろ問題だと思っていることを列挙する 【復習】日ごろ思っている問題の解決方法は何かを考える
第14回	問題解決② 基礎能力/知識を広げる	【予習】問題解決にプロセスはあるのかを考える 【復習】問題解決のロジックを復習する
第15回	上期の振り返り:グループワークとプレゼンテーション	【予習】上期に学んだことをまとめる 【復習】上期の振り返りをする

科目名(クラス)	キャリア・クリエイティブ・メソッドB	開講学期	後期	単位数	2	配当年次	全				
担当教員	大神 賀世子	実務家教員	○	履修対象・条件	パフォーマンス総合芸術文化専攻						
【授業の概要】		(360文字以内)									
キャリアの語源はラテン語の「carrus」だと言われており、意味は轍(わだち、車輪の跡)です。キャリアは自分の歩んできた足跡であり、ひとつの点や結果ではなく継続的なプロセス(課程)です。授業では自分の過去の轍(わだち)を振り返り、これからの「キャリア」をいかに自分らしく積んでいくのかを考えます。自分の理想の未来につながる戦略的なキャリアの積み方を上期・下期を通して学びます。キャリア・クリエイティブメソッドとは、急激に変化していく社会において、変幻自在に対応し、キャリアを切り拓いていく為に、必要な知識と経験を習得することを目指します。知識に止まらずノウハウを活かしたワーク、実践を通して、積極的に発問し、自らアイデアを導き出し、自分らしいキャリア形成を行える環境を作ります。											
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力		思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力		意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢		生涯学習力	
		専攻分野中心の知識と技能	○		課題の発見、分析、解決力	○		国際感覚		社会的責任・リーダーシップ	○
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク			
【授業の到達目標】		(360文字以内)									
自ら思い描いたキャリアを実現できる力を習得することを目指す。その為に、社会を知り、自己理解を深め、ゴールを明確にするスキルを学ぶ。一年間の授業で、習得したキャリア・クリエイティブメソッドを使って、各自が目指す場面で、自分らしく表現できることを目標とする。「やりたいこと(希望・理想)」と「やれること(能力・技能)」、「やるべきこと(使命・価値)」を明確にして、現在地からゴールまでに、どんなキャリアが必要か考え、計画することができる。											
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)									
・実践編と教学編の二つのカテゴリーで、講義形式・ディスカッション・プレゼンテーションの実践を交えて行います。											
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)									
・自らが「考える」ことに重点を置いた授業です。積極的に自分の考えを明確に述べ、自分の人生を自分で切り拓くという高い志しをもって受講していただきたい。											
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)									
・レポート及び授業への積極性(ディスカッション等における発言内容、課題への取り組みなど)・授業態度を総合的に判断する。											
教科書		著者等		出版社							
教科書		著者等		出版社							
参考文献	「8秒で心をつかむ接客術」	著者等	大神賀世子	出版社	ナツメ社						
参考文献	「成熟社会のビジネスシフト」	著者等	並木将央	出版社	総合法令出版						
【オフィスアワー】											
①曜日(月 ・ 火 ・ 水 ・ 木 ・ 金 ・ 土) ※実施曜日を○で囲って下さい。											
②時間帯 14:20~14:50 14:55~15:25 15:30~16:00 17:00~18:00 * PACS業界の先生方は全て城之内管轄でまとめる											

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	メソッド③-1: ビジネスコミュニケーション1	【予習】社会人に必要なコミュニケーションを考える 【復習】気づいたこと、実践しようと思ったことを書く
第2回	メソッド③-2: ビジネスコミュニケーション2	【予習】目指す業界に必要なコミュニケーションを考える 【復習】気づいたこと、実践しようと思ったことを書く
第3回	キャリア形成③: 大学生のキャリアデザイン①	【予習】自身が興味のある公的資格を調べる 【復習】自身が興味のある資格の受験資格を調べる
第4回	キャリア形成④: 大学生のキャリアデザイン②	【予習】将来必要な資格を調べる 【復習】大学生のうちに取得したい資格を確認する
第5回	メソッド④-1: 話の組み立て方(3パターン)	【予習】自分の話し方の課題を考える 【復習】3パターンで文章を書いてみる
第6回	メソッド④-2: 話の組み立て方(実践)	【予習】自己PR1分を書いてみる 【復習】気づいたこと、実践しようと思ったことを書く
第7回	働き方研究①: 労働市場現状把握	【予習】厚生労働省のHPを見る 【復習】労働人口の構成などを認識する
第8回	働き方研究②: 働き方改革/人事規定/労基法	【予習】働き方とは何かを調べる 【復習】興味のある会社の組織を調べる
第9回	メソッド⑤-1: プレゼンテーションスキル	【予習】なぜプレゼンスキルが必要か考える 【復習】気づいたこと、実践しようと思ったことを書く
第10回	メソッド⑤-2: プレゼンテーション実践	【予習】1分プレゼンの内容を完成する 【復習】気づいたこと、実践しようと思ったことを書く
第11回	会社研究①: 会社の選び方①	【予習】興味のある業界をピックアップする 【復習】業界別の特徴を調べてみる
第12回	会社研究②: 会社の選び方②	【予習】興味のある会社をピックアップする 【復習】興味のある会社の特徴を調べてみる
第13回	メソッド⑥-1: 自己表現スキル1(メソッド総括)	【予習】テーマを決める 【復習】理想の業界のニーズを探る
第14回	メソッド⑥-2: 自己表現スキル2(メソッド総括)	【予習】前回の課題を克服するために必要なことを書く 【復習】自己表現オーディションの準備をする
第15回	メソッド総括: 自己表現オーディション	【予習】1年間を通して学んだスキルを総括し、自分にとって最も重要な場面を想定し、表現する準備をする 【復習】気づいたこと、実践しようと思ったことを書く

科目名(クラス)	P.A.C.S 1			開講学期	前期	単位数	2	配当年次	1		
担当教員	高橋 幸雄	実務家教員		履修対象・条件	パフォーマンス総合芸術文化専攻						
【授業の概要】		(360文字以内)									
エンターテインメントを含む芸術作品が、どのような歴史や社会を背景として持っているのかを映像化された作品を通じて考察していきます。ヨーロッパ、アメリカ、日本で親しまれている文学、演劇、映画を鑑賞し解説する。											
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力		思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力		意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	○	生涯学習力	
		専攻分野中心の知識と技能	○		課題の発見、分析、解決力	○		国際感覚		社会的責任・リーダーシップ	
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク			
【授業の到達目標】		(360文字以内)									
取り上げる作品の歴史や社会背景を理解し、それぞれが持っている文化的意味を明確に理解することができる。											
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)									
取り上げる作品の概説と意味を説明し、その考察結果をコメントシートにまとめる訓練を毎回行う。基本的にゼミ形式で進めま											
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)									
映像作品に興味を持ち、同時代の作品を比較しながら、各作品の多様な解釈を試みて下さい。											
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)									
・各回のコメントシート(20%) ・与えられた課題のプレゼンテーション(30%) ・レポート課題(2回)(50%)											
教科書					著者等			出版社			
教科書					著者等			出版社			
参考文献					著者等			出版社			
参考文献					著者等			出版社			
【オフィスアワー】											
①曜日(月 ・ 火 ・ 水 ・ 木 ・ 金 ・ 土) ※赤字が実施曜日											
②時間帯(16 時 00 分 ～ 17 時 30 分)											

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	映画作品と原作を文学的な方法論でどのように読み解くのか？	(予習)自分の好きな映像作品について考えておく。 (復習)学んだ方法を用いて好きな作品を読み解いてみる。
第2回	エーミールと探偵たち① (推理小説と社会)	(予習)映像を見える。 (復習)原作を読んでみる。
第3回	エーミールと探偵たち② (子供と教育)	(予習)映像を見える。 (復習)原作を解釈してみる。
第4回	ハリーポッター① (ファンタジーと社会)	(予習)映像を見える。 (復習)原作を読んでみる。
第5回	ハリーポッター② (多様性と制度)	(予習)映像を見える。 (復習)原作を解釈してみる。
第6回	秘密の花園① (父性と自律性)	(予習)映像を見える。 (復習)原作を読んでみる。
第7回	秘密の花園② (ジェンダーと社会)	(予習)映像を見える。 (復習)原作を解釈してみる。
第8回	レ・ミゼラブル① (近代と道徳)	(予習)映像を見える。 (復習)原作を読んでみる。
第9回	レ・ミゼラブル② (産業革命前夜の社会)	(予習)映像を見える。 (復習)原作を解釈してみる。
第10回	夏の庭① (「子供」の成立)	(予習)映像を見える。 (復習)原作を読んでみる。
第11回	夏の庭② (死と生)	(予習)映像を見える。 (復習)原作を解釈してみる。
第12回	西の魔女が死んだ① (人間と自然)	(予習)映像を見える。 (復習)原作を読んでみる。
第13回	西の魔女が死んだ② (現代を生きる意味)	(予習)映像を見える。 (復習)原作を解釈してみる。
第14回	まとめ① ー子供の視点から見た世界ー	(予習)児童文学の読み方を考えてみる。 (復習)「子供」の視点から一作品を解釈してみる。
第15回	まとめ② ー個としての自律性を考えるー	(予習)「意味」の成立についてまとめてみる。 (復習)芸術作品の「読み」とは何かを考察してみる。

科目名(クラス)	P.A.C.S 2			開講学期	後期	単位数	2	配当年次	1		
担当教員	高橋 幸雄	実務家教員		履修対象・条件	パフォーマンス総合芸術文化専攻						
【授業の概要】		(360文字以内)									
エンターテインメントを含む芸術作品が、どのような歴史や社会を背景として持っているのかを映像化された作品を通じて考察していきます。ヨーロッパ、アメリカ、日本で親しまれている文学、演劇、映画を鑑賞し解説する。											
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力		思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力		意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	○	生涯学習力	
		専攻分野中心の知識と技能	○		課題の発見、分析、解決力	○		国際感覚		社会的責任・リーダーシップ	
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク			
【授業の到達目標】		(360文字以内)									
取り上げる作品の歴史や社会背景を理解し、それぞれが持っている文化的意味を明確に理解することができる。											
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)									
取り上げる作品の概説と意味を説明し、その考察結果をコメントシートにまとめる訓練を毎回行う。基本的にゼミ形式で進めま											
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)									
映像作品に興味を持ち、同時代の作品を比較しながら、各作品の多様な解釈を試みて下さい。											
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)									
・各回のコメントシート(20%) ・与えられた課題のプレゼンテーション(30%) ・レポート課題(2回)(50%)											
教科書					著者等			出版社			
教科書					著者等			出版社			
参考文献					著者等			出版社			
参考文献					著者等			出版社			
【オフィスアワー】											
①曜日(月 ・ 火 ・ 水 ・ 木 ・ 金 ・ 土) ※赤字が実施曜日											
②時間帯(16 時 00 分 ～ 17 時 30 分)											

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	ヨーロッパ、アメリカ、ラテンアメリカ、そして日本の文学の概観とエンターテインメントの現状について	(予習)自分の好きな領域の文学やエンタメを考えておく。 (復習)各国の文学の特徴をまとめる。
第2回	グレート・ギャツビー (フィッツジェラルド)	(予習)映像を見してみる。 (復習)原作を解釈してみる。
第3回	ライ麦畑でつかまえて (サリンジャー)	(予習)映像を見してみる。 (復習)原作を解釈してみる。
第4回	ティファニーで朝食を (カポーティー)	(予習)映像を見してみる。 (復習)原作を解釈してみる。
第5回	若きヴェルテルの悩み (ゲーテ)	(予習)映像を見してみる。 (復習)原作を解釈してみる。
第6回	車輪の下 (ヘッセ)	(予習)映像を見してみる。 (復習)原作を解釈してみる。
第7回	マルテの手記 (リルケ)	(予習)映像を見してみる。 (復習)原作を解釈してみる。
第8回	変身 (カフカ)	(予習)映像を見してみる。 (復習)原作を解釈してみる。
第9回	罪と罰 (ドストエフスキー)	(予習)映像を見してみる。 (復習)原作を解釈してみる。
第10回	桜の園 (チェーホフ)	(予習)映像を見してみる。 (復習)原作を解釈してみる。
第11回	赤と黒 (スタンダール)	(予習)映像を見してみる。 (復習)原作を解釈してみる。
第12回	モンテニクリスト伯 (デュマ)	(予習)映像を見してみる。 (復習)原作を解釈してみる。
第13回	狭き門 (ジイド)	(予習)映像を見してみる。 (復習)原作を解釈してみる。
第14回	異邦人 (カミュ)	(予習)映像を見してみる。 (復習)原作を解釈してみる。
第15回	まとめ	(予習)一作品を取り上げて学んだ方法論で解釈してみる。 (復習)他の方法論で取り上げた作品を解釈してみる。

科目名(クラス)	P.A.C.S 3			開講学期	前期	単位数	2	配当年次	2		
担当教員	遠山 菜穂美	実務家教員		履修対象・条件	パフォーマンス総合芸術文化専攻						
【授業の概要】		(360文字以内)									
音楽作品が何を背景に生み出され、何を表現しようとしたのかを読み解きます。サブテーマは「音楽の題材」。子供、動物、詩、祈りなどをテーマに、音楽作品の題材と表現内容を明らかにし、学生自らの創作へのヒントとします。											
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力		思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力		意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	○	生涯学習力	
		専攻分野中心の知識と技能	○		課題の発見、分析、解決力	○		国際感覚	社会的責任・リーダーシップ		
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク			
【授業の到達目標】		(360文字以内)									
・音楽作品のバックグラウンドや表現内容を読み解くことができる。 ・それを自らの創作に活用することができる。											
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)									
講義、および個人やグループでのワーク											
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)									
授業で取り上げるのは、音大生として知っておきたい作品ばかりです。授業中は音や映像に集中し、特に興味を持った作品については授業の後で発展的な取り組みをすると、自分の世界が広がります。											
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)									
授業への積極性(個人・グループワークへの取り組み、小レポートの提出等)50%、レポート課題50%											
教科書					著者等			出版社			
教科書					著者等			出版社			
参考文献					著者等			出版社			
参考文献					著者等			出版社			
【オフィスアワー】											
①曜日(月 ・ 火 ・ 水 ・ 木 ・ 金 ・ 土) ※赤字が実施曜日											
②時間帯(11 時 00 分 ～ 12 時 00 分)											

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	音楽作品を読み解くとは？	予習: シラバスをよく読んでおく。 復習: 次回の作品について調べる。
第2回	音楽の題材: 子供たち(ラヴェル「マ・メール・ロワ」)①	予習: 作曲家・作品について調べておく。 復習: 授業で興味を持ったことを調べてみる。
第3回	音楽の題材: 子供たち(ラヴェル「マ・メール・ロワ」)②	予習: 作曲家・作品について調べておく。 復習: 授業で興味を持ったことを調べてみる。
第4回	音楽の題材: 子供たち(ラヴェル「マ・メール・ロワ」)③	予習: 子供たちを題材にした身近な曲を探す。 復習: 授業で興味を持ったことを調べてみる。
第5回	音楽の題材: 動物たち(サン＝サーンス「動物の謝肉祭」)①	予習: 作曲家・作品について調べておく。 復習: 授業で興味を持ったことを調べてみる。
第6回	音楽の題材: 動物たち(サン＝サーンス「動物の謝肉祭」)②	予習: 作曲家・作品について調べておく。 復習: 授業で興味を持ったことを調べてみる。
第7回	音楽の題材: 動物たち(サン＝サーンス「動物の謝肉祭」)③	予習: 動物たちを題材にした身近な曲を探す。 復習: 授業で興味を持ったことを調べてみる。
第8回	音楽の題材: 詩に誘われて(ドビュッシー「月の光」)①	予習: 作曲家・作品について調べておく。 復習: 授業で興味を持ったことを調べてみる。
第9回	音楽の題材: 詩に誘われて(ドビュッシー「月の光」)②	予習: 作曲家・作品について調べておく。 復習: 授業で興味を持ったことを調べてみる。
第10回	音楽の題材: 詩に誘われて(ドビュッシー「月の光」)③	予習: 詩に触発された身近な曲を探す。 復習: 授業で興味を持ったことを調べてみる。
第11回	音楽の題材: 祈り(フォーレ「レクイエム」)①	予習: 作曲家・作品について調べておく。 復習: 授業で興味を持ったことを調べてみる。
第12回	音楽の題材: 祈り(フォーレ「レクイエム」)②	予習: 作曲家・作品について調べておく。 復習: 授業で興味を持ったことを調べてみる。
第13回	音楽の題材: 祈り(フォーレ「レクイエム」)③	予習: 祈りを題材にした身近な曲を探す。 復習: 授業で興味を持ったことを調べてみる。
第14回	自らの創作への活用法	予習: これまでの創作を振り返ってみる。 復習: 今後の創作に活用する。
第15回	まとめ	予習: 授業で取り上げた音楽作品を振り返る。 復習: 今後の創作に活用する。

科目名(クラス)	P.A.C.S 4			開講学期	後期	単位数	2	配当年次	2	
担当教員	遠山 菜穂美	実務家教員		履修対象・条件	パフォーマンス総合芸術文化専攻					
【授業の概要】		(360文字以内)								
音楽作品が何を背景に生み出され、何を表現しようとしたのかを読み解きます。サブテーマは「音楽の題材」。リスペクト(敬意)、自由、戦争その他をテーマに、音楽作品の題材と表現内容を明らかにし、学生自らの創作へのヒントとします。										
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力		思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力		意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	○	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能	○		課題の発見、分析、解決力	○		国際感覚	社会的責任・リーダーシップ	
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク		
【授業の到達目標】		(360文字以内)								
・音楽作品のバックグラウンドや表現内容を読み解くことができる。 ・それを自らの創作に活用することができる。										
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)								
講義、および個人やグループでのワーク										
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)								
授業で取り上げるのは、音大生として知っておきたい作品ばかりです。授業中は音や映像に集中し、特に興味を持った作品については授業の後で発展的な取り組みをすると、自分の世界が広がります。										
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)								
授業への積極性(個人・グループワークへの取り組み、小レポートの提出等)50%、レポート課題50%										
教科書					著者等			出版社		
教科書					著者等			出版社		
参考文献					著者等			出版社		
参考文献					著者等			出版社		
【オフィスアワー】										
①曜日(月・火・水・木・金・土) ※赤字が実施曜日										
②時間帯(11 時 00 分 ~ 12 時 00 分)										

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	音楽の題材:リスペクト(敬意)をもとに(ラヴェル「クーブランの墓」)①	予習:作曲家・作品について調べておく。 復習:授業で興味を持ったことを調べてみる。
第2回	音楽の題材:リスペクト(敬意)をもとに(ラヴェル「クーブランの墓」)②	予習:作曲家・作品について調べておく。 復習:授業で興味を持ったことを調べてみる。
第3回	音楽の題材:リスペクト(敬意)をもとに(ラヴェル「クーブランの墓」)③	予習:リスペクトに基づく身近な曲を探す。 復習:授業で興味を持ったことを調べてみる。
第4回	音楽の題材:自由への思い(ベートーヴェン「交響曲第9番合唱付き」) ①	予習:作曲家・作品について調べておく。 復習:授業で興味を持ったことを調べてみる。
第5回	音楽の題材:自由への思い(ベートーヴェン「交響曲第9番合唱付き」) ②	予習:作曲家・作品について調べておく。 復習:授業で興味を持ったことを調べてみる。
第6回	音楽の題材:自由への思い(ベートーヴェン「交響曲第9番合唱付き」) ③	予習:作曲家・作品について調べておく。 復習:授業で興味を持ったことを調べてみる。
第7回	音楽の題材:自由への思い(ベートーヴェン「交響曲第9番合唱付き」) ④	予習:自由に関する身近な曲を探す。 復習:授業で興味を持ったことを調べてみる。
第8回	音楽の題材:戦争への思い(プーランク「自由」)①	予習:作曲家・作品について調べておく。 復習:授業で興味を持ったことを調べてみる。
第9回	音楽の題材:戦争への思い(プーランク「自由」)②	予習:作曲家・作品について調べておく。 復習:授業で興味を持ったことを調べてみる。
第10回	音楽の題材:戦争への思い(プーランク「自由」)③	予習:戦争に関する身近な曲を探す。 復習:授業で興味を持ったことを調べてみる。
第11回	音楽の題材:私たちが伝えたいこと①	予習:自分が今伝えたいことを考えてくる。 復習:創作へとつなげる。
第12回	音楽の題材:私たちが伝えたいこと②	予習:自分が今伝えたいことを考えてくる。 復習:創作へとつなげる。
第13回	音楽の題材:私たちが伝えたいこと③	予習:自分が今伝えたいことを考えてくる。 復習:創作へとつなげる。
第14回	音楽の題材:私たちが伝えたいこと④	予習:自分が今伝えたいことを考えてくる。 復習:創作へとつなげる。
第15回	まとめ	予習:授業で取り上げた音楽作品を振り返る。 復習:今後の創作に活用する。

科目名(クラス)	P.A.C.S 5			開講学期	前期	単位数	2	配当年次	3	
担当教員	山本 幸司	実務家教員	○	履修対象・条件	パフォーマンス総合芸術文化専攻					
【授業の概要】		(360文字以内)								
戦前よりライブ・エンタテインメントビジネスを行い、日本の音楽文化の発展に深く携わってきたプロモーター。観客を集め、有料で歌舞音楽・演劇・映画・スポーツなどを催すことを「興行」と言い、長い歴史で業務などは様変わりしてきました。ここでは日本のショー・ビジネスの発展を支えてきたイベンター(現代)・コンサートプロモーターについての講義。										
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	○	生涯学習力		
		専攻分野中心の知識と技能		○		課題の発見、分析、解決力	○	国際感覚	社会的責任・リーダーシップ	
		広範な文化の理解				プレゼンテーション能力		自己管理能力・チームワーク		
【授業の到達目標】		(360文字以内)								
・ライブ・エンタテインメントにおける仕事(役割)の幅広さを知る事により社会との関わりを理解できる。 ・ショービジネスの仕事から新たなアイデアや発想、ビジネスにおいては必要不可欠なものを学び、実践することができる。										
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)								
講義形式だけではなくアクティブラーニングを取り入れます。教科書は使用しません。										
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)								
主にイベンターの役割に重点を置いた授業です。ディスカッション等においては自分の考えを明確に述べられるよう、各回のテーマに真剣に取り組むことが求められます。										
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)								
課題、授業への積極性、受講態度を総合的に評価する。										
教科書	なし			著者等			出版社			
教科書	なし			著者等			出版社			
参考文献	なし			著者等			出版社			
参考文献	なし			著者等			出版社			
【オフィスアワー】										
①曜日(月 ・ 火 ・ 水 ・ 木 ・ 金 ・ 土) ※赤字が実施曜日										
②時間帯 14:20~14:50 14:55~15:25 15:30~16:00 17:00~18:00 * PACS業界の先生方は全て城之内管轄でまとめる										

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	コンサートプロモーターの歴史と現在	予習: シラバスを読んで各回の視点(テーマ)を押さえておく。 復習: 時代ごとの音楽と社会背景を調べる
第2回	イベンター・コンサートプロモーターとは①	予習: 今回の視点(テーマ)について 復習: 興味を持った視点(テーマ)について調べる。
第3回	イベンター・コンサートプロモーターとは②	予習: 今回の視点(テーマ)について 復習: 興味を持った視点(テーマ)について調べる。
第4回	イベンター・コンサートプロモーターの目的と役割①	予習: 今回の視点(テーマ)について 復習: 興味を持った視点(テーマ)について調べる。
第5回	イベンター・コンサートプロモーターの目的と役割②	予習: 今回の視点(テーマ)について 復習: 興味を持った視点(テーマ)について調べる。
第6回	イベンター・コンサートプロモーターの音楽業界における関連①	予習: 今回の視点(テーマ)について 復習: 興味を持った視点(テーマ)について調べる。
第7回	イベンター・コンサートプロモーターの音楽業界における関連②□	予習: 今回の視点(テーマ)について 復習: 興味を持った視点(テーマ)について調べる。
第8回	コンサート運営に携わる主な職種①	予習: 今回の視点(テーマ)について 復習: 興味を持った視点(テーマ)について調べる。
第9回	コンサート運営に携わる主な職種②□	予習: 今回の視点(テーマ)について 復習: 興味を持った視点(テーマ)について調べる。
第10回	コンサート運営に携わる主な職種③□	予習: 今回の視点(テーマ)について 復習: 興味を持った視点(テーマ)について調べる。
第11回	コンサート運営に携わる主な職種④□	予習: 今回の視点(テーマ)について 復習: 興味を持った視点(テーマ)について調べる。
第12回	コンサート運営に携わる主な職種⑤□	予習: 今回の視点(テーマ)について 復習: 興味を持った視点(テーマ)について調べる。
第13回	コンサートの立案企画A①	予習: 今回の視点(テーマ)について 復習: 興味を持った視点(テーマ)について調べる。
第14回	コンサートの立案企画A②	予習: 今回の視点(テーマ)について 復習: 興味を持った視点(テーマ)について調べる。
第15回	ブレーンストーミング	予習: 今回の視点(テーマ)について 復習: 興味を持った視点(テーマ)について調べる。

科目名(クラス)	P.A.C.S 6			開講学期	後期	単位数	2	配当年次	3	
担当教員	山本 幸司	実務家教員	○	履修対象・条件	パフォーマンス総合芸術文化専攻					
【授業の概要】		(360文字以内)								
戦前よりライブ・エンタテインメントビジネスを行い、日本の音楽文化の発展に深く携わってきたプロモーター。 観客を集め、有料で歌舞音曲・演劇・映画・スポーツなどを催すことを「興行」と言い、 長い歴史で業務などは様変わりしてきました。 ここでは日本のショー・ビジネスの発展を支えてきたイベンター(現代)・コンサートプロモーターについての講義。										
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力		思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力		意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	○	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能	○		課題の発見、分析、解決力	○		国際感覚	社会的責任・リーダーシップ	
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク		
【授業の到達目標】		(360文字以内)								
・ライブ・エンタテインメントにおける仕事(役割)の幅広さを知る事により社会との関わりを理解できる。 ・ショービジネスの仕事から新たなアイデアや発想、ビジネスにおいては必要不可欠なものを学び、実践することができる。										
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)								
講義形式だけではなくアクティブラーニングを取り入れます。教科書は使用しません。										
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)								
主にイベンターの役割に重点を置いた授業です。ディスカッション等においては自分の考えを明確に述べられるよう、各回のテーマに真剣に取り組むことが求められます。										
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)								
課題、授業への積極性、受講態度を総合的に評価する。										
教科書	なし				著者等			出版社		
教科書	なし				著者等			出版社		
参考文献	なし				著者等			出版社		
参考文献	なし				著者等			出版社		
【オフィスアワー】										
①曜日(月 ・ 火 ・ 水 ・ 木 ・ 金 ・ 土) ※赤字が実施曜日										
②時間帯 14:20~14:50 14:55~15:25 15:30~16:00 17:00~18:00 * PACS業界の先生方は全て城之内管轄でまとめる										

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	コンサート制作に携わる主な職種①	予習: 今回の視点(テーマ)について 復習: 興味を持った視点(テーマ)について調べる。
第2回	コンサート制作に携わる主な職種②	予習: 今回の視点(テーマ)について 復習: 興味を持った視点(テーマ)について調べる。
第3回	コンサート制作に携わる主な職種③	予習: 今回の視点(テーマ)について 復習: 興味を持った視点(テーマ)について調べる。
第4回	コンサート制作に携わる主な職種④	予習: 今回の視点(テーマ)について 復習: 興味を持った視点(テーマ)について調べる。
第5回	コンサート制作に携わる主な職種⑤	予習: 今回の視点(テーマ)について 復習: 興味を持った視点(テーマ)について調べる。
第6回	コンサートスタッフの一日□	予習: 今回の視点(テーマ)について 復習: 興味を持った視点(テーマ)について調べる。
第7回	ライブコンサートにおける規定	予習: 今回の視点(テーマ)について 復習: 興味を持った視点(テーマ)について調べる。
第8回	コンサートプロモーター(海外アーティスト招聘)	予習: 今回の視点(テーマ)について 復習: 興味を持った視点(テーマ)について調べる。
第9回	コンサートプロモーター(海外アーティスト招聘)	予習: 今回の視点(テーマ)について 復習: 興味を持った視点(テーマ)について調べる。
第10回	ライブコンサートの収支について①	予習: 今回の視点(テーマ)について 復習: 興味を持った視点(テーマ)について調べる。
第11回	ライブコンサートの収支について②	予習: 今回の視点(テーマ)について 復習: 興味を持った視点(テーマ)について調べる。
第12回	コンサートの立案企画 B①	予習: 今回の視点(テーマ)について 復習: 興味を持った視点(テーマ)について調べる。
第13回	コンサートの立案企画B②	予習: 今回の視点(テーマ)について 復習: 興味を持った視点(テーマ)について調べる。
第14回	ブレインストーミング	予習: 今回の視点(テーマ)について 復習: 興味を持った視点(テーマ)について調べる。
第15回	まとめ	

科目名(クラス)	ポップス・ボーカルアプローチA	開講学期	前期	単位数	2	配当年次	1
担当教員	仁科 かおり	実務家教員	○	履修対象・条件	パフォーマンス総合芸術文化専攻		
【授業の概要】		(360文字以内)					
芸術音楽、伝統音楽とは異なる、音楽産業を通して多数の聴衆に配給され、時代背景により様々に変化していくポップスの歴史を歌唱を通じて学びます。 1950年から現代までのポップスを、10年ごとに海外、日本、双方の歴史に触れ、背景にはどんな出来事が起こっていたかなどを検証します。前期に関しては主に新しいジャンルが派生していく過程を追っていきます。 関連性、連動性、日本のポップスにおける独自性にも着目、未来における変化を予測するヒントとし、現在の音楽業界にとって必要なものは何か考えます。							
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力		コミュニケーション能力		問題を探究する姿勢	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能	○	課題の発見、分析、解決力	○	国際感覚	社会的責任・リーダーシップ
		広範な文化の理解		プレゼンテーション能力		自己管理能力・チームワーク	
【授業の到達目標】		(360文字以内)					
それぞれの時代の代表楽曲を実技歌唱、メロ譜作成することにより、その時代になぜ流行したのかじっくりと考えます。音楽業界に携わる人間として、まず共同制作者たちへ伝達能力(音楽知識、楽譜力)を身に付けることができる。自らの構想を投影した作品を観客へ送り出せるよう、次世代の表現者としてパフォーマンス能力だけではなくプロデュース能力も高めることができる。 知る、書く、表現する、このシンプルな3段階を実施し、伝える力へと繋げていきます。							
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)					
講義、DVDなど動画鑑賞 ディスカッション 歌唱実践トレーニング メロディー譜作成							
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)					
基本的に声で自己表現が目的の授業になりますので、おひとり又は少人数での歌唱、朗読の場面も出てきます。強要は致しませんが、積極的な参加を望みます。風邪などで声が出なくなった方、発声トレーニングが悪化の原因になる可能性があります。 また呼吸法などで他の生徒さんにも感染しやすくなります。決して無理をせず完治してから出席してください。							
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)					
課題による採点(70%)、授業への積極性を総合的に評価する。 課題 カバー曲によるセルフプロデュース作品の企画書							
教科書		著者等		出版社			
教科書		著者等		出版社			
参考文献		著者等		出版社			
参考文献		著者等		出版社			
【オフィスアワー】							
①曜日(月 ・ 火 ・ 水 ・ 木 ・ 金 ・ 土) ※赤字が実施曜日							
②時間帯 14:20~14:50 14:55~15:25 15:30~16:00 17:00~18:00 * PACS業界の先生方は全て城之内管轄でまとめる							

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	基礎ボイストレーニング(身体トレーニング)	復習 身体トレーニングを覚える
第2回	基礎ボイストレーニング(歌唱トレーニング)	復習 身体トレーニングを覚える
第3回	1950年代 海外のポップスシーンについて 前編 (ジャズ、シャンソン、ロカビリーなど)	復習 代表曲メロ譜を仕上げる
第4回	1950年代 海外のポップスシーンについて 後編 (ジャズ、シャンソン、ロカビリーなど)	予習 代表曲の歌唱
第5回	1950年代 日本のポップスシーンについて 前編 (ジャズ、シャンソン、ロカビリーなど)	復習 代表曲メロ譜を仕上げる
第6回	1950年代 日本のポップスシーンについて 後編 (ジャズ、シャンソン、ロカビリーなど)	予習 代表曲の歌唱
第7回	1960年代 海外のポップスシーンについて 前編 (ロック、モータウン、ボサノバなど)	復習 代表曲メロ譜を仕上げる
第8回	1960年代 海外のポップスシーンについて 後編 (ロック、モータウン、ボサノバなど)	予習 代表曲の歌唱
第9回	1960年代 日本のポップスシーンについて 前編 (歌謡曲、演歌 グループサウンズなど)	復習 代表曲メロ譜を仕上げる
第10回	1960年代 日本のポップスシーンについて 後編 (歌謡曲、演歌 グループサウンズなど)	予習 代表曲の歌唱
第11回	1970年代 海外のポップスシーンについて 前編 (ハードロック パンク ファンクなど)	復習 代表曲メロ譜を仕上げる
第12回	1970年代 海外のポップスシーンについて 後編 (ハードロック パンク ファンクなど)	予習 代表曲の歌唱
第13回	1970年代 日本のポップスシーンについて 前編 (演歌 ニューミュージック アイドルなど)	復習 代表曲メロ譜を仕上げる
第14回	1970年代 日本のポップスシーンについて 後編 (演歌 ニューミュージック アイドルなど)	予習 代表曲の歌唱
第15回	カバー曲でセルフプロデュースしてみよう(前期の曲から選択) (自分自身を生かすポイントを考え、企画書作成する)	復習 企画書を期日までに提出

科目名(クラス)	ポップス・ボーカルアプローチB			開講学期	後期	単位数	2	配当年次	1
担当教員	仁科 かおり	実務家教員	○	履修対象・条件		パフォーマンス総合芸術文化専攻			
【授業の概要】		(360文字以内)							
芸術音楽、伝統音楽とは異なる、音楽産業を通して多数の聴衆に配給され、時代背景により様々に変化していくポップスの歴史を歌唱を通じて学びます。 1950年から現代までのポップスを、10年ごとに海外、日本、双方の歴史に触れ、背景にはどんな出来事が起こっていたかなどを検証します。後期は音楽供給形態の変化、ブーム、ヒットの仕掛けなどに焦点をあてます 関連性、連動性、日本のポップスにおける独自性にも着目、未来における変化を予測するヒントとし、現在の音楽業界にとって必要なものは何かを考えます。									
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力		思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力		意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能	○		課題の発見、分析、解決力	○		国際感覚	社会的責任・リーダーシップ
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク	
【授業の到達目標】		(360文字以内)							
それぞれの時代の代表楽曲を実技歌唱、メロ譜作成することにより、その時代になぜ流行したのかじっくりと考えることができる。音楽業界に携わる人間として、まず共同制作者たちへ伝達能力(音楽知識、楽譜力)を身に着けることができる。自らの構想を投影した作品を観客へ送り出せるよう、次世代の表現者としてパフォーマンス能力だけではなくプロデュース能力も高めることができる。 知る、書く、表現する、このシンプルな3段階を実施し、伝える力へと繋げて行くことができる。									
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)							
講義、DVDなど動画鑑賞 ディスカッション 歌唱実践トレーニング メロディー譜作成									
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)							
基本的に声で自己表現が目的の授業になりますので、おひとり又は少人数での歌唱、朗読の場面も出てきます。強要は致しませんが、積極的な参加を望みます。風邪などで声が出なくなった方、発声トレーニングが悪化の原因になる可能性があります。 また呼吸法などで他の生徒さんにも感染しやすくなります。決して無理をせず完治してから出席してください。									
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)							
課題による採点(70%)、授業への積極性を総合的に評価する。 課題 将来プロデュースしたい作品の企画書									
教科書					著者等			出版社	
教科書					著者等			出版社	
参考文献					著者等			出版社	
参考文献					著者等			出版社	
【オフィスアワー】									
①曜日(月 ・ 火 ・ 水 ・ 木 ・ 金 ・ 土) ※実施曜日を○で囲って下さい。									
②時間帯 14:20~14:50 14:55~15:25 15:30~16:00 17:00~18:00 * PACS業界の先生方は全て城之内管轄でまとめる									

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	1980年代 海外のポップスシーンについて 前編 (MTV全盛期 CD登場)	復習 代表曲メロ譜を仕上げる
第2回	1980年代 海外のポップスシーンについて 後編 (MTV全盛期 CD登場)	予習 代表曲の歌唱
第3回	1980年代 日本のポップスシーンについて 前編 (ランキング番組全盛期)	復習 代表曲メロ譜を仕上げる
第4回	1980年代 日本のポップスシーンについて 後編 (ランキング番組全盛期)	予習 代表曲の歌唱
第5回	1990年代 海外のポップスシーンについて 前編 (ダンスミュージックブーム プロソールズ登場)	復習 代表曲メロ譜を仕上げる
第6回	1990年代 海外のポップスシーンについて 後編 (ダンスミュージックブーム プロソールズ登場)	予習 代表曲の歌唱
第7回	1990年代 日本のポップスシーンについて 前編 (ドラマ CM タイアップソング全盛期)	復習 代表曲メロ譜を仕上げる
第8回	1990年代 日本のポップスシーンについて 後編 (ドラマ CM タイアップソング全盛期)	予習 代表曲の歌唱
第9回	2000年代 海外のポップスシーンについて 前編 (多様化するジャンル 音楽配信の普及)	復習 代表曲メロ譜を仕上げる
第10回	2000年代 海外のポップスシーンについて 後編 (多様化するジャンル 音楽配信の普及)	予習 代表曲の歌唱
第11回	2000年代 日本のポップスシーンについて 前編 (アニソン全盛期)	復習 代表曲メロ譜を仕上げる
第12回	2000年代 日本のポップスシーンについて 後編 (アニソン全盛期)	予習 代表曲の歌唱
第13回	2010年代 世界のポップスシーンについて 前編 (ボーカロイド 集団アイドルブーム、サブスクリプション)	予習 自らプレゼンテーション資料作成
第14回	2010年代 世界のポップスシーンについて 後編 (ボーカロイド 集団アイドルブーム、サブスクリプション)	予習 自らプレゼンテーション資料作成
第15回	将来プロデュースしたい作品について考える (アピールポイント 戦略などを考え、企画書作成する)	復習 企画書を期日までに提出

科目名(クラス)	エンタメプロデュースA			開講学期	前期	単位数	2	配当年次	2
担当教員	城之内 ミサ	実務家教員	○	履修対象・条件	パフォーマンス総合芸術文化専攻				
【授業の概要】		(360文字以内)							
11月に行なわれる『ライブ実習』のための実践授業。音楽のボーダーレス化が著しい今、ポップス領域とされる様々な「サウンド」の仕組みを理解することは、音楽の多様性に対する柔軟な対応力を養うことに繋がります。 この授業では、和声とはまた違った観点での「応用」とともに多様なサウンドの仕組みも研究します。1年生で基礎理論を学んだことの応用として、既存の楽曲のコード展開やメロディを分析しながら、やがては自分自身で作曲する、あるいは既存の曲を自分なりにアレンジするためのアイデアを研究します。同時に舞台制作側のためのレクチャーも行ないます。									
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	○	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	○	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能			課題の発見、分析、解決力			国際感覚	社会的責任・リーダーシップ
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク	
【授業の到達目標】		(360文字以内)							
芸術音楽・伝統音楽とは異なり、音楽産業を通してより多数の聴衆に配給され、時代背景により様々に変化していくポップスの『楽曲制作過程』にスポットをあてます。創作と、作ったその先にどういった作用があるのかは、この業界で長らく積んだ「経験則」からなる解説が最も解りやすいと考えます。 楽曲制作過程の中で、作曲家やクライアントの要求とはどういうものなのかを知る事により、また自身でも創作することをトライして見る事により、自らの演奏・歌唱に於ける自由な表現の選択、可能性、柔軟性、応用性を身につけることができる。また舞台制作側の観点から、制作過程についても考査することで、ステージに立つ側、プロデュースし支える側双方の考え方を理解し、実践することができる。									
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)							
講義と実践をバランスよく実施。DVD,CD等の鑑賞も取り入れます									
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)							
受講される皆さんに作曲デモンストレーションとしてモチーフ(2小節)作りに参加戴いたり、楽器演奏や歌唱で参加戴いたりすることがあります。強要はいたしません積極的に参加いただくことを望みます。人前で何かをされたくない方も受講出来ますが、講師の講義や学生さんのパフォーマンスには真摯に耳を傾ける事を心から望みます。また、楽曲制作では個別対応の瞬間もあるので、その場合のご理解をお願いします。									
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)							
ライブ実習に於ける課題による評価、及び、授業への積極性、受講態度を総合的に評価する。									
教科書					著者等			出版社	
教科書					著者等			出版社	
参考文献					著者等			出版社	
参考文献					著者等			出版社	
【オフィスアワー】									
①曜日(月 ・ 火 ・ 水 ・ 木 ・ 金 ・ 土) ※赤字が実施曜日									
②時間帯 14:20~14:50 14:55~15:25 15:30~16:00 17:00~18:00 * PACS業界の先生方は全て城之内管轄でまとめる									

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	オリエンテーション／イメージと音楽 リスナーに何を伝えたいのか～音符というツール、ダイアトニックスケールについて、コードネームの利便性	予習: シラバスを読んでおく。
第2回	ダイアトニックスケール2 ～クリエイターは理論に助けられることがある	予習: 前回の授業を振り返っておく。 復習: 今回の授業をまとめる。
第3回	モチーフとは? 「偶然のモチーフ」をどう延ばすか。	予習: 前回の授業を振り返っておく。 復習: 今回の授業をまとめる。
第4回	メロディとコードの関係1	予習: 前回の授業を振り返っておく。 復習: 今回の授業をまとめる。
第5回	メロディとコードの関係 2 リハモナイズとボイスング	予習: 前回の授業を振り返っておく。 復習: 今回の授業をまとめる。
第6回	クライアントと音楽(映像、主題歌等)、芝居と音楽～言葉と音符	予習: 前回の授業を振り返っておく。 復習: 今回の授業をまとめる。
第7回	スタジオミュージシャン／アナリーゼ(楽曲分析～トランスポジションとモデュレーション)	予習: 前回の授業を振り返っておく。 復習: 今回の授業をまとめる。
第8回	ライブ実習に向けて Ⅰ	予習: 前回の授業を振り返っておく。 復習: 今回の授業をまとめる。
第9回	ライブ実習に向けて Ⅱ	予習: 前回の授業を振り返っておく。 復習: 今回の授業をまとめる。
第10回	ライブ実習に向けて Ⅲ	予習: 前回の授業を振り返っておく。 復習: 今回の授業をまとめる。
第11回	ライブ実習に向けて Ⅳ	予習: 前回の授業を振り返っておく。 復習: 今回の授業をまとめる。
第12回	ライブ実習に向けて Ⅴ	予習: 前回の授業を振り返っておく。 復習: 今回の授業をまとめる。
第13回	ライブ実習に向けて Ⅵ	予習: 前回の授業を振り返っておく。 復習: 今回の授業をまとめる。
第14回	まとめ Ⅰ	予習: 前回の授業を振り返っておく。 復習: 今回の授業をまとめる。
第15回	まとめ Ⅱ	予習: 前回の授業を振り返っておく。 復習: 今回の授業をまとめる。

科目名(クラス)	エンタメプロデュースB			開講学期	後期	単位数	2	配当年次	2
担当教員	清弘 誠	実務家教員	○	履修対象・条件	パフォーマンス総合芸術文化専攻				
【授業の概要】		(360文字以内)							
TBS、NHK等にて数々の大ヒットドラマの演出(プロデュース、キャスティング含む)を手がけてきた講師による『演出術』を学ぶ。実際にドラマで使われた台本等を使用して、演技をする側、演出する側の実践を学んで行く。									
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力		思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力		意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力
		専攻分野中心の知識と技能	○		課題の発見、分析、解決力	○		国際感覚	社会的責任・リーダーシップ
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク	
【授業の到達目標】		(360文字以内)							
総勢100名以上にものぼる多くのスタッフやキャストを束ねて、ひとつの作品を作り上げて来た講師の貴重な経験を伝授しながら、受講生たちが授業に積極的に参加し、自ら、あるいはグループワークを通して、考える力、セルフプロデュース能力、コミュニケーション能力を養っていくことができる。									
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)							
講義と実践をバランスよく実施。DVD,CD等の鑑賞も取り入れます。									
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)							
講義のみならず、実践体験として朗読、本読み、演技等授業内容に添ったパフォーマンスや発表を受講生に求める事が有ります。強要はしませんが積極的な参加とともにパフォーマンスを行なう学友に対しても好意的な心で授業に参加すること。									
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)							
課題による採点及び、授業への積極性、受講態度を総合的に評価する。									
教科書					著者等			出版社	
教科書					著者等			出版社	
参考文献					著者等			出版社	
参考文献					著者等			出版社	
【オフィスアワー】									
①曜日(月 ・ 火 ・ 水 ・ 木 ・ 金 ・ 土) ※赤字が実施曜日									
②時間帯 14:20~14:50 14:55~15:25 15:30~16:00 17:00~18:00 * PACS業界の先生方は全て城之内管轄でまとめる									

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	テレビドラマと映画—その歴史と今	予習: 自身の好きなドラマ、心に残ったセリフ等をまとめる。
第2回	テレビドラマの作り方	予習: 前回の授業の内容を振り返る。 復習: 今回の授業の内容をまとめる。
第3回	演出とは何か	予習: 前回の授業の内容を振り返る。 復習: 今回の授業の内容をまとめる。
第4回	演出と脚本	予習: 前回の授業の内容を振り返る。 復習: 今回の授業の内容をまとめる。
第5回	脚本が出来るまで	予習: 前回の授業の内容を振り返る。 復習: 今回の授業の内容をまとめる。
第6回	脚本を読み解く	予習: 前回の授業の内容を振り返る。 復習: 今回の授業の内容をまとめる。
第7回	リハーサルとロケハン	予習: 前回の授業の内容を振り返る。 復習: 今回の授業の内容をまとめる。
第8回	コンテの作り方と映像	予習: 前回の授業の内容を振り返る。 復習: 今回の授業の内容をまとめる。
第9回	ドラマと美術	予習: 前回の授業の内容を振り返る。 復習: 今回の授業の内容をまとめる。
第10回	照明と音響効果 編集について	予習: 前回の授業の内容を振り返る。 復習: 今回の授業の内容をまとめる。
第11回	ドラマと音楽 その1	予習: 前回の授業の内容を振り返る。 復習: 今回の授業の内容をまとめる。
第12回	ドラマと音楽その2 DVDにて検証	予習: 前回の授業の内容を振り返る。 復習: 今回の授業の内容をまとめる。
第13回	テレビドラマのこれから	予習: 前回の授業の内容を振り返る。 復習: 今回の授業の内容をまとめる。
第14回	まとめ その1発表	予習: 前回の授業の内容を振り返る。 復習: 今回の授業の内容をまとめる。
第15回	まとめ その2 発表	予習: 前回の授業の内容を振り返る。 復習: 今回の授業の内容をまとめる。

科目名(クラス)	ステージングとパフォーマンス			開講学期	前期	単位数	2	配当年次	2・3												
担当教員	HIRO	実務家教員	○	履修対象・条件	パフォーマンス総合芸術文化専攻																
【授業の概要】		(360文字以内)																			
エンターテインメント業界においての様々な視点からの考察、その背景、歴史を学ぶことによりダンスや各国々の音楽を通しての芸術文化の奥深さを知り、そこから現代のエンターテインメントとの繋がり、紐付けをして新しいものへと繋いでいく能力が重要かと思います。 実際に身体を使ってのリズム、体幹トレーニング、基礎練習などを行うことにより、舞台での見せ方や意識の向上へ向けて個々がパフォーマンスというものへ意欲的に取り組めるよう行なっていきます。																					
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力		思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力		意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力												
		専攻分野中心の知識と技能	○		課題の発見、分析、解決力	○		国際感覚	社会的責任・リーダーシップ												
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク													
【授業の到達目標】		(360文字以内)																			
数字や決まり事に縛られない自身の自由な芸術性、クリエイティブ能力を高め、個性を生かした豊かな人間力こそが素晴らしい音楽性を育むという事、そしてそれをダンス、見せる表現として伝える技術、能力を習得することができる。																					
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)																			
講義が中心ですが、姿勢、バレエ、ヒップホップ、ダンス基礎。チームワークを意識したゴスペルや団体行動(構成を組み立てる練習)など																					
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)																			
テーマに基づいた振り付けや表現方法を創作します。自由すぎずテーマにそって意味があるもの、伝えたいものとなっているかに重点を置きます																					
		(380文字以内)																			
授業への積極性、授業への参加度。課題含め総合的に判断する。																					
教科書					著者等			出版社													
教科書					著者等			出版社													
参考文献	アメリカ黒人の歴史				著者等	上杉忍		出版社	中央公論新社												
参考文献	魂を揺さぶる歌に会う				著者等	ウェルズ恵子		出版社	岩波ジュニア新書												
【オフィスアワー】																					
①曜日(月 ・ 火 ・ 水 ・ 木 ・ 金 ・ 土) ※赤字が実施曜日																					
時間帯 14:20～14:50 14:55～15:25 15:30～16:00 17:00～18:00 * PACS業界の先生方は全て城之内管轄でまとめる																					

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	ダンスの歴史1 (ストレッチ、姿勢体幹トレーニング)	予習 ダンスのルーツについて調べる。 復習 授業で行った物をより深く調べる。
第2回	ダンスの歴史2(ストレッチ、姿勢体幹トレーニング)	予習 前回の授業から広がった物を調べる。 復習 授業で行った動きも自宅で反復練習する。
第3回	HIPHOP 黒人差別の歴史 (歩き方、筋力トレーニング)	予習 HIPHOPが生まれた原点について調べる。 復習 授業で行った動きも自宅で反復練習する。
第4回	民族舞踊、世界のダンス1 (歩き方、筋力トレーニング)	予習 世界の舞踊について興味がある物を見してみる。 復習 授業で行った動きも自宅で反復練習する。
第5回	民族舞踊、世界のダンス2 (HIPHOP基礎、リズムトレーニング)	予習 前回の授業から広がった物を調べる。 復習 授業で行った動きも自宅で反復練習する。
第6回	J POP アイドルの踊り、商業的なダンスの研究(JPOPダンス)	予習 日本ならではの特徴を調べてみる。 復習 授業で行った動きも自宅で反復練習する。
第7回	日体大の団体行動、高校ダンス部のフォーメーション研究(JPOPダンス続き)	予習 前回の授業から広がった物を調べる。 復習 授業で行った動きも自宅で反復練習する。
第8回	声、相手に対して心地よい発声ができるボイトレセミナー(HIPHOP基礎、振り付け練習)	予習 前回の授業から広がった物を調べる。 復習 授業で行った動きも自宅で反復練習する。
第9回	第三回で勉強した物をもとにゴスペルの歌詞、内容を分析、歌ってみよう(ダンス振り付け練習)	予習 ゴスペルの歴史、楽曲について調べる。 復習 授業で行った動きも自宅で反復練習する。
第10回	RAPに触れる、RAPを作る、韻を踏む(各自の創作ダンスに向けての練習) ※ゲストスピーカーあり	予習 RAPの手法などを調べる。 復習 授業で行った動きも自宅で反復練習する。
第11回	様々なリズムを学び身体で表現、コール&レスポンスによる練習やボディパーカッション(ダンス練習)	予習 不得意なリズムなどを調べてみる。 復習 授業で行った動きも自宅で反復練習する。
第12回	様々な感情をダンスで表現する(パレエやジャズダンスの基礎練習)	予習 自分が何を表現したいかを考える。 復習 授業で行った動きも自宅で反復練習する。
第13回	創作1 テストへ向けて個々でテーマを決め、創作をしていく(基礎練習プラス個人練習)	予習 使用する音楽を決める。 復習 授業で行った動きも自宅で反復練習する。
第14回	創作2 発表へ向けて振り付けを固めていく(個人練習と確認)	予習 自身で決めた音楽で創作、練習してくる 復習 発表へ向けての個人練習、躍り込み
第15回	創作発表 (個人で1分から2分創作ダンスの発表)	

科目名(クラス)	演技とパフォーマンス			開講学期	後期	単位数	2	配当年次	2・3
担当教員	ひかる一平	実務家教員	○	履修対象・条件	パフォーマンス総合芸術文化専攻				
【授業の概要】		(360文字以内)							
俳優は常に作品ごとに共演者が変わり、作品毎にシアターゲーム等を用いコミュニケーションをとりチームワーク作りを行います。他者との交流は今後の人生において必要不可欠なものです。コミュニケーション力は顕在意識ではなく、潜在意識に落とし込む込みことによって自然なコミュニケーションが他者と取れるようになります。 芝居(エチュード等)を学ぶことにより、自然に取れるにコミュニケーション力を身に付けてもらう。 また芝居で他者の気持ちを演じ感じるにより、人の痛みや気持ちを考えられるようにする。自己評価を正しいか他者からの評価を聞くことにより、自分新たな自分の一面を見つけ出すことも身に付けてもらいます。芝居というツールを使い自分自身を客観視できるようにも指導する。									
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力		
		専攻分野中心の知識と技能		課題の発見、分析、解決力		国際感覚	社会的責任・リーダーシップ		
		広範な文化の理解		プレゼンテーション能力		自己管理能力・チームワーク			
【授業の到達目標】		(360文字以内)							
芝居体験をし羞恥心をなくし、コミュニケーション力、人間力をアップすることができる。 自己プレゼンテーションを始める授業と終わりの授業でやり、変化を体感させ自信を付けることができる。									
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)							
エチュードや台本で演ずること中心ですが、学生とのディスカッションや人生学も取り入れます。									
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)							
常に人前で発表をする授業内容です。エチュードでは想像力を使い、芝居では表現力を使い羞恥心をなくすことが求められます。									
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)							
授業への積極性、行動力、発言力、演技力 等、総合的に実技にて評価します。									
教科書				著者等			出版社		
教科書				著者等			出版社		
参考文献				著者等			出版社		
参考文献				著者等			出版社		
【オフィスアワー】									
①曜日(月 ・ 火 ・ 水 ・ 木 ・ 金 ・ 土) ※赤字が実施曜日									
②時間帯 14:20~14:50 14:55~15:25 15:30~16:00 17:00~18:00 * PACS業界の先生方は全て城之内管轄でまとめる									

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	始めに:授業の概要 お互いの自己プレゼンテーション ・芝居が人生の役に立つ ・良い握手と悪い握手 ・全てに感謝する考え ・Whyがチャンス ・先ずは何でもやり始める	予習:自己プレゼンテーションを考える。 復習:自分にとって芝居のすることによって変化する、 したい部分を考える。Whyを探す。
第2回	芝居を使ったコミュニケーション1 ・第一印象をアップする方法・活舌、表情筋の使い方・自己プレゼンテーション発表	予習:自分の姿を客観視できるように考える。何に今 感謝できているかを考えてくる 復習:活舌表情体操を常にやる。
第3回	芝居を使ったコミュニケーション2 ・潜在意識に落とし込め!これが基礎 ・自分スローガンを作る	予習:自分スローガンを考える 復習:基礎練習を身体で覚える
第4回	芝居を使ったコミュニケーション3 ・人の呼吸に合わせるシンクロさせるトレーニング ・集中力をアップする方法	予習:人の行動を観察する 復習:基礎練習を身体で覚える
第5回	芝居を使ったコミュニケーション4 ・シアターゲーム ・後でやろうは馬鹿野郎。明日やろうは大馬鹿野郎	予習:自分で始めようと思っていることをまとめる 復習:全てやろうと思ったときに始動してるかを考える
第6回	インプット→アウトプット→フィードバック 書くことが重要 ・自分履歴書を作る・目標を書く・10年後の自分を書く	予習:日常文章等書くことをどれだけやっているか。 復習:目標を書いたら毎日目標を読み返し、落とし込む
第7回	エチュード1 ・一分間体感エチュード ・体内時計で芝居をする・羞恥心はずせ!	予習:一分を体内時計で身に着ける 復習:人の行動を観察する。
第8回	エチュード2 ・芝居の空気感 ・パワーバランスのとり方	予習:自分の見たことある芝居を書きだす。 復習:芝居するとは何かを考える。
第9回	エチュード3 ・楽しく、まじめにやることが人への感動につながる。	予習:楽しんで演ずるとは何かを考える。 復習:実際にやったエチュードを振り返り、次につなげる ヒントを考える。
第10回	・エチュード4 ・オノマトペを使用したエチュード	予習:やってみたいシチュエーションを考えてくる。 復習:体験した気持ちを記録する。
第11回	・台本1 ・台本の読み方・落とし込み方	予習:台本を読んでくる。 復習:声に出し何度も読んでくる。
第12回	・台本2 ・実際に立って動いてみる ・読むだけでなく気持ちに落とし込む	予習:セリフの意味や自分なりの間を考える。 復習:セリフを覚え自然に動けるようにする。
第13回	台本3 ・演じる 実技	予習:芝居は一人で行うものではないので他者の気持ち も考えてくる。 復習:体に潜在意識に気持ちを落とし込む。
第14回	・総合1 ・自己プレゼンテーション(第二回の時との違い・進歩) ・芝居	予習:自己プレゼンテーションを考える。 復習:自己評価・他者からの評価を分析する
第15回	総合2 ・課題の台本を演じる	予習:覚えたことを表現できる準備をしてくる 復習:授業で何を学んだかを書くことによって記憶として 残るようにする。

科目名(クラス)	THE 業界人(仕事の流儀) I A			開講学期	前期	単位数	2	配当年次	2・3	
担当教員	城之内 ミサ	実務家教員	○	履修対象・条件	パフォーマンス総合芸術文化専攻					
【授業の概要】		(360文字以内)								
あらゆるエンタテインメント業界、文化芸術に関わる業界に於ける各界で、今も第一線で活躍する講師陣から、今の業界～未来の業界について様々な世界観を学ぶ。エンタメ・文化・芸術分野に於ける多くの経験からなるそれぞれの講師の授業は、幾多の書、幾多の理論、賢者の言葉とともに「生きた学びのライブ」を展開していく。										
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力		思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力		意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力	○
		専攻分野中心の知識と技能	○		課題の発見、分析、解決力	○		国際感覚	社会的責任・リーダーシップ	
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク		
【授業の到達目標】		(360文字以内)								
講師からの一方向的な講義だけで知識を覚えるのではなく、講師の世界観について受講生たちが主体的に参加、仲間と深く考えながら課題を解決する力を養うことができる。 そうした力を養う授業手法として、時にはグループワークや自身での表現を披露しながら、自ら考える力、セルフプロデュース能力を延ばしていくことができる。										
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)								
講義形式が主ですが、実践としての側面もあります。DVD,CD等の鑑賞も取り入れます										
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)								
オムニバス形式による授業のため自身の興味の有無に関わらず講師の先生のお話、パフォーマンス等には真摯に耳を傾けることを望みます。また講師によっては実践体験として歌、演奏、その他授業内容に添ったパフォーマンス、発表を受講生に求める事が有ります。強要はしませんが積極的な参加とともにパフォーマンスを行なう学友に対しても好意的な心で授業に参加することを望みます。										
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)								
課題、授業への積極性、受講態度を総合的に評価する。										
教科書					著者等			出版社		
教科書					著者等			出版社		
参考文献					著者等			出版社		
参考文献					著者等			出版社		
【オフィスアワー】										
①曜日(月 ・ 火 ・ 水 ・ 木 ・ 金 ・ 土) ※赤字が実施曜日										
②時間帯 14:20～14:50 14:55～15:25 15:30～16:00 17:00～18:00 * PACS業界の先生方は全て城之内管轄でまとめる										

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	講師: 中田宏 / 青山学院大学経済学部卒業。松下政経塾を経て衆議院議員4期、横浜市長2期。テレビコメンターとしては『バイキング』『ビートたけしTVタックル』『そこまで言って委員会』『情報7daysニュースキャスター』等。岡山理科大学客員教授、千葉科学大学客員教授、倉敷芸術科学大学客員教授、著書多数	予習: シラバスを読んでおく。
第2回	講師: 中田宏	予習: 前回の授業の内容を振り返る。 復習: 今回の授業の内容をまとめる。
第3回	講師: 中田宏	予習: 前回の授業の内容を振り返る。 復習: 今回の授業の内容をまとめる。
第4回	講師: 伊秩弘将 / 作詩作曲家、シンガーソングライター、音楽プロデューサー / 渡辺美里、森高千里等作家を経てシンガーソングライターとしてもデビュー。様々なアーティストに楽曲提供。現在、新たな発信基地原宿駅前ステージに出演するガールズユニットなどの楽曲提供とプロデュースを展開	予習: シラバスを読んでおく。
第5回	講師: 伊秩弘将	予習: 前回の授業の内容を振り返る。 復習: 今回の授業の内容をまとめる。
第6回	講師: 伊秩弘将	予習: 前回の授業の内容を振り返る。 復習: 今回の授業の内容をまとめる。
第7回	講師: 高橋達也 / ヨックモック企画部部長。東京農業大学 農学部 営農学科 卒。食を加工視点ではなく原点となる農業から学ぶ。1年間休学し英国に留学。語学学校に通いながらボランティア活動等に従事。新規設立となった海外事業グループ グループ長に就任。更に事業拡大に伴い海外事業部となり、海外伸展を図る。企画部 部長就任。ブランド設立50周年を期に、今後50年を見据えた中長期的スパンでの取組みを見据えた企画立案を推進中。	予習: シラバスを読んでおく。
第8回	講師: 高橋達也	予習: 前回の授業の内容を振り返る。 復習: 今回の授業の内容をまとめる。
第9回	講師: 高橋達也	予習: 前回の授業の内容を振り返る。 復習: 今回の授業の内容をまとめる。
第10回	講師: 吉田照美 / アナウンサー、キャスター、タレント / 早稲田大学政治経済学部経済学科卒業、文化放送入社。多くの番組に出演。ラジオ「セイヤング」「てるてるワイド」「やる気MANMAN!」で一世風靡、テレビでは「夕焼けニャンニャン」「びったしカンカン」の司会やテレビ朝日「Qさま!」の名回答でもおなじみ	予習: シラバスを読んでおく。
第11回	講師: 吉田照美	予習: 前回の授業の内容を振り返る。 復習: 今回の授業の内容をまとめる。
第12回	講師: 吉田照美	予習: 前回の授業の内容を振り返る。 復習: 今回の授業の内容をまとめる。
第13回	講師: 名郷根雅史 / クラウン・徳間レーベル取締役 制作プロデューサー / 早稲田稲田大学社会学部卒。日本コロムビアを経てクラウン・マーケティング本部長・JPOPの制作部門を担当。GACKT・城之内ミサ・北島三郎、純烈、他を手がけ、現在は日本クラウン、徳間ジャパンコミュニケーションにてヒット作品を手がける	予習: シラバスを読んでおく。
第14回	講師: 名郷根雅史	予習: 前回の授業の内容を振り返る。 復習: 今回の授業の内容をまとめる。
第15回	講師: 名郷根雅史	予習: 前回の授業の内容を振り返る。 復習: 今回の授業の内容をまとめる。

科目名(クラス)	THE 業界人(仕事の流儀) I B			開講学期	後期	単位数	2	配当年次	2・3	
担当教員	城之内 ミサ	実務家教員	○	履修対象・条件	パフォーマンス総合芸術文化専攻					
【授業の概要】		(360文字以内)								
あらゆるエンタテインメント業界、文化芸術に関わる業界に於ける各界で、今も第一線で活躍する講師陣から、今の業界～未来の業界について様々な世界観を学ぶ。エンタメ・文化・芸術分野に於ける多くの経験からなるそれぞれの講師の授業は、幾多の書、幾多の理論、賢者の言葉とともに「生きた学びのライブ」を展開していく。										
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力		思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力		意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力	○
		専攻分野中心の知識と技能	○		課題の発見、分析、解決力	○		国際感覚	社会的責任・リーダーシップ	
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク		
【授業の到達目標】		(360文字以内)								
講師からの一方向的な講義だけで知識を覚えるのではなく、講師の世界観について受講生たちが主体的に参加、仲間と深く考えながら課題を解決する力を養うことができる。 そうした力を養う授業手法として、時にはグループワークや自身での表現を披露しながら、自ら考える力、セルフプロデュース能力を延ばしていくことができる。										
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)								
講義形式が主ですが、実践としての側面もあります。DVD,CD等の鑑賞も取り入れます										
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)								
オムニバス形式による授業のため自身の興味の有無に関わらず講師の先生のお話、パフォーマンス等には真摯に耳を傾けることを望みます。また講師によっては実践体験として歌、演奏、その他授業内容に添ったパフォーマンス、発表を受講生に求める事が有ります。強要はしませんが積極的な参加とともにパフォーマンスを行なう学友に対しても好意的な心で授業に参加することを望みます。										
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)								
課題、授業への積極性、受講態度を総合的に評価する。										
教科書					著者等			出版社		
教科書					著者等			出版社		
参考文献					著者等			出版社		
参考文献					著者等			出版社		
【オフィスアワー】										
①曜日(月 ・ 火 ・ 水 ・ 木 ・ 金 ・ 土) ※赤字が実施曜日										
②時間帯 14:20～14:50 14:55～15:25 15:30～16:00 17:00～18:00 * PACS業界の先生方は全て城之内管轄でまとめる										

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	講師:加藤茜愛／全日本空輸(ANA)客室乗務員として約30年勤務。新人教育インストラクター(教官職)、人事評価制度の構築、機内品質管理、新入社員面接官等を歴任。またグループの研修会社出向時には企画・営業・講師としても活動。現在、人材育成のコンサルティング事業、個人事業主へのパーソナルコンサルティング等、「人と企業の価値向上」に繋がる、あらゆるリクエストに応じている。	シラバスを読んでおく
第2回	講師:加藤茜愛	予習: 前回の授業の内容を振り返る。 復習: 今回の授業の内容をまとめる。
第3回	講師:加藤茜愛	予習: 前回の授業の内容を振り返る。 復習: 今回の授業の内容をまとめる。
第4回	講師:福原慶匡／アニメプロデューサー、音楽プロデューサー、実業家／早稲田大学教育学部卒業。株式会社8million代表取締役社長、ヤオヨロズ株式会社取締役等。『みないディバ』の制作プロデューサー、『てさぐれ! 部活もの』シリーズやテレビ東京『けものフレンズ』アニメプロデューサー。	予習: シラバスを読んでおく。
第5回	講師:福原慶匡	予習: 前回の授業の内容を振り返る。 復習: 今回の授業の内容をまとめる。
第6回	講師:福原慶匡	予習: 前回の授業の内容を振り返る。 復習: 今回の授業の内容をまとめる。
第7回	講師:大原さやか／青山学院大学文学部英米文学科に入学。当時は管弦楽団に所属。総合学園ヒューマンアカデミーの声優ワークショップでも教えている。「機動戦士ガンダム サンダーボルト」(カーラ・ミッチャム役)、「ID-0」(カーラ・ミラ＝フォーデン機役)、「FAIRY TAIL」シリーズ(エルザ・スカーレット役)、「美少女戦士セーラームーン Crystal」(海王みちる／セーラーネプチューン役)等を演じる。	予習: シラバスを読んでおく。
第8回	講師:大原さやか	予習: 前回の授業の内容を振り返る。 復習: 今回の授業の内容をまとめる。
第9回	講師:城之内ミサ／東邦音大在学中より「3年B組金八先生」等映像音楽作曲家としてプロの活動を始める。00年よりアジアの音楽を手掛け自作アルバムは欧米諸国でチャート上位に。06年ユネスコ・バリ本部から作曲部門では日本人で初の『ユネスコ平和芸術家』に任命。ユネスコ公式パートナーシップ事業「世界遺産トーチランコンサート」を主宰しNYカーネギーホール初め五大陸でのコンサートを実施。ユネスコ・バリ本部のメッセンジャーとしても世界で期待されているアーティスト。	予習: 前回の授業の内容を振り返る。 復習: 今回の授業の内容をまとめる。
第10回	講師:柿崎譲志 第一音響社長、音楽制作プロデューサー／府中市音楽協働アドバイザー。オフコース、小田和正、泉谷しげる、大竹しのぶなど多くのアーティストのCD制作に関わっている	予習: シラバスを読んでおく。
第11回	講師:柿崎譲志	予習: 前回の授業の内容を振り返る。 復習: 今回の授業の内容をまとめる。
第12回	講師:柿崎譲志	予習: 前回の授業の内容を振り返る。 復習: 今回の授業の内容をまとめる。
第13回	講師:森川英展／大学卒業後、美容師を志し専門学校へ入学。卒業後、ヘアサロンに入店、中国での勤務経験後、青山のサロンで店長に就任、同時にヘアメイクの活動をスタート。その後、2003年に渡英。VIDAL SASSOONに留学。帰国後2004年東京自由が丘にカラーセラピーをカウンセリングに用いたHairsalon『NOV』Open。同時にNOV Hair&Make Officeをスタート。TV、CM、広告、ステージ等のヘアメイクを担当。	予習: 前回の授業の内容を振り返る。 復習: 今回の授業の内容をまとめる。
第14回	講師:森川英展	予習: 前回の授業の内容を振り返る。 復習: 今回の授業の内容をまとめる。
第15回	講師:森川英展	予習: 前回の授業の内容を振り返る。 復習: 今回の授業の内容をまとめる。

科目名(クラス)	THE 業界人(仕事の流儀)ⅡA		開講学期	前期	単位数	2	配当年次	3・4		
担当教員	城之内 ミサ	実務家教員	○	履修対象・条件	パフォーマンス総合芸術文化専攻					
【授業の概要】		(360文字以内)								
あらゆるエンタテインメント業界、文化芸術に関わる業界に於ける各界で、今も第一線で活躍する講師陣から、今の業界～未来の業界について様々な世界観を学ぶ。エンタメ業界に於ける多くの経験からなるそれぞれの講師の授業は、幾多の書、幾多の理論、賢者の言葉とともに「生きた学びのライブ」を展開していく。										
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力		思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力		意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力	○
		専攻分野中心の知識と技能	○		課題の発見、分析、解決力	○		国際感覚	社会的責任・リーダーシップ	
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク		
【授業の到達目標】		(360文字以内)								
講師からの一方向的な講義だけで知識を覚えるのではなく、講師の世界観について受講生たちが主体的に参加、仲間と深く考えながら課題を解決する力を養うことができる。目的とする。そうした力を養う授業手法として、時にはグループワークや自身での表現を披露しながら、自ら考える力、セルフプロデュース能力を延ばしていくことができる。										
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)								
講義形式が主ですが、実践としての側面もあります。DVD,CD等の鑑賞も取り入れます										
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)								
オムニバス形式による授業のため自身の興味の有無に関わらず講師の先生のお話、パフォーマンス等には真摯に耳を傾けることを望みます。また講師によっては実践体験として歌、演奏、その他授業内容に添ったパフォーマンス、発表を受講生に求める事が有ります。強要はしませんが積極的な参加とともにパフォーマンスを行なう学友に対しても好意的な心で授業に参加することを望みます。										
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)								
課題による採点(70%)及び、授業への積極性、受講態度を総合的に評価する。										
教科書					著者等			出版社		
教科書					著者等			出版社		
参考文献					著者等			出版社		
参考文献					著者等			出版社		
【オフィスアワー】										
①曜日(月 ・ 火 ・ 水 ・ 木 ・ 金 ・ 土) ※赤字が実施曜日										
②時間帯 14:20～14:50 14:55～15:25 15:30～16:00 17:00～18:00 * PACS業界の先生方は全て城之内管轄でまとめる										

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	講師: 松島明宏／舞台監督、演出家、有限会社 アテンション代表取締役／ジャパンウィーク国際文化交流、PRIDE 格闘技、東京国際映画祭、各種BIGイベント(ゲストに渡辺謙、剛力彩芽、小室哲哉等)演出をはじめ、城之内ミサ、松田聖子、aiko、モーニング娘。アン・ジュウク等著名アーティストのコンサート演出多数	予習: シラバスを読んでおく。
第2回	講師: 松島明宏	予習: 前回の授業の内容を振り返る。 復習: 今回の授業の内容をまとめる。
第3回	講師: 松島明宏	予習: 前回の授業の内容を振り返る。 復習: 今回の授業の内容をまとめる。
第4回	講師: 黒澤慶子／全日空VIP旅客担当／羽田空港の旅客部門に勤務。空港旅客業務のエキスパートとして空港旅客業務手順書(SOP)の整備に携わる。在職中に総合旅行業務取扱管理者(国家資格)と総合旅程管理者の資格を取得。航空会社で培ったノウハウを活かした旅のスペシャリストとして活動している	予習: シラバスを読んでおく。
第5回	講師: 黒澤慶子	予習: 前回の授業の内容を振り返る。 復習: 今回の授業の内容をまとめる。
第6回	講師: 黒澤慶子	予習: 前回の授業の内容を振り返る。 復習: 今回の授業の内容をまとめる。
第7回	講師: 染谷智／株式会社SOME代表／各種イベント企画制作／講演会ブッキング／広告代理業務／メディアコンサルティング／タレント、アーティストのキャスティング／。ヨーロッパのエンターテインメントの影響を受け音楽活動や一人芝居に力を注ぎつつ、テレビ番組の制作会社に就職。バラエティ番組をはじめ、歌、ドラマ、報道、情報など様々なジャンルに携わり丸27年。各種イベントプロデュースを手がける。	予習: シラバスを読んでおく。
第8回	講師: 染谷智	予習: 前回の授業の内容を振り返る。 復習: 今回の授業の内容をまとめる。
第9回	講師: 染谷智	予習: 前回の授業の内容を振り返る。 復習: 今回の授業の内容をまとめる。
第10回	講師: 木河 淳(DJ Bobby)／ラジオパーソナリティ、ナレーター、タレント。音楽評論家。。早稲田大学 商学部卒。米国での交換学生時代にワシントン州シアトルでラジオDJを経験。ローソンCSほっとステーションはじめ数々のDJとして番組を持つと同時に国内外アーティストのインタビューを実施。ジェームス・ブラウン、Bon Jovi、The Doobie Brothers、シーナ・イーストン、YOSHIKI(X Japan)、つんく♂(シャ乱Q)、MISIA、一青窈、城之内ミサ他多数。	予習: シラバスを読んでおく。
第11回	講師: 木河 淳(DJ Bobby)	予習: 前回の授業の内容を振り返る。 復習: 今回の授業の内容をまとめる。
第12回	講師: 木河 淳(DJ Bobby)	予習: 前回の授業の内容を振り返る。 復習: 今回の授業の内容をまとめる。
第13回	講師: 古市哲尉／広告プロデューサー／ベストブランニング社長。多くの企業のセールスプロモーションや広告の企画デザインを手がけている。芸術とデザインは違う!『自己満足ではなくユーザの思いをカタチにすることがデザインである』が信条。「スモール・イズ・ビューティフル=見た目や大きさではなく中身が大切、小さくても素敵な会社」という企業理念を実践し少数精鋭集団を率いてきた。変化が激しく厳しい業界を生き抜いてきた行動力と柔軟性には定評がある。	予習: 前回の授業の内容を振り返る。 復習: 今回の授業の内容をまとめる。
第14回	講師: 古市哲尉	予習: 前回の授業の内容を振り返る。 復習: 今回の授業の内容をまとめる。
第15回	講師: 古市哲尉	予習: 前回の授業の内容を振り返る。 復習: 今回の授業の内容をまとめる。

科目名(クラス)	THE 業界人(仕事の流儀)ⅡB			開講学期	後期	単位数	2	配当年次	3・4	
担当教員	城之内 ミサ	実務家教員	○	履修対象・条件	パフォーマンス総合芸術文化専攻					
【授業の概要】		(360文字以内)								
あらゆるエンタテインメント業界、文化芸術に関わる業界に於ける各界で、今も第一線で活躍する講師陣から、今の業界～未来の業界について様々な世界観を学ぶ。エンタメ業界に於ける多くの経験からなるそれぞれの講師の授業は、幾多の書、幾多の理論、賢者の言葉とともに「生きた学びのライブ」を展開していく。										
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力		思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力		意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力	○
		専攻分野中心の知識と技能	○		課題の発見、分析、解決力	○		国際感覚	社会的責任・リーダーシップ	
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク		
【授業の到達目標】		(360文字以内)								
講師からの一方向的な講義だけで知識を覚えるのではなく、講師の世界観について受講生たちが主体的に参加、仲間と深く考えながら課題を解決する力を養うことができる。そうした力を養う授業手法として、時にはグループワークや自身での表現を披露しながら、自ら考える力、セルフプロデュース能力を延ばしていくことができる。										
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)								
講義形式が主ですが、実践としての側面もあります。DVD,CD等の鑑賞も取り入れます										
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)								
オムニバス形式による授業のため自身の興味の有無に関わらず講師の先生のお話、パフォーマンス等には真摯に耳を傾けることを望みます。また講師によっては実践体験として歌、演奏、その他授業内容に添ったパフォーマンス、発表を受講生に求める事が有ります。強要はしませんが積極的な参加とともにパフォーマンスを行なう学友に対しても好意的な心で授業に参加することを望みます。										
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)								
課題による採点(70%)及び、授業への積極性、受講態度を総合的に評価する。										
教科書					著者等			出版社		
教科書					著者等			出版社		
参考文献					著者等			出版社		
参考文献					著者等			出版社		
【オフィスアワー】										
①曜日(月 ・ 火 ・ 水 ・ 木 ・ 金 ・ 土) ※赤字が実施曜日										
②時間帯 14:20～14:50 14:55～15:25 15:30～16:00 17:00～18:00 * PACS業界の先生方は全て城之内管轄でまとめる										

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	講師:海老塚純一／映像ディレクター。／音響専門学校を卒業後、横浜市内のケーブルテレビ局に入社。ロケハン、台本・画コンテ作成、撮影、編集、MAまで全て一人でこなす「オールインワン」で番組を制作。バラエティー番組まで数々の作品を制作。2006年フリーの映像ディレクターとして独立後、様々な企業のVP、CM、行政の動画配信VP、民放局や首都圏内のケーブルテレビ(J:com他)局の番組制作を手がける。	予習:シラバスを読んでおく。
第2回	講師:海老塚純一	予習: 前回の授業の内容を振り返る。 復習: 今回の授業の内容をまとめる。
第3回	講師:海老塚純一	予習: 前回の授業の内容を振り返る。 復習: 今回の授業の内容をまとめる。
第4回	講師:河野堅一郎／デザイナー。東京藝術大学美術学部工芸家デザイン専攻卒業後、ソニーのデザイン部門入社。ソニーアメリカ・デザインセンターに3年出向、デザイン部長就任。アイワにも出向経験。お茶の水美術学院理事長～現在、東京～四国を軸にアーティストとして活躍、個展を開きつつギャラリープルシアンブルーを主宰。	予習:シラバスを読んでおく。
第5回	講師:河野堅一郎	予習: 前回の授業の内容を振り返る。 復習: 今回の授業の内容をまとめる。
第6回	講師:河野堅一郎	予習: 前回の授業の内容を振り返る。 復習: 今回の授業の内容をまとめる。
第7回	講師:森田順平／俳優。文学座研究所入所、日本大学芸術学部演劇学科卒業 洗足学園大学 声優コース 教授、2020年より客員教授。 TBS『半沢直樹』『相棒』NHK大河ドラマ、テレビ小説をはじめ、吹き替えでは、「クレヨンしんちゃん」(園長先生)「NARUTO-ナルト- 疾風伝」(長門)「宇宙戦艦ヤマト2199」他、映画等の吹き替えも多数。「クリミナル・マインド」シリーズ」「パイレーツ・オブ・カリビアン」シリーズ」等。	予習:シラバスを読んでおく。
第8回	講師:森田順平	予習: 前回の授業の内容を振り返る。 復習: 今回の授業の内容をまとめる。
第9回	講師:森田順平	予習: 前回の授業の内容を振り返る。 復習: 今回の授業の内容をまとめる。
第10回	講師:川添穰／音響プロデューサー。プロ用レコーディングスタジオ『ZERO STUDIO』代表。ゲーム・アニメ映画・CM音楽制作会社代表(クリエイターゼロ業務)。明星大学(理工学部)、日本工学院専門学校、国立音楽院の講師をつとめる傍ら、日本でただ一人の「楽器ソムリエ、楽器・機材コーディネーター、シンセサイザープログラマー ゲーム音響のデザイナー。商業音楽業界の作曲家やスタジオミュージシャンからの大きな信頼があり、楽器、音響工学分野業界第一人者。	予習:シラバスを読んでおく。
第11回	講師:川添穰	予習: 前回の授業の内容を振り返る。 復習: 今回の授業の内容をまとめる。
第12回	講師:川添穰	予習: 前回の授業の内容を振り返る。 復習: 今回の授業の内容をまとめる。
第13回	講師:佐藤よりこ／ラジオ制作TOKYO-FM制作プロデューサー・ディレクター／現在、自身書き下ろしの物語やエッセイの録音構成番組で、選曲・構成・演出・編集を手掛ける。主な番組「SUZUKI HOME SONGS」Tokyo-FM(構成)、「ジャズバー・アフタービート」(スクリプト)他	予習:シラバスを読んでおく。
第14回	講師:佐藤よりこ	予習: 前回の授業の内容を振り返る。 復習: 今回の授業の内容をまとめる。
第15回	講師:佐藤よりこ	予習: 前回の授業の内容を振り返る。 復習: 今回の授業の内容をまとめる。

科目名(クラス)	セルフプロデュースパフォーマンスA	開講学期	年間	単位数	2	配当年次	3				
担当教員	HIRO	実務家教員	○	履修対象・条件	パフォーマンス総合芸術文化専攻						
【授業の概要】		(360文字以内)									
1年間を通してミュージカル制作を行うにあたり、自身の与えられた範囲で与えられた役柄、仕事、役割を認識し、自身の個性とキャラクターを生かしながらどのように自分をセルフプロデュースしていくか、感性を磨きプロセスを考えていきます。											
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力		思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力		意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢		生涯学習力	
		専攻分野中心の知識と技能	○		課題の発見、分析、解決力	○		国際感覚		社会的責任・リーダーシップ	
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力	○		自己管理能力・チームワーク			
【授業の到達目標】		(360文字以内)									
演技、歌、ダンス、演者としてだけに集中するのではなく、与えられた個人の役割(裏方や共同制作も含め)を自分の色と特徴を出しつつ、制限がある中でいかに自分の力を引き出し最大限の表現をして、意欲的な行動ができるかをミュージカル制作を通して行うことができる。											
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)									
歌やセリフを喋る上での発声、滑舌練習、ダンス練習。脚本にそって進めていきます。											
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)									
一人一役のため自分と向き合い、チームワークを取りながら個人の役割を果たしているのかを見ていきます。											
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)									
授業後半で取り組み方、出来上がり、進み具合を見て上演の判断をし、評価する。											
教科書		著者等		出版社							
教科書		著者等		出版社							
参考文献		著者等		出版社							
参考文献		著者等		出版社							
【オフィスアワー】											
①曜日(月 ・ 火 ・ 水 ・ 木 ・ 金 ・ 土) ※赤字が実施曜日											
②時間帯 14:20~14:50 14:55~15:25 15:30~16:00 17:00~18:00 * PACS業界の先生方は全て城之内管轄でまとめる											

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	脚本内容、配役、役割分担についての説明と確認ミーティング	復習 与えられた役割、役を落とし込む
第2回	声出し、脚本読み、身体の基本トレーニング	予習 与えられた脚本をしっかりと読み込む 復習 授業で行った事の反復練習
第3回	半立ち稽古1(脚本を読みながら立ち位置確認、前半部分のみ)	予習 自分の役のセリフを読み込んでくる 復習 授業で行った事の反復練習
第4回	半立ち稽古2(脚本を読みながら立ち位置確認、前半部分のみ)	予習 自分の役のセリフを読み込んでくる 復習 授業で行った事の反復練習
第5回	脚本前半部分のダンス振り付け練習1	予習 脚本の流れを把握しておく 復習 授業で行った事の反復練習
第6回	脚本前半部分のダンス振り付け練習2	予習 脚本の流れを把握しておく 復習 授業で行った事の反復練習
第7回	ダンス振り付け練習の続きと前半の歌シーンの練習	予習 歌うパートの人は歌詞を頭に入れる 復習 授業で行った事の反復練習
第8回	歌シーン練習の続き	予習 歌うパートの人は歌詞を頭に入れる 復習 授業で行った事の反復練習
第9回	脚本前半部分の立ち稽古1	予習 前半部分のセリフを頭に入れる 復習 授業で行った事の反復練習
第10回	脚本前半部分の立ち稽古2(立ち位置などの確認)	予習 前回の授業の確認 復習 授業で行った事の反復練習
第11回	歌、ダンスをセットにした立ち稽古	予習 前回の授業の確認 復習 授業で行った事の反復練習
第12回	歌、ダンスをセットにした立ち稽古の直し	予習 前回の授業の確認 復習 授業で行った事の反復練習
第13回	脚本前半部分ランスルー	予習 前回の授業の確認 復習 授業で行った事の反復練習
第14回	ランスルーからの直しと固め作業。	予習 前回の授業の確認 復習 授業で行った事の反復練習
第15回	前半部分固め、後半部分本読み確認	予習 前回の授業の確認 復習 授業で行った事の反復練習

科目名(クラス)	セルフプロデュースパフォーマンスB	開講学期	年間	単位数	2	配当年次	3				
担当教員	HIRO	実務家教員	○	履修対象・条件	パフォーマンス総合芸術文化専攻						
【授業の概要】		(360文字以内)									
1年間を通してミュージカル制作を行うにあたり、自身の与えられた範囲で与えられた役柄、仕事、役割を認識し、自身の個性とキャラクターを生かしながらどのように自分をセルフプロデュースしていくか、感性を磨きプロセスを考えていきます。											
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力		思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力		意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢		生涯学習力	
		専攻分野中心の知識と技能	○		課題の発見、分析、解決力	○		国際感覚		社会的責任・リーダーシップ	
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力	○		自己管理能力・チームワーク			
【授業の到達目標】		(360文字以内)									
演技、歌、ダンス、演者としてだけに集中するのではなく、与えられた個人の役割(裏方や共同制作も含め)を自分の色と特徴を出しつつ、制限がある中でいかに自分の力を引き出し最大限の表現をして、意欲的な行動ができるかをミュージカル制作を通して行うことができる。											
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)									
歌やセリフを喋る上での発声、滑舌練習、ダンス練習。脚本にそって進めていきます。											
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)									
一人一役のため自分と向き合い、チームワークを取りながら個人の役割を果たしているのかを見ていきます。											
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)									
授業後半で取り組み方、出来上がり、進み具合を見て上演の判断をし、評価する。											
教科書		著者等		出版社							
教科書		著者等		出版社							
参考文献		著者等		出版社							
参考文献		著者等		出版社							
【オフィスアワー】											
①曜日(月 ・ 火 ・ 水 ・ 木 ・ 金 ・ 土) ※赤字が実施曜日											
②時間帯 14:20~14:50 14:55~15:25 15:30~16:00 17:00~18:00 * PACS業界の先生方は全て城之内管轄でまとめる											

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	前半部分おさらい、後半部分本読みスタート	予習 後半部分脚本読みこみ 復習 授業で行った事の反復練習
第2回	半立ち稽古1(脚本を読みながら立ち位置確認 後半部分のみ)	予習 脚本をしっかり読み込む 復習 授業で行った事の反復練習
第3回	半立ち稽古2(脚本を読みながら立ち位置確認 後半部分のみ)	予習 自分の役のセリフを読み込んでくる 復習 授業で行った事の反復練習
第4回	脚本後半部分のダンス振り付け練習1	予習 自分の役のセリフを読み込んでくる 復習 授業で行った事の反復練習
第5回	脚本後半部分のダンス振り付け練習2	予習 脚本の流れを把握しておく 復習 授業で行った事の反復練習
第6回	ダンス振り付け練習の続きと前半の歌シーンの練習	予習 脚本の流れを把握しておく 復習 授業で行った事の反復練習
第7回	歌シーン練習の続き	予習 歌うパートの人は歌詞を頭に入れる 復習 授業で行った事の反復練習
第8回	脚本後半部分の立ち稽古1	予習 自身のはけを確認する 復習 授業で行った事の反復練習
第9回	脚本前半部分の立ち稽古2(立ち位置などの確認)	予習 後半部分のセリフを頭に入れる 復習 授業で行った事の反復練習
第10回	歌、ダンスをセットにした立ち稽古	予習 前回の授業の確認 復習 授業で行った事の反復練習
第11回	歌、ダンスをセットにした立ち稽古の直し	予習 前回の授業の確認 復習 授業で行った事の反復練習
第12回	脚本後半部分ランスルー	予習 前回の授業の確認 復習 授業で行った事の反復練習
第13回	前半後半ともにランスルー	予習 前回の授業の確認 復習 授業で行った事の反復練習
第14回	ランスルーからの直しと固め作業。	予習 前回の授業の確認 復習 授業で行った事の反復練習
第15回	最終確認作業	予習 前回の授業の確認 復習 授業で行った事の反復練習

科目名(クラス)	ヒューマンコミュニケーション1・2・3・4	開講学期		単位数	1	配当年次	1～4				
担当教員	山崎 明美	実務家教員		履修対象・条件	※詳細は履修ガイド参照						
【授業の概要】		(360文字以内)									
本学の学生は、建学の精神である「音楽芸術の研鑽の一貫教育を通じ、情操豊かな人格の形成を目途とする」を指針とし、現代社会の中で、音楽に関わる者として知的創造性を高め、人間への深い理解を持ってコミュニケーションを図ることが重要である。それによって形成される広い視野の中で、音楽表現の実践や音楽教育は生きたものになると考える。このような理念の実践の場として下記の通り必修科目〔各学年1単位〕を設定する。											
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力		思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力	○	意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢		生涯学習力	
		専攻分野中心の知識と技能			課題の発見、分析、解決力			国際感覚		社会的責任・リーダーシップ	
		広範な文化の理解	○		プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク			
【授業の到達目標】		(360文字以内)									
音楽を学ぶ者として、幅広く、深い教養を修得し、自分の音楽活動を更に高めることができる。											
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)									
単位履修の対象となる定期研究発表演奏会・演奏会・公開講座・大学短大の認めたボランティア活動に参加しポイント制で履修するものとする。											
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)									
積極的に活動に参加し、計画段階、事前準備段階、実施段階、事後処理段階において相違工夫をすることを心がける。											
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)									
授業内容を総合的に評価する。											
教科書		著者等		出版社							
教科書		著者等		出版社							
参考文献		著者等		出版社							
参考文献		著者等		出版社							
【オフィスアワー】											
①曜日(月 ・ 火 ・ 水 ・ 木 ・ 金 ・ 土) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する											
②時間帯(時 分 ～ 時 分) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する											

【授業計画の内容】	
月	内 容
4	【目標】 1) 行事参加における計画・実行の段階を、様々な個性と相互協力をし、責任を持って達成する事を体験する。 ・行事の意義を十分に理解し、積極的に参加し、協力し、本学学生として参加したことに喜びを見出す。 ・計画段階、事前準備段階、実施段階、事後処理段階までそれぞれにおいて創意工夫し、責任を持って遂行することの大切さを自覚し、友人とのコミュニケーションをはかる中において、社会人としての自覚を養う。 2) 音楽活動等の体験を通じたボランティア活動を実施することによって、社会に貢献し、人間形成の育成をはかる。 ・本学で学んだ音楽的感性、豊かな情操を学園の内外において一人一人の学生が自ら参加し、ボランティア活動等の奉仕にかかわる体験活動を通して社会性を身につける。 【単位】 ポイント制により年間12ポイント以上取得することで1単位認定する。〔尚、余剰ポイントは次年度には、繰り越さない〕 単位履修のためのポイント項目、定期研究発表演奏会・公開講座・大学短大の認めた演奏会・大学短大の認めたコンクール・大学短大の認めたボランティア活動、及び大学短大の認めた上記項目に類するもの。 〔各項目のポイント数は、別途定め告示する。〕
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
1	
2	
3	

科目名(クラス)	インターンシップ I			開講学期		単位数	2	配当年次	2		
担当教員	城之内 ミサ	実務家教員	○	履修対象・条件	パフォーマンス総合芸術文化専攻						
【授業の概要】		(360文字以内)									
PACSIは様々な職種に興味を持つ学生がいる。アーティスト、俳優、声優といった『表舞台』。プロデューサーや舞台制作関係、音楽制作スタッフ、または旅のスペシャリスト、航空業界従事者等、多岐に渡ります。このインターンシップではそれぞれの関係者のご配慮により可能となる「現場」に学生を参加させ、実際の仕事の一端を垣間みる授業を実施。											
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力		思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力		意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	○	生涯学習力	
		専攻分野中心の知識と技能			課題の発見、分析、解決力	○		国際感覚		社会的責任・リーダーシップ	○
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク			
【授業の到達目標】		(360文字以内)									
憧れの仕事の現場を通して、指導者、先輩方、スタッフ、奏者等、様々な環境に従事する人たちと間近で接し現場の一旦を垣間みることで、目指す業種への更なる興味と意欲を構築することができる。											
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)									
演習、現場での実習。											
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)									
インターンシップ先の指導者、担当者のお話に真摯に耳を傾けることを望みます。											
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)									
インターンシップ先の指導者、担当者からの課題と参加度を総合的に評価する。											
教科書					著者等			出版社			
教科書					著者等			出版社			
参考文献					著者等			出版社			
参考文献					著者等			出版社			
【オフィスアワー】											
①曜日(月 ・ 火 ・ 水 ・ 木 ・ 金 ・ 土) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する											
②時間帯(時 分 ~ 時 分) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する											

【授業計画・内容・準備学習】	
月	内 容
4	どの職種に興味があるか、あらためて自分自身で考えておく
5	
6	
7	インターンシップに向けての準備、心構え～インターンシップの実施
8	
9	
10	インターンシップの実施～小論文作成
11	
12	
1	自身で経験した職種が自分に合っているかどうかの再考
2	
3	

科目名(クラス)	インターンシップⅡ			開講学期		単位数	2	配当年次	3		
担当教員	城之内 ミサ	実務家教員	○	履修対象・条件	パフォーマンス総合芸術文化専攻						
【授業の概要】		(360文字以内)									
PACSIは様々な職種に興味を持つ学生がいる。アーティスト、俳優、声優といった『表舞台』。プロデューサーや舞台制作関係、音楽制作スタッフ、または旅のスペシャリスト、航空業界従事者等、多岐に渡ります。このインターンシップではそれぞれの関係者のご配慮により可能となる「現場」に学生を参加させ、実際の仕事の一端を垣間みる授業を実施。											
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力		思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力		意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	○	生涯学習力	
		専攻分野中心の知識と技能			課題の発見、分析、解決力	○		国際感覚		社会的責任・リーダーシップ	○
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク			
【授業の到達目標】		(360文字以内)									
憧れの仕事の現場を通して、指導者、先輩方、スタッフ、奏者等、様々な環境に従事する人たちと間近で接し現場の一旦を垣間みることで、目指す業種への更なる興味と意欲を構築することができる。											
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)									
演習、現場での実習。											
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)									
インターンシップ先の指導者、担当者のお話に真摯に耳を傾けることを望みます。											
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)									
インターンシップ先の指導者、担当者からの課題と参加度を総合的に評価する。											
教科書					著者等			出版社			
教科書					著者等			出版社			
参考文献					著者等			出版社			
参考文献					著者等			出版社			
【オフィスアワー】											
①曜日(月 ・ 火 ・ 水 ・ 木 ・ 金 ・ 土) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する											
②時間帯(時 分 ～ 時 分) 担当教員のオフィスアワーは別途掲示で発表する											

【授業計画・内容・準備学習】	
月	内 容
4	どの職種に興味があるか、あらためて自分自身で考えておく
5	
6	
7	インターンシップに向けての準備、心構え～インターンシップの実施
8	
9	
10	インターンシップの実施～小論文作成
11	
12	
1	自身で経験した職種が自分に合っているかどうかの再考
2	
3	

科目名(クラス)	オンエアプロデュースA			開講学期	年間	単位数	2	配当年次	3	
担当教員	石井弘樹 川羽田晶	実務家教員	○	履修対象・条件	パフォーマンス総合芸術文化専攻					
【授業の概要】		(360文字以内)								
※メディアに携わる人間としての意識と責任、オンエア＝番組制作を通じて、チームワークの重要性を学ぶ。 ※また、プロモーションの重要性、作品をどうして行きたいか考え、売り込んでゆくための手段を学ぶ ※前期は講師がプロデュースし任意の生番組を制作します。										
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力		思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力		意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力	○
		専攻分野中心の知識と技能	○		課題の発見、分析、解決力			国際感覚	社会的責任・リーダーシップ	
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク		
【授業の到達目標】		(360文字以内)								
・音楽業界の仕事の多岐を知ることにより、自身の将来の仕事への可能性を広げる ・音楽業界の仕事全般を学び、アーティスト、スタッフ希望の学生が、互いの仕事の理解と、気持ちの理解が図れることができるようにする。 ・アーティスト目線、スタッフ目線など、一つの側面からの視点では今の音楽業界に必要とされないことを理解する。										
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)								
講義とスタジオでの制作実践が基本ですが、随時、発言、ディスカッションも取り入れていきます。										
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)								
番組制作に関してチームワークとコミュニケーションと企画発案力が求められます。・自らが「考える」ことに重点を置いた授業です。 自分の事だけしていればいい、与えられたものをすればいいというような事ではなく、主体性、積極性に重点を置いた授業です。										
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)								
番組生放送及び制作過程における評価及び、授業への積極性と受講態度を総合的に評価する。										
教科書					著者等			出版社		
教科書					著者等			出版社		
参考文献					著者等			出版社		
参考文献					著者等			出版社		
【オフィスアワー】										
①曜日(月 ・ 火 ・ 水 ・ 木 ・ 金 ・ 土) ※赤字が実施曜日										
②時間帯 14:20～14:50 14:55～15:25 15:30～16:00 17:00～18:00 * PACS業界の先生方は全て城之内管轄でまとめる										

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	授業の趣旨と方向性 メディアとは？ ラジオの歴史 担当:石井	シラバスを参考に授業の趣旨、自分がどの立場を志望(出演側 or 演出側)なのかを考える
第2回	音楽業界とラジオ 担当:石井	シラバスを参考に授業の趣旨、自分がどの立場を志望(出演側 or 演出側)なのかを考える
第3回	ラジオ業界に求められる人材とは？ 担当:石井	シラバスを参考に授業の趣旨、自分がどの立場を志望(出演側 or 演出側)なのかを考える
第4回	音楽業界の仕事とは？ 担当:川羽田	シラバスを参考に授業の趣旨、自分がどの立場を志望(出演側 or 演出側)なのかを考える
第5回	アーティストとスタッフの関係 担当:川羽田	シラバスを参考に授業の趣旨、自分がどの立場を志望(出演側 or 演出側)なのかを考える
第6回	現場が円滑に進むためには 担当:川羽田	シラバスを参考に授業の趣旨、自分がどの立場を志望(出演側 or 演出側)なのかを考える
第7回	番組制作体験① 企画立案 担当:石井	自分がどんな番組を作りたいか、コーナー等を考える。また、自分の役割を考える。
第8回	番組制作体験② 進行台本・コーナー台本作成 担当:石井	各自、ポジションにおける作業を分担、協力
第9回	番組制作体験③ 番組素材作成 ジングル、BGM等 担当:石井	各自、ポジションにおける作業を分担、協力
第10回	番組制作体験④ コーナー収録 担当:石井	各自、ポジションにおける作業を分担、協力
第11回	番組制作体験⑤ コーナー編集・完パケ作業 担当:石井	各自、ポジションにおける作業を分担、協力
第12回	番組制作体験⑥ 選曲及び最終チェック 担当:石井	各自、ポジションにおける作業を分担、協力
第13回	番組ランスルー(リハーサル) 担当:石井	各自、ポジションにおける作業を分担、協力
第14回	生番組放送①(CwaveにてLIVE配信) 担当:石井	各自、ポジションにおける作業を分担、協力
第15回	生番組放送②(CwaveにてLIVE配信) 担当:石井	各自、ポジションにおける作業を分担、協力

科目名(クラス)	オンエアプロデュースB			開講学期	年間	単位数	2	配当年次	3	
担当教員	石井弘樹 川羽田晶	実務家教員	○	履修対象・条件	パフォーマンス総合芸術文化専攻					
【授業の概要】		(360文字以内)								
※メディアに携わる人間としての意識と責任、オンエア＝番組制作を通じて、チームワークの重要性を学ぶ。 ※また、プロモーションの重要性、作品をどうして行きたいか考え、売り込んでゆくための手段を学ぶ ※後期は学生の皆様がプロデュースし番組を制作していただきますが、生放送とスポンサーの関係から、番組内容とパーソナリティについては講師が課題を決めて、それに添って学生でディスカッションしながら制作。										
【授業を通じて修得できる力】	知識・技能	汎用的な能力		思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力		意欲・関心・志向性	問題を探究する姿勢	生涯学習力	○
		専攻分野中心の知識と技能	○		課題の発見、分析、解決力			国際感覚	社会的責任・リーダーシップ	
		広範な文化の理解			プレゼンテーション能力			自己管理能力・チームワーク		
【授業の到達目標】		(360文字以内)								
・音楽業界の仕事の多岐を知ることにより、自身の将来の仕事への可能性を見つけることができる。 ・音楽業界の仕事全般を学び、アーティスト、スタッフ希望の学生が、互いの仕事の理解と、気持ちの理解が図れるようにする ・アーティスト目線、スタッフ目線など、一つの側面からの視点では今の音楽業界に必要とされないことを理解できる。										
【授業の「方法」と「形式」】		(55文字以内)								
講義とスタジオでの制作実践が基本ですが、随時、発言、ディスカッションも取り入れていきます。										
【履修時の「留意点」と「心得」】		(160文字以内)								
番組制作に関してチームワークとコミュニケーションと企画発案力が求められます。 ・自らが「考える」ことに重点を置いた授業です。 自分の事だけしていればいい、与えられたものをすればいいというような事ではなく、主体性、積極性に重点を置いた授業です。										
【成績評価の「方法」と「基準」】		(380文字以内)								
番組生放送及び制作過程における評価及び、授業への積極性と受講態度を総合的に評価する。										
教科書					著者等			出版社		
教科書					著者等			出版社		
参考文献					著者等			出版社		
参考文献					著者等			出版社		
【オフィスアワー】										
①曜日(月 ・ 火 ・ 水 ・ 木 ・ 金 ・ 土) ※赤字が実施曜日										
②時間帯 14:20～14:50 14:55～15:25 15:30～16:00 17:00～18:00 *PACS業界の先生方は全て城之内管轄でまとめる										

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授 業 内 容	準備学習(予習・復習)
第1回	前期の番組配信を経て・・・。	予習:前期の番組を見る
第2回	生放送と収録番組の相違点	自分がどの立場を志望(出演側or演出側)なのかを考える
第3回	収録番組の編集・完パケのコツ	自分がどの立場を志望(出演側or演出側)なのかを考える
第4回	プロモーター～宣伝の仕事とは 担当:川羽田	自分がどの立場を志望(出演側or演出側)なのかを考える
第5回	作品をどうしたいか 担当:川羽田	自分がどの立場を志望(出演側or演出側)なのかを考える
第6回	作品の宣伝の方法 担当:川羽田	自分がどの立場を志望(出演側or演出側)なのかを考える
第7回	番組制作① 企画立案	自分がどんな番組を作りたいか、コーナー等を考える。 また、自分の役割を考える。
第8回	番組制作② 進行台本・コーナー台本作成	各自、ポジションにおける作業を分担、協力
第9回	番組制作③ 番組素材作成 タイトルコール、ジングル、BGM等	各自、ポジションにおける作業を分担、協力
第10回	番組制作④ コーナー収録	各自、ポジションにおける作業を分担、協力
第11回	番組制作⑤ コーナー編集・完パケ作業	各自、ポジションにおける作業を分担、協力
第12回	番組制作⑥ 選曲及び最終チェック	各自、ポジションにおける作業を分担、協力
第13回	番組ランスルー(リハーサル)	各自、ポジションにおける作業を分担、協力
第14回	生番組放送①(CwaveにてLIVE配信)	各自、ポジションにおける作業を分担、協力
第15回	生番組放送②(CwaveにてLIVE配信)	各自、ポジションにおける作業を分担、協力